文部科学省大学間連携共同教育推進事業

基幹保育者養成プログラム開発のための共同教育事業

平成27年度

事業報告書

明日の保育を支える
基幹保育者を
どう育てるか

保育者養成における保育現場との
連携協働課題を探る



hca 保育コンソーシアムあいち

名古屋短期大学、桜花学園大学、名古屋柳城短期大学、岡崎女子大学、岡崎女子短期大学
愛知県教育委員会、愛知県健康福祉部、愛知県私立幼稚園連盟、愛知県私立保育園連盟、愛知県保育士会

目　次

はじめに

事業代表者　大谷　岳（名古屋短期大学・学長）

1．事業報告

◇第1ユニット報告 …… 1

高田吉朗　事業推進責任者（名古屋短期大学・教授）

◇第2ユニット報告 …… 2

山本　將　運営委員（岡崎女子大学・岡崎女子短期大学）

◇第3ユニット報告 …… 17

内藤智徳　運営委員（桜花学園大学・名古屋短期大学）

2．パネルディスカッション

コーディネーター：近藤正春（桜花学園大学・副学長、名古屋短期大学付属幼稚園・園長）

「明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるか」（まとめ） …… 25

パネラー：伊藤園子（いとう幼稚園・園長）、北村信人（猿渡保育園・園長）

太田早津美（桜花学園大学・教授）、鳥居恵治（岡崎女子短期大学・教授）

3．保育カンファレンス

コーディネーター：小島千恵子（名古屋短期大学・准教授）

「いぼばらこども園における保育実践から考えること」 …… 30

保育実践報告者：園長　伏見範子、主任　渡辺貴美子、保育士　小宮山綾香

4．「保育者＆保育学生」交流会

コーディネーター：原田明美（名古屋短期大学・准教授）

保育士、幼稚園教諭、社会福祉協議会職員、保育学生、学生間連携支援職員 …… 34

5．ポスターセッション

・連携成果報告

「保育実践の学びを共有する大学間連携事業」 …… 36

―遠隔講義配信システムを用いた「幼児体育」授業の試み―

・保育職の魅力の伝達

①「保育職の魅力の伝達」の取り組みが保育者に与える影響 …… 37

②「保育職の魅力の伝達」の研修で、保育士が何を保育職の魅力と考え、学生に伝えたか …… 38

③保育職の魅力について　―保育士を続けて見えてきたこと― …… 39

④現任保育士からの伝達に対する学生の受け止め方 …… 40

⑤中堅保育士に対して『保育職の魅力の伝達』を行う意義について

―研修4ヶ月後アンケートからの分析― …… 43

⑥初任保育者研修カリキュラムの検討 …… 44

⑦4～6年目の保育者に『保育職の魅力の再発見』を行う意義の分析

―初任者への伝達，交流が与える影響 …… 45

⑧保育コンソーシアムあいち主催で行われた研修の内容 …… 46

・「いぼばらこども園保育実践」
「認定こども園」における食育実践
—いろいろな体験.経験を通して、豊かな心を育む保育— 47
・「保育学生間連携の実際」 50
・「海外の保育」 52
・北アメリカ：カナダ、アメリカ合衆国
・ヨーロッパ：イタリア、フィンランド、スウェーデン
・オセアニア：ニュージーランド
・ア　ジ　ア：中国、韓国、ベトナム

文部科学省・大学間連携共同教育推進事業「保育コンソーシアムあいち」 組織と運営 94
利用状況 96
会議等開催状況 97

まとめ
連携大学　新海英行　（名古屋柳城短期大学・学長）

はじめに

平成 24 年度文部科学省・大学間連携共同教育推進事業、保育分野における「分野間連携」として採択され、おかげをもちまして最終年度を迎えます。

この間を振り返っても「子ども虐待」や「育児放棄」、「自宅待機児童問題」等、保育問題が社会問題として報じられてきています。また、27 年 4 月から「子ども・子育て新制度」が導入されるなど、保育制度につきましても変化がございました。

こうしたなかで、私たちは「子どもの最善の利益」とは何か、真に「子どもに寄り添う」保育とは何か、「子どもたちとともに」育ちあえる「基幹保育者の養成」とは何かについて、連携機関が共同し、当初 8 プロジェクトを置き、それぞれの視点から調査研究を深めて参りました。

平成 27 年度からは、最終年度に 1 つの提言としてまとめるべく、8 プロジェクトを 3 ユニットに収斂させ、課題整理し検討して参りました。そして、先の「明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるか」をテーマに行いました「第 3 回シンポジウム」において、そのそれぞれの取り組みについて報告させて頂きました。「パネルディスカッション」や「保育カンファレンス」におきましては、保育現場や養成校の立場から、ご参集の皆様から連携強化について、貴重なご意見をそれぞれいただきました。企画最後の「現場保育者＆保育学生」交流につきましても、学生の疑問や不安に一つ一つお答えいただくなど活発なご議論をいただき、学生たちからは「とても有意義な一日であった。」との声が多数ございました。

この「第 3 回シンポジウム」のまとめをもって、平成 27 年度の事業報告とさせていただきます。

本年度事業をまとめるにあたり、愛知県はじめ各保育団体の皆様方のご理解とともに並々ならぬご支援を賜りましたことにつき、あらためて厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月吉日

事業代表者
大　谷　　岳
（名古屋短期大学・学長）

1．事業報告

本事業の「保育コンソーシアムあいち」の取り組みは、平成 24 年の採択以来 8 プロジェクトを置き、それぞれの視点から調査研究を行ってきました。平成 27 年度の取り組みをまとめるべく、8 プロジェクトの取り組みを 3 ユニットに収斂させました。

その平成 27 年度事業報告として、その 3 つのユニットの取り組みについて報告をいたします。

第 1 ユニットでは、「基幹保育者」の定義確認とともに、「基幹保育者養成」における養成校における「教育カリキュラム」のあり方や、卒業後の「研修カリキュラム」のあり方について検討してきました。

第 2 ユニットでは、共同教育講座開講の可能性や教材共有の課題について、第 3 ユニットでは、学生間連携と保育学生への自立支援の取り組みの事業について、現場保育活動を中心的に支える「基幹保育者養成の課題」について検討してまいりました。

それぞれの取り組み内容は次のとおりです。

◇第 1 ユニット報告◇

基幹保育者養成と学びの保障　― 在学中から始まる基幹保育者養成の課題 ―

代表者　高田吉朗　事業推進責任者　（名古屋短期大学　教授）

本事業「基幹保育者養成プログラム開発」でいう「基幹保育者」とは、「保育に関する専門的知識・技術・技能」と一定期間の職務経験を有する「保育経験」を持った専門的人材であります。

ここでいう基幹保育者とは、「特定の職務と結びつけて理解されるのでなく園のリーダーにふさわしい「主導的役割」を果たす保育者を指す。」としました。

また、養成校の教育課程の修了をもって、ただちに基幹保育者になれるものではないと考えています。卒業後保育職に従事し、子どもや保護者との保育活動を通じ、「子どもの最善の利益」の実現のために「不断の自己研鑽」が求められています。

こうした基幹保育者を養成するにあたっては、先ずは在学中における「資格・免許」取得のための教育課程（幼稚園教諭・保育士養成教育課程）の授業改善（FD）とともに、現場ニーズに対応した「ジェンダー」、「ライフサイクル」、「異文化理解」等をキーワードとした授業科目の充実も課題としてきています。

平成 27 年度本ユニットでは、基幹保育者養成にとって最も重要な期間である就職直後の新任から 7 年目辺りの保育者への学びの支援「研修プログラム開発」として「初任」と、「5 年目（4 から 6 年目）」試行的「保育者研修」を実施し、そのカリキュラムの有効性の検証を行ないました。

今後は、在学中から卒業後へのスムーズな学びの支援の連動が「基幹保育者養成」の主要課題になると考えます。

そのためにも、常に保育現場やステークホルダーの方々と連携し、助言を戴き保育者としての誇りとやりがいを持つ輝く保育者を育てるべく、最終年のプログラム開発にあたり一層の現場協働を推進いたします。

平成27年度　第2ユニットの取組

保育系大学間連携共同教育の実際
－「海外の保育」の教材化 －

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
山本　將

１．　はじめに

本事業では、地理的に離れている連携大学が共同教育を行うため、遠隔講義システムやLMS（ラーニング・マネージメント・システム）等を導入した。第2ユニットは、これらについて、活用例の調査、技術的な課題の検討、試行的な活用を行い、その結果を踏まえて、連携して実施する授業等において、導入したシステムを有効に利用できるよう整備して運用する役割を担ってきた。また、最終的に運用の結果についてまとめを行い、保育者養成の中でこれらのシステムをどう利用できるのかという観点から、各システムの活用方法について提言できるよう取り組んできた。

しかし当然ながら、このような機器やシステムは、それを通して学生に提供できる内容があって初めて生きてくるものである。その意味で、平成27年度に行った「海外の保育」の教材制作は重要な取組だったと考えられる。この報告では、その方法と内容および意義を中心に述べる。

２．　先進的な機器の導入

まず、導入された機器やシステムについて概要を説明しておく。

本事業では、共同教育のために連携校を高速の専用回線で結び（図1）、授業や講演等の映像をリアルタイム、またはオンデマンド型で配信が可能な以下のようなシステムを導入した。

a. 遠隔講義システム
b. 講義録画システム
c. 教育支援システム

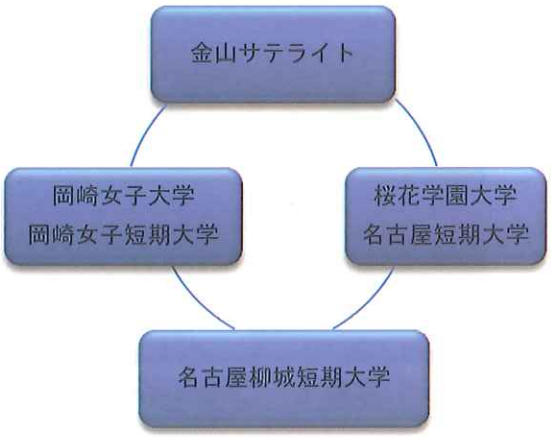


図 1　大学間ネットワークのイメージ

専用線は、映像配信だけではなく、高速ファイル転送およびファイル共有にも使用している。この機能は、金山のサテライト教室内にあるコンソーシアムの事務室にサーバーを置いて実現されており、各連携校で制作した映像番組を金山に集約し、金山のスタッフがそれをネット上にアップロードする際に必要なものである。

a. 遠隔講義システム

遠隔講義システムは、専用線によって、連携大学間で授業の映像・音声を配信するものである。高速の光回線により、双方向で映像と音声の送受信を行うことができる。

各連携校に固定式の装置１セットと、移動式の装置各３セット整備した。固定式は、収容人数の大きい階段教室に整備された。また、移動式は、実技系の教室等に専用線のコンセントを設け、必要な時にケーブルで接続して使用する。自由な位置から撮影を行えるようにキャスター付きのラックに、送受信装置本体やカメラ・マイク、映像の変換装置などを収めてある。また、金山のサテライト教室にも一部機材を配置した。

これらの装置は専用線上にある任意の装置と互いに接続できるため、学内で講演などが行われた場合にも、学内の別の教室でその内容を視聴することができる。本年度も9月に名古屋短期大学を会場とする「アレルギー大学」の講座が実施され、その講義を各連携校に本システムで配信した（写真1）が、名古屋短期大学でも学生を一つの教室に収容できず、学内でも遠隔講義の形をとって別教室の学生に受講させている。



写真 1　「アレルギー大学」の配信授業の様子 (岡崎女子大学・短期大学 6212教室)

遠隔講義システムを使っての「アレルギー大学」の受講は、「保育コンソーシアムあいち」の連携校で毎年のプログラムとして定着したと思われる。自分の所属する大学では開講されない講座を聴くことができるので、好評である。本年度も連携校全体で316名（アンケート回収数）が受講したが、全体の97%にあたる306名が「受講して良かった」と答えている。また、そのうち225名が遠隔講義システムを通しての受講者であったが、176名が「遠隔講義は他大学で開講している講座が受講できて良い」と答えている（表1）。

回答者 アレルギー大学受講者のうち 名古屋短期大学での遠隔講義受講者 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の遠隔講義受講者 名古屋柳城短期大学の遠隔講義受講者 回答数　225名	全くその通りである	概ねそうである	どちらとも言えない	あまりそうでない	全く違う	無回答
全体的に見て画面は見やすかった	72	106	33	10	0	4
送られてくる講師の声は明瞭で聞き取りやすかった	93	98	26	6	1	1
遠隔講義は他大学で開講している講座が受講できて良い	55	121	43	5	0	1
またこういった遠隔講義の講座があれば受講したい	45	109	56	11	2	2

平成27年9月6日実施のアンケートより

表 1　アレルギー大学受講者に対するアンケートの結果

遠隔講義システムは、テレビ会議システムとして、連携校の学生の合同での活動にも役立っている。学生の共同企画による活動は、これまで何度も実施されてきたが、その内容や予算等について学生が話し合うために毎回活用されてきた（写真2）。なお、何らかの形で事前に学生同士が直接会う機会があると、その後のテレビ会議でスムーズな話し合いができることが、第3ユニットの教職員から報告されている。



写真 2　学生による大学談のテレビ会議

b. 講義録画システム

講義録画システム（写真3）は、教員の顔や姿とパワーポイントのスライドの画像を、同時に収録できるマルチトラックの録画システムである。画像は、話す教員の姿を撮影した音声付の動画と一定の間隔で取り込まれたスライドの静止画が同期した形で保存される。



写真 3　講義録画システム

このシステムは機能を追加したwindowsのパソコンとして操作できるので、その操作方法は覚えやすいものである。ただし、遠隔講義システムと組み合わせて使う場合には、その接続方法にわかりにくいところがある。画像の保存形式や映像信号の種類の違いなどについて、一般の教職員には十分な知識がないことが原因だと思われる。運用時にある程度理解している教職員の手助けが必要となる場合がある。



写真 4　録画ソフトの画面

うまく接続ができれば、実際の講義の収録は簡単である。カメラやマイクからの信号とパソコンからのスライドの映像信号の入力が確認できれば、画面上のボタンを押すだけである（写真4）。

今回導入した機材では、カメラからの入力映像がコンポジット信号に限られるため、動画のクオリティーは決して高くないが、スライドについては鮮明な画像が保存されるので、この特性を活かして講義の収録や教材の作成を行うと良い。「海外の保育」の教材は、すべて各連携校に配置された遠隔講義システムと講義録画システムを接続して制作した。

収録のみをする場合は、遠隔講義を行う場合と若干異なる設定をする必要があるが、遠隔講義システム本体と付属するカメラやマイクを利用して、映像と音声を講義録画システムに送ることができるので、教材作成のために新たな機材を準備する必要はなかった。

c. 教育支援システム

本取組では、インターネットを通して、コース（授業）ごとに、教材配布、小テスト、レポートの添削、掲示板による意見交換などができる教育支援システムであるmanaba（写真5）を導入した。連携校では、保育系の全学生・教職員を登録して活用をしている。



写真 5　manaba ログイン画面

作成した映像教材を、この manaba にアップロードすると、学生はインターネットを通していつでも見ることができるようになる（オンデマンド型の映像配信）。パソコンがなくても、タブレットやスマートフォンからも教材を動画として視聴でき、視聴後に教員が作成したアンケートに web 上で答えたり、課題を提出したりすることができる。

３．　本事業における海外の保育についての調査研究

本事業では、本事業開始後、保育の現状や保育者養成について海外の実情を調査した。調査期間は、平成 24 年 11 月から平成 26 年 2 月までであり、調査した国は 10 ヶ国（14 日程）であった。この調査結果は、本事業の中間報告書で発表されたが、その内容は、オンデマンド型で配信する動画番組の題材として適当なものであった。そして、容易には知ることのできない海外の保育の現状について、写真や音楽を用いながら紹介すれば、学生への効果的な教材になると考えた。

これらの調査は、各連携校の教職員から出された国ごとの計画案によって行われたので、その目的や観点は調査した国によって若干異なる。しかし、それぞれの教職員の専門性を活かした調査になっている（表 2）。

地域	国	担当者	開始日	終了日	録画教材	ポスター
北アメリカ	カナダ	小嶋（名）、嶋守（名）	H25.9.12	H25.9.19	●	●
	アメリカ合衆国	大岩、山田、山本（岡）	H25.2.14	H25.2.21	●	●
ヨーロッパ	イタリア	米窪、平尾（岡）	H26.2.13	H26.2.23	●	●
	フィンランド	水落、山脇（柳）	H25.3.4	H25.3.11	●	●
	スウェーデン	岡林、野津（名）	H26.2.3	H26.2.9		●
オセアニア	オーストラリア	高橋（名）	H24.11.18	H24.11.24		
	ニュージーランド	高橋（名）	H25.2.17	H25.2.24		●
アジア	中国	荻原はるみ（柳）	H25.10.21	H25.10.26	●	●
	韓国	横井（柳）、鈴木（岡）	H25.2.17	H25.2.21		●
	ベトナム	野津（名）	H25.2.20	H25.2.24		●
		野津、山下（名）	H25.3.17	H25.3.21		
		原田明美（名）	H25.3.21	H25.3.24		
		小川（名）	H25.3.24	H25.3.28		
		野津（名）	H25.3.27	H25.3.31		

開始日・終了日は訪問調査の実施期間を示す。
赤丸はシンポジウム会場での動画教材の公開、青丸はポスター発表を示す。

表 2　本事業による海外調査と平成 27 年度シンポジウムでの発表方法

4．教材制作の実際

教材の制作と配信は、すでに述べたように、導入した三つのシステムの機能を組み合わせて行った（図2）。

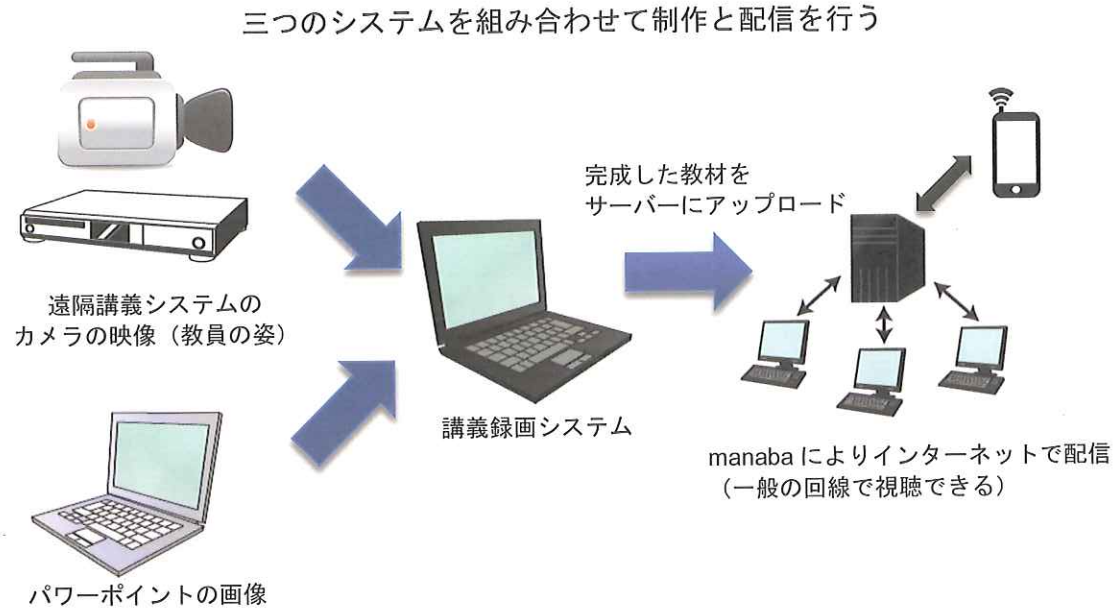


図 2　教材制作から配信までの流れ

a.　スライド（パワーポイント）の作成

教材制作についての依頼書を作成し、各連携校の窓口を通して海外調査を行った教職員の各グループに依頼した。また、教材に統一性を持たせるために、「保育コンソーシアムあいち」のロゴが入ったスライド用テンプレートを第2ユニットの委員が作成した。各教材のタイトルについても、調査地域を大きく4つに分け、それぞれの名称を「北アメリカ編　その１　カナダ」という形で統一して表記することにした。また、一つの国について30分の番組を制作するという前提で、それに見合った枚数のスライドの作成をお願いした。講義録画システムの特性上、スライドを軸にして、それを解説する教員の姿を録画する形で進めた方が、無理なく教材制作をすることができると考えたからである。

b.　録画

スライドができたら、それをモニターに映し（写真6-7）、教職員がその内容を説明する様子をカメラで撮影し、その映像信号を講義録画システムに送る。この時、パソコンから送られるスライドの画像の信号も分岐して同システムに送ると、一定間隔で同システムに取り込まれる。スライドは静止画で取り込まれ、その取り込みのタイミングが、教職員の動画に関連付けられる。これによって、教職員の話に合わせてスライドが進んでいく形の動画教材ができる。



写真 6　イタリア編収録の様子　ゼミ室に機材を設置



写真 7　左がスライド（パワーポイント）　中央が解説をする教職員の姿を映すモニター



写真 8　アメリカ編の収録の様子

講義録画システムと言っても、基本的にはパソコンに特別なインターフェースとソフトウェアを組み込んだものである。その装置に 2 系統の映像信号と 1 系統の音声信号を入力することになる。この制作では、遠隔講義システムに付属するカメラやマイクを使ったので、2 台のモニター（写真 8）以外には、特別に用意すべき機材はなかった。しかし、機材間の配線は、映像信号の変換や分配のためにやや複雑になっている（写真 9）。



写真 9　機器の配線

c. 編集

講義録画システムには、専用の編集ソフトウェア（写真10）が用意されている。しかし、このシステムでは、二つの映像が同時に収録され、関連付けられるため、収録後に2系列の映像の流れを別々に操作することは困難である。そのため、編集作業は単純に不要部分をカットするものになるが、日常的に映像教材を制作するならば、これくらいシンプルな編集作業に限った方が良いと思われた。

だが、たとえば現地で撮ってきた音楽等がある場合には、これを収録後の編集で教材に組み込みたいという要望が出てくる。その場合には、その音楽を予めスライドの方に組み込んでおき、収録時にそれを再生して、スライドの中身として聴かせる。今回制作した「イタリア」では、動画教材の中で子どもが演奏した音楽を再生したかったため、再生したい音声ファイルをスライドに貼り付けておいて、教員が説明の中で画面上のボタンを押して音を出すという方法をとった。この時、当然ながらパソコンの音声を講義録画システムにライン入力しておく必要がある。

事後の編集作業が限定的であるから、重要なのは、収録前に準備を十分に行うことであり、収録をなるべく一回撮りで済ませることである。完璧なものを仕上げようとするよりも、むしろ次々に新しい教材を作成していくという考え方が良いと思われる。



写真 10　編集画面

d. 配信

完成した動画教材は、各連携校から金山に開設したサテライト教室にある事務局に送る。前述のように、ここにファイルサーバーを設置してあり、高速の専用線で転送・共有することができる。サテライト・オフィスの担当者が、それらの教材ファイルを取り出して、manabaにアップロードする。

必要なコメントと共に動画ファイルをmanabaに登録すると、教材の一覧をログインした学生に示すことができる（写真11）。学生は画面上に現れる再生ボタンをクリックして、それぞれの動画を好きな時に見ることができる。これらの視聴には、専用回線は不要である。一般のインターネットが利用可能であれば、どこにいても視聴可能である。また、パソコンの他、タブレットやスマートフォンでも視聴できる。

すでに本コンソーシアムでは、「アレルギー大学」の了解を得て、平成27年度の同講座の受講学生に初級講座のすべての講義を動画教材化して提供しており、学生は繰り返し講義を視聴することができるようになっている。また、これまでにも幾つかの動画教材の試行的な制作を行ってきた。しかし、本事業のオリジナルであると同時に、一連のまとまった形での動画教材の制作と配信は、このプロジェクトで実現したことになる。



写真 11　manaba によるオンデマンド配信

e.　制作についての反省点（全体）

・ 先進的な機器は進歩が早い。今後はより安価で多機能なマルチトラックレコーダーがパソコン上で実現できるようになると思われる。収録そのものが容易で身近なものとなり、研究室から個々の教員が教材をアップロードする時代になると思われる。したがって技術面では、個々の機材より、インフラの整備とその維持が課題になると想定される。一方今後も変わらないのは、内容面についての連携した共同開発の重要性である。今回の制作でも、そういう点での十分な準備と共同の体制をとることの重要性を痛感した。

・ 実際に制作をしてみると、機器の接続や編集方法などについて、ある程度習熟したスタッフが必要だと感じた。ただし、連携校が共同で制作を行う場合には、自分の所属する大学のスタッフだけではなく、他大学の機材に詳しいスタッフからもアドバイスを得ることができるので、作業を進める上で、助けられることが多かった。

・ 動画の保存形式や映像信号の違いなど、普段はあまり聞き慣れない用語が、システムを活用する場合には重要になる。多様なメディアの活用には、パソコンやネットワークの知識だけでは不十分だと感じた。

・ 今回の教材（写真12）は、平成28年3月27日に桜花学園大学・名古屋短期大学で開催される「保育コンソーシアムあいち」第三回シンポジウムで、海外調査のポスター展示と共に公開されるが、公開前から教職員や学生の関心が高い。共同教材の制作には、養成教育での位置づけを考えた上でのテーマの設定が重要だと感じた。

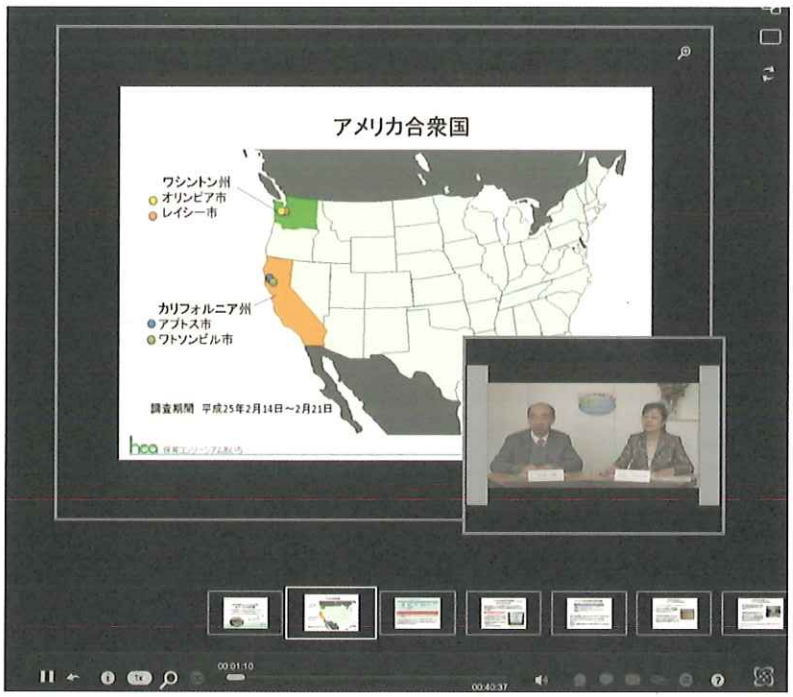


写真 12　配信された動画教材（北アメリカ編　その１　アメリカ合衆国）
画面上でスライドの映像と解説をする教職員の姿を同時に見ることができる

5. 保育者養成における遠隔教育（e-learning）の意義（「アメリカ」の制作を通して）

a. 現場の臨場感をどう伝えるのか

今回の海外調査は、当初から教材を制作することが主な目的だったわけではない。とは言え、十分な写真を準備し、ムービーを用いて、もっと臨場感を味わえるものにすれば、学生により興味を持たせる教材ができたと考えられる。特にアメリカでの調査は、保育者養成と質保証の取組がテーマになり、州の保育関係の部署や大学、そしてHead Startなどの担当者や教員へのインタビューが中心となった（写真13-16）。訪問先が保育現場を中心としたものではないため、保育の雰囲気が伝わらない写真が多く、このような題材の場合、何らかの工夫が必要だと感じた。

たとえば、現地でのインタビューなどの撮影も考えて進めるべきだったと思う。マルチメディアの特性を活かした教材ができるよう、仮にその予定がないときでも、先進的なシステムの活用を前提に、調査研究の内容を学生に還元する意識を常に持つことが大切だと感じた。









写真 13, 14, 15, 16　アメリカの調査でのインタビューの様子
保育の現場や養成校の臨場感をどう伝えるのか？そのための技術も重要になる。

b．保育者のステップアップ型養成プログラム

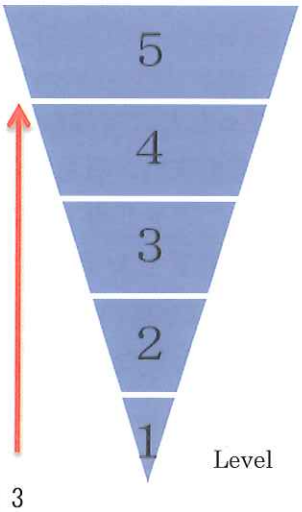


図 3
段階型保育者養成のイメージ

今回の訪問調査では、アメリカにおける保育の質的向上と子育て支援への真剣な取り組みがわかった。特に保育者の専門性と社会的な地位向上についての強い姿勢を感じた。

そして、そのことを実現するために、段階型の保育者の知識や技能の基準が定められている（図 3)。ワシントン州では、2009 年に DEL(Department of Early Learning)という部署が、この基準を発表している。今回のもうひとつの調査地、カリフォルニア州では、６段階の基準が示されており、ほぼ同時期に各州でこのような基準が定められたようである。

定められたレベルのそれぞれが、保育現場での各職務に対応しており、こうした基準によって、各保育施設の管理者はもちろん、保育者自身が保育に必要なスキルを確認して、保育の質の向上に努めるよう求められている。

また、この基準は、積み重ね型の資格制度（stackable certificates）にも対応しており、保育者になることを希望する者に広く門戸を開くと同時に、保育者が働きながらさらに学び、より高度な段階へとステップアップしていくことを可能にしている。

しかし、こうした制度改革の中で、コミュニティ・カレッジ（短期大学）の役割は重要である。保育者になるための入り口となり、その後の学びを保証するのがコミュニティ・カレッジの役割になるからである。そのためには、基礎からの段階的・継続的な教育プログラムの開発が必要である。ワシントン州では、これを州と養成校等が協力して行っている。つまり、保育の現場で中心的な存在となる保育者を養成するために、養成校が連携して、職務経験を重ねながら学び続ける仕組みを実現しており、高等教育機関との連携が欠くことのできないものになるわけである（「アメリカ」の資料・ポスター発表参照)。

c．保育者養成と e-learning

アメリカのコミュニティ・カレッジでは、働きながら学ぶ学生は多い。保育・幼児教育のプログラムで、ハイブリッド(hybrid)型プログラム（対面授業と e-learning を組み合わせたもの）と呼ばれる学修の方法を提供するようになってきている。学ぶ機会を広く提供することは、元々コミュニティ・カレッジの役割だが、だからこそ今日 e-learning は重要なものになっている。インターネットの普及と共に、保育者養成においても実質的に遠隔教育が機能し始めていると言えるだろう。

また、このような近年の新しい養成プログラムの実施に伴い、すでに現場で働いて

いる保育者のための研修プログラムも提供されているが、こちらの方にも、対面型やハイブリット型の他、完全なオンライン(completely online)型のコースが用意されている。さらに、現場の保育者がさらにレベル・アップできるよう、プログラムが用意されているが、その場合にもハイブリッド型等が重要な学修の形態となると思われる。現職者には、働きながら無理なく学修を続けられるような配慮が必要だからである。また、保育者が自己研修をするための教材についても、前述のレベルごとに、WEB上で整備が始まっている。動画による教材も配信しており、内容面でも充実したものに成りつつあると言えるだろう。

6. 結論

アメリカでの調査は、同国における保育者養成の新たな取組の調査であり、かつ、その取組におけるe-learningの活用についての調査にもなった。しかし、アメリカのコミュニティ・カレッジは州立であり、養成校の多くが私学である日本とは状況が異なっている。また、今回調査したアメリカの取組は、前述のように保育者への入門としての学習から就職後の高度な研修までを一貫したものとしてプログラム化し、州と養成校等が協力してその学びを支援するものである。つまりそれは、これから保育者になろうとする者から現職の保育者までを対象にした取組である。その規模の大きさから、実施にはインターネット等の活用が不可欠である。そして、インターネット上で使用する教育支援システムについては、州内のすべてのコミュニティ・カレッジで共通のものを使い、研修には州のオンライン学習システムを合わせて活用しているので、情報インフラにも大きな差がある。

このような違いはあるが、保育にかかわる人材を広く募集し、長期的な視野を持って保育者を養成していく仕組を考える上で、アメリカの事例は参考になると思われる。その事例を見れば、事業を行う団体やシステムの規模は異なっていても、こうした共同教育プログラムの実施には先進的なシステムの活用が必要であり、その場合、重要な事の一つが今回行ったような共通教材の作成であることも良くわかってくる。だが同時に、アメリカの事例は、こうしたシステムを活用する場合にも課題があり、様々な工夫が必要であることを示している。これらの課題については、さらに第2ユニットとして検討していく必要があると考えている。

以上

◇第３ユニット報告◇

学生間連携から見えたもの　―　学生のもつ資質・能力をどう開花させるか　―

代表者　内藤智徳　運営委員　（桜花学園大学・名古屋短期大学　学務部長）



保育学生の学生生活の送り方、とりわけ課外活動に取り組む姿勢が、学生生活の満足度に、さらには保育現場における保育者としての成長にも少なからず影響を与えている。

しかし、最近のキャンパスでは、過密な授業日程や経済的な理由等から課外活動が活発と言える状況ではない。

そこで、連携大学の学生間共同行事やステークホルダーとの連携協力を通じて、課外活動の活性化を図りつつ保育者養成校における自主的活動への支援の在り方を模索してきた。

この学生間連携事業を通して、学生に自律的な意識が徐々に芽生え、活動２年目に桜花学園大・名古屋短大では、「コンソーシアム実行委員会」を独自に立ち上げることができた。

このように、保育学生の自律的活動が、学修や就職活動等に対して主体的に取り組む姿勢を育み、保育現場で求められる人間力の涵養にも繋がっていくことを、学生間連携事業の活動成果から報告した。

第3ユニット報告

学生間連携から見えたもの

ー学生のもつ資質・能力をどう開花させるかー

桜花学園大学
名古屋短期大学
内藤　智徳

はじめに

今日の保育者養成校において、正課教育とともに課外活動における社会人基礎力の向上が叫ばれているにもかかわらず、保育学生は免許・資格取得のための授業や実習等で課外活動の時間が制約され、自律的活動が停滞しているのが現状である。

そこで、2012年度からスタートした「基幹保育者養成プログラム」開発を目指す「保育コンソーシアムあいち」（連携校ー名古屋短大、桜花学園大、岡崎女子大、岡崎女子短大、名古屋柳城短大）は、学生間連携事業の取り組みを通して、学生に集団活動における人間関係作りを体験させ、課外活動の活性化を図りつつ、保育者としての資質・能力の向上を目指した。

保育学生の現状

◇学生生活に時間的なゆとりがない
◇サークル・委員会活動の低調化ーコミュニケーション力、人間力の欠如
◇目標に向かって仲間とやり遂げる経験が少ないー達成感、充実感
◇経済的困窮者の増加ー課外活動とアルバイト
◇実習等での不適応学生の増加ー社会性の欠如
◇すぐに心が折れる学生の増加
◇友人との希薄な人間関係
◇帰属意識の欠如
◇物事に取り組む姿勢が弱いー就職活動にも影響
◇子どもと関わる機会が少ないーボランティア、自主実習、インターンシップ
◇社会の動きへの関心が低いー教育・保育観、職業観

学生間連携事業のスタート

- 2013年度は、学生間連携事業の趣旨と具体的な目標を確認した。実質1年目ということで、各大学で実施している行事も含めて実現可能な範囲で事業計画を立てた。
- 大学間の連絡は、窓口が就職・学生支援担当ということもあり比較的スムーズに行った。
- 学生間の会議日などの連絡については、大学行事の違いから日程調整に大変苦労した。テレビ会議は、日常的なつながりがあってこそ効果的な活用ができる。
- 学生の打ち合せや合同練習には時間的な制約があり、既存の行事に連携校が共同参加するという形をとった。

学生間連携事業の骨子

交　　流：仲間づくり、他大学・他学生を理解

実　　践：保育現場・地域での学修成果の発表

進　　路：保育者の卵として課題を共有

自主研修：主体的な学びの機会、共同作業

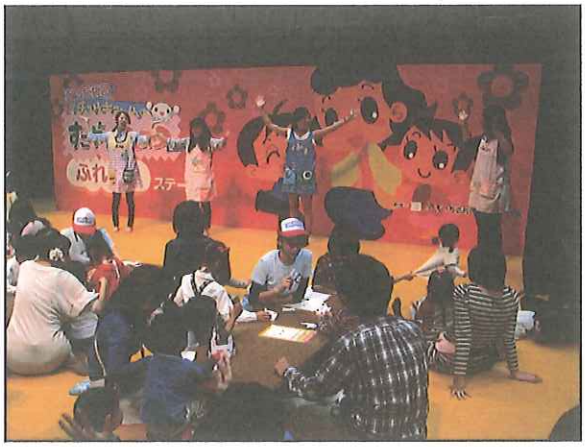
2013年度の取り組み

実施日	企画名	会場	参加者
8月1日	岡崎五万石おどり	岡崎康生通り	366名
10月19日～20日	中京テレビ「すこやかフェスタ」	ガイシホール	140名
12月1日	お江戸でダンス	岡崎城能楽堂	75名
1月15日	合同就職説明会（三河地区）	岡女・岡短	271名
2月25日	合同就職説明会（名古屋・尾張地区）	柳城短	274名
3月1日～2日	保育学生合同セミナー＆保育技術合同発表会	桜花・名短	65名









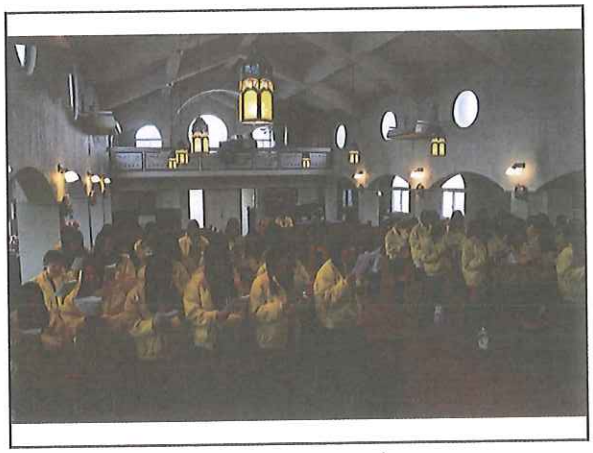


2014年度の取り組み

実施日	企画名	会場	参加者
8月 4日	スポーツ交流会(表現あそび、ゲーム等)	桜花・名短	75名
12月14日	クリスマス交流会(お菓子作り、合唱等)	柳城短	53名
2月13日	合同就職ガイダンス	桜花・名短	190名
3月 7日～8日	保育学生合同セミナー＆保育技術合同発表会	桜花・名短	54名












保育コンソーシアムあいち連携事業
保育学生合同セミナー＆保育技術の合同発表会

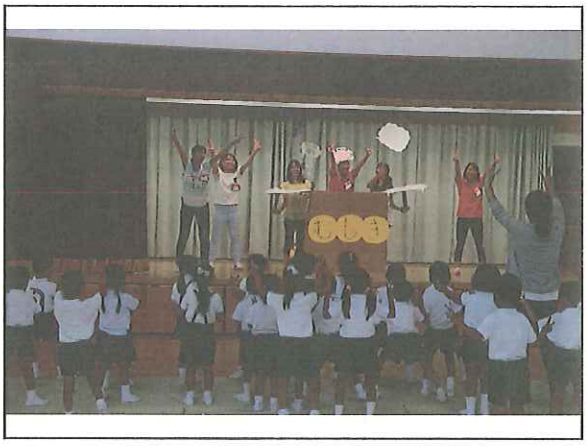
2015年度の取り組み

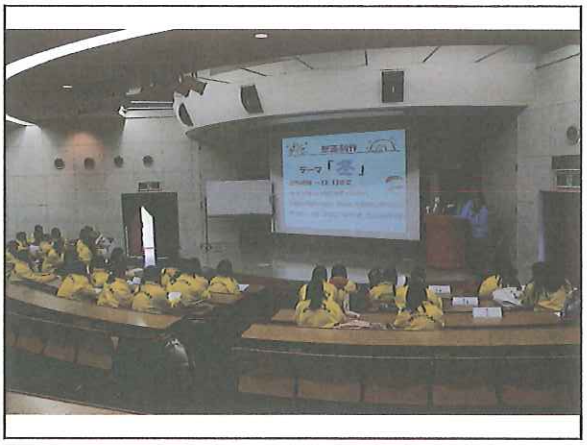
実施日	企画名	会場	参加者
5月6日	春季交流会(ゲーム＆スポーツ)	桜花・名短	103名
8月18日～19日	付属幼稚園発表会(Ⅰ)	名短大付幼稚園	28名
8月28日	付属幼稚園発表会(Ⅱ)	第一早蕨幼稚園	17名
12月19日	冬季交流会(壁面制作＆もちつき)	岡女・岡短	55名
2月19日	合同就職セミナー	柳城短大	183名
3月5日～6日	保育学生合同セミナー＆保育技術合同発表会	桜花・名短	100名














A
おめでとう






保育コンソーシアムあいち連携事業
保育学生合同セミナー＆保育技術の合同発表会


保育コンソーシアムあいち連携事業
保育学生合同セミナー＆保育技術の合同発表会



学生の変化

◇他大学を理解する
◇自己を知る
◇交流の大切さを自覚する
◇学びの大切さを自覚する
◇共同作業の楽しさ、大切さを知る
◇保育者の卵としての自覚が芽生える
◇やる気・意欲を喚起する－学生生活への前向きな姿勢
◇自分で企画・運営する楽しさを知る

取り組みを通して

◆学事日程の違いもあり連携事業の難しさを実感した。そのような中で参加した学生は、アンケートで「交流できてよかった。また参加したい」という満足度を示している。改めて交流の機会を提供する必要性を痛感した。

◆「保育学生合同セミナー＆保育技術合同発表会」を、学生自身の企画・運営で実施した。保育学生として、学生生活での積極的な姿勢や仲間づくの大切さ、共同作業や話し合いを通じて、自律的に学ぶ喜びを体験した。

◆この連携事業に影響を受けて、桜花学園大・名古屋短大と柳城短大では、独自の「コンソーシアム実行委員会」等が組織され、保育学生の息吹を感じることができた。今後はステークホルダーと連携協力して、保育者の卵としての自律的な活動を保障する必要がある。

◆この連携事業を通して、学生生活で主体的に取り組むことが、保育現場で求められる「保育者力」の涵養に繋がっていくことを再認識した。

ご清聴ありがとうございました。

２．パネルディスカッション

明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるか

本事業の目的でもあるテーマについて、幼稚園・保育所それぞれの保育現場から、あるいは保育者養成校の大学・短期大学の立場からご発言頂き、その課題について深めることとして企画した。

コーディネーター：近藤 正春　（桜花学園大学副学長・名古屋短期大学付属幼稚園長）

パネラー

幼稚園の立場から

愛知県私立幼稚園連盟会長　　伊藤 園子　（いとう幼稚園園長）

保育所の立場から

愛知県私立保育園連盟副会長　北村 信人　（猿渡保育園園長）

養成校の立場から

大　学　：　桜花学園大学　　太田 早津美　（保育学部教授）

短期大学　：　岡崎女子短期大学　　鳥居 恵治　（幼児教育学科長教授）

討論では、幼稚園・保育園から、保育現場が保育者養成に期待する課題や保育者像について提起がありました。

また、保育者養成校の大学や短期大学からは「基幹保育者養成」にとっては、なお一層、保育現場との連携が必要であるとの発言がありました。

フロアーも含めた討論から、本事業の「基幹保育者養成」という共通の目的と課題は、養成校のみの課題でもないし、現場だけの課題でもない、現場と養成校の共同事業として連携関係を密にし、「明日の保育を支える人材づくり」を目指そうと確認されました。



パネルディスカッション「明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるか」（まとめ）

桜花学園大学　近藤正春

Ⅰ　テーマの解題：テーマに係る論点（課題提起）

当日は、パネラーの発題と参加者を含めたテーマに係る討論の時間を多くとることを優先課題としたため、テーマにかかわる論点の提示はシンポジウムの要綱上の文書提示に留めることとした。その関係でテーマの解題が必ずしも十分に行え得なかったことをふまえ、テーマに係る論点についてあらためて提示しておきたい。

１、「基幹保育者」をどう理解するか

ユネスコ「教員の地位に関する勧告」（1966年）は、「教職は、専門職と認められるものとする。教職は、きびしい不断の研究により得られ、かつ、維持される専門的な知識及び技能を教員に要求する公共の役務の一形態であり、また、教員が受け持つ生徒の教育及び福祉について各個人の及び共同の責任感を要求するものである」と定義している。この勧告の適用範囲は「保育所、幼稚園、初等学校、中間学校又は中等学校（技術教育、職業教育又は美術教育を行なう学校を含む。）のいずれを問わず、中等教育段階の修了までの公私の学校のすべての教員に適用する」と確認されており、幼児期の教育・保育を担う幼稚園、保育所等の教諭、保育士の全てに適用される定義として勧告されているものといえる（子ども子育て支援新制度施行後は、適用範囲に「保育教諭」も含めて考えることは当然といえよう）。

ここでは、幼児期の教育・保育を担う教諭、保育士等の総称として「保育者」と呼称し、この勧告で示されている「専門職的自己開発」能力と「個人及び共同の責任」意識の高い専門職としての保育者を「基幹保育者」として理解しておきたい。

「教員の地位に関する勧告」で提示された専門職としての教職の定義は、教員の全てが現実態として実現している姿ではなく、実現されるべき在るべき姿として提示されたものと理解すべきといえよう。「基幹保育者」とは、その意味で、専門職としての在るべき姿を体現している「保育者」として理解することができる。

「勧告」が出されて以降、教師教育に関する政府間会議等が数多く開催され、「勧告」の「専門職」としての「教職」の実現に関する課題が検討されている事実にそのことは示されているといえる。

そのような意味において、「専門職」としての「勧告」の定義を体現している保育者を「基幹保育者」として理解することをまず提起しておきたい。

２、「基幹保育者」養成のための課題をどう考えるか

（１）「基幹保育者」養成の基本原理をどう考えるか

「勧告」以降の教師教育に関する政府間会議がOECDやユネスコにおいて多く開催されているが、そこで、完全に意見の一致をみたとされている考えが「就職前教育と現職教育の統合」という原理である。

そこでは、養成教育は、「就職前教育」として定義され、「教師教育が就職前の準備にはじまり、教師の職業上の生涯を通じて継続する連続的、統一的な過程として再編成されることを保障する総合的な施策が必要である」として、「就職前教育と現職教育とが統合されなければならず、生涯教育とリカレント教育の必要性が助長されなければならない」とされている。（ユネスコ第35回国際教育会議「教師の役割の変化と教職の準備、現職研修に関する勧告」1975参照）

（2）養成教育（「就職前教育」）段階の課題をどう考えるか

上述した基本原理との関係で提起されている養成教育段階の課題は、生涯研修の一環としての養成教育の位置づけと計画の重要性である。

具体的には、「教師としての人格を向上させることの重要性、および、継続教育と自己教育に対するレディネスと能力を開発することの重要性」（前掲ユネスコ国際教育会議「勧告」）が示されている。換言すれば、「専門職的自己開発」の総合的な基礎力の養成の重要性といえる。

養成教育段階の課題をこのように設定するとすれば、そこから養成教育における2つの重要な課題が導き出されるといえよう。

①養成教育における学生の「参加」の重要性である。

ユネスコの生涯学習部門の責任者であったエットーレ・ジェルピは、生涯教育を構成する3つの要素として「自己決定学習」、「個々人の動機」、「主体的参加」を挙げているが、
養成教育を学生の「自己決定学習」として組織する上からも、学生の「参加」こそは重要な課題として位置づけられよう（エットーレ・ジェルピ『生涯教育―抑圧と解放の弁証法』東京創元社、1983年）。

②学校内外における学生の活動の積極的な助長、教育・保育職自体を対象化する学習の重性である。

上記の生涯教育の3つの要素とも関連するが、学生の教育・保育職としての職業的な自立が自己決定として実現されることは、「専門職的自己開発」の上からも重要な要件であり、そのためにも、学校内外における課程外の学生の活動が積極的に助長され、教育・保育職やそれに係る学修自体を対象化しうる機会を多く経験することは重要な課題といえる。

（2）現職教育段階の課題をどう理解するか

現職教育は、「専門職的自己開発」の上から、基礎段階としての養成教育段階と接続した継続教育の段階として、「専門職」としての「教職」の実現、テーマに則していえば、専門職としての在るべき姿を体現している「基幹保育者」養成にとってきわめて重要な段階として位置づけられる。

そのような理解に立って、現職教育段階の課題をいくつか提起しておきたい。

①現職教育は、教育・保育に係る職務の遂行と両立する形で具体化されなければその機会を享受できないという困難を伴なっている。その関係で、現職教育の実施は、多様な形態が求められるということである。

具体的には、研修会（講座形式等）、実践研修（公開保育等）、e-ラーニング、通信教育等の当事者の事情に応じた多様な形態の現職教育の機会が提供されるべきといえよう。

②職場に焦点を当てた現職教育の重要性である。

OECDの「教師政策」会議では、「学校に焦点を当てた現職教育」が議論のひとつの柱として取り上げられ、そこでは、「『学校に基礎をおくカリキュラム開発』のための能力を身につけるためには現職教育が不可欠であることと同時に、そのような『カリキュラム開発』に参加すること自体が現職教育の主要な形態になることが繰り返し強調された」とされている（国立教育研究所内日本比較教育学会「教師教育」共同研究委員会編『教師教育の現状と改革』第一法規、1980参照）。

教育・保育の職場において、保育者の職場に基礎をおく「カリキュラム開発」への参加をどのように実現していくのか、「基幹保育者」養成の上からも問われている重要な課題といえよう。

③関係者・関係諸機関のパートナーシップによる養成教育（「就職前教育」）と現職教育との統合の具体的なプログラム開発の重要性である。

この課題は、これまでも言及した教師教育に関する国際会議等でも確認されている重要な課題であるが、保育コンソーシアムあいちの追求してきた課題でもあり、愛知県現任保育士研修運営協議会等の活動においても追求されており、その基盤は私たちの取り組を通して築かれつつあるといえる。今後の継続的な発展が期待される。

④現職教育への参加を保障しうる職場条件の整備の重要性である。

多様な研修機会の実現、職場に基礎をおく「カリキュラム開発」等の課題の実現を通して、「基幹保育者」養成を推進する上から、それらの機会を当該保育者に保障しうる職場の条件をどう実現するかは避けてとおれない現実的な課題といえる。様々な制約条件の中で、それを可能にする条件整備に関係者のまさに共同の知恵と工夫が求められているとえよう。

関係者・関係機関のパートナーシップがこのような条件整備の面でも有用な役割を果たすことが期待されよう。

以上が、「明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるか」というテーマに関するコーディネーターの立場からの論点の整理（課題提起）である。

Ⅱ　発題者から提起された主な論点

１、保育所の立場から（愛知県私立保育園連盟副会長、猿渡保育園園長　北村信人 氏）

○保育現場は求められることが多く、大変という面がある。

○就職後3年間は修行期間と考えている。

○保育は売り手市場であり、安易に保育職を選択しても保育職になれる状況もあるが、もっと悩み、もっと経験し、もっと勉強をして保育職を選択してほしい。

○大学院修了者を必要とするような課題が保育・幼児教育の現場にはあると考えており、保育者には専門職としての高い能力が求められているといえる。

２、幼稚園の立場から（愛知県私立幼稚園連盟会長、いとう幼稚園園長 伊藤園子 氏）

○全体として人材が不足している。

○人を育てるという仕事は１～２年の先生にはとても難しい仕事といえる。私はこれで

いいのでしょうか、私はこの仕事に向いているのでしょうかという悩みが生ずるのは必然といえる。

○養成段階の学びは基礎と考える。

○現場で育てなければならないことをいくつか提起しておきたい。

・長く仕事を継続し、質の高い良い教師を育てるためには、一人ひとりに則した指導が必要であるということ。

・忙しい、時間がないという状況の中で、うまく時間をつかうことが大切であるということ。

・周りの状況をしっかりと見ることの重要性、必要性である。

・上手にコミュニケーションをとれる人は周囲の人びとから教えていただける存在でもあるということ。

・子どもの成長の姿を見て、何をすべきかを考えてほしいということ。

・何をすべきか、何をしたいか、クリエイティブに考えてほしいということ。

3、養成校の立場から（桜花学園大学保育学部　太田早津美 氏）

○命を預かる仕事をしていながら、社会的評価が低いという状況の中で、保育者自身が自己研鑽をしてアピールしていかなければならない。

○これからの保育者は、次のような力が求められるといえる。

・専門的知識、技能　　・対人関係能力、コミュニケーション能力

・リーダーシップのとれる力　　・自己開発能力　　・問題解決能力

○実際の子どもの姿と結びつけて学ばないと養成教育段階の学修の理解は進まないので、実習やボランティア等の体験を豊かにして、理解力を高める必要がある。

○免許や資格を取るためではなく、質の高い保育者になるために学ぶという意識を持ってほしい。

○働き続けられる職場にするためにも、保育者の処遇改善等が求められる。

4、養成校の立場から（岡崎女子短期大学　鳥居恵治 氏）

○学友会の活動など学生の自主的な課外活動を通して、研究心やコミュニケーション能力等の保育者としての力量が育まれている。

○大学内外の課外活動への参加、他大学の学生を含めた学生相互の交流を通して、学生のエンパワーメントが図られている。

○研修に関しては、現場の先生が参加して良かったと思えるような研修にしていくことが重要といえる。

Ⅲ　討論のまとめ

会場の参加者と発題者の間のテーマに係る主な討論をまとめておきたい。

○基幹保育者養成ということで、保育者の幹をどう育てていくかが問われている。現場ではこれを育てる、養成校では何が出来るか、現場との共同の課題は何か等をお聞きしたい。

・保育者の力量は個別多様であることをふまえるならば、仕事を分担することが必要ではないかと考える。分掌の中で個々に何か強みがあると良い（現場サイドの意見）。

・保育を好きになってほしい（現場サイドの意見）。
・持続力のある質の高い保育者の養成（現場サイドの意見）。
・自己肯定感のある保育者の養成（現場サイドの意見）。
・職場の改善を望みたい（養成校サイドの意見）。
・学生が学びたいと思える授業の創造が必要といえる（養成校サイドの意見）。
・保育は楽しいね、保育者は素敵だよね、保育は楽しいよねというような、保育の魅力の伝達をお願いしたい（共同の課題）。
・保育現場の処遇改善のためには国や県からの助成が必要（共同の課題）。

以上、全体で90分の短い時間であったが、４人の発題者の発題は全体としてテーマに係る重要な課題を的確に指摘していただき、多くの参加者との討論を通して、さらにそれらが具体的な課題として展開され、貴重な意見交換が出来たものと思われる。

「明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるか」という本パネルディスカッションのテーマは、質の高い幼児期の教育・保育の実現にとって避けられない課題であり、今後とも各機関、各団体で継続的に検討が進められ、課題の実現に向けての共同の取り組みが前進することを期待したい。

3．保育カンファレンス

◇保育実践事例報告◇

『いぼばらこども園の保育実践から考えること』

実践報告：いぼばらこども園　　園長　伏見　範子
実践報告者　小宮山綾香
渡辺貴美子
コーディネーター：　名古屋短期大学　小島千恵子

いぼばらこども園は、公立の豊田市立伊保原保育園から平成18年に民間移管されて10年目を迎える。

「車の街　トヨタ」であることからこども園周辺には、関連の工場があり、道路も整備され交通量も多い。しかしながら、雑木林、田畑なども多く残っており、自然に触れて遊ぶことができる環境がある。この環境は、自然の中で子どもにいろいろな体験・経験をしながら心豊かな生活をさせたいというこども園の園長はじめ職員の情熱と、その情熱を受け止めた地域住民が協力することで保たれている。

『いろいろな体験・経験を通し、成就の喜びを育てる』という保育理念のもとに、「土に親しみ、動植物への興味・関心を育てる」「広い自然の中で伸び伸びと遊び、豊かな心を育てる」「やり始めたことを最後までやり通し、成就の喜びを味わえるようにする」という保育目標を掲げ、散歩や畑づくりなどで自然とかかわったり、栽培物を使ってクッキングを楽しんだりする食育活動、草木染、紙漉き、羊毛人形作りなどの手仕事などを取り入れて、子どもたちがいろいろな経験ができるように保育を進めている様子が映像などで実践発表された。

園長の伏見先生は、「子どもの頃の原体験が大人になって生きる力になる」と語る。

いぼばらこども園では、子どももおとなも共にこの原体験をすることができる環境が園生活の中にある。「土に触れること」が基本であり、こども園の職員だけではなく、保護者(主に年長児の保護者)もいっしょに土を耕し、畑づくりをして作物を収穫する。カンファレンスの中で伏見園長が「土を耕して畑づくりをする時、子どもよりも保護者(主に母親)の方が大騒ぎになる」と話す。

土を耕すと、ミミズやダンゴムシ、ハサミムシ、コガネムシの幼虫が出現する。農作業を始めた頃、保護者は悲鳴を上げて作業の手が止まり、逃げ出す姿があるものの、保育者が率先して耕す姿を見せながら、子どもの畑づくりの様子や、次に収穫するもののことなどを伝えると、保護者も少しずつ土に親しみ、「子どもが『畑に水やりに行った、大きなお芋がとれて、みんなで焼き芋した』と言っていたのはこの畑で獲れたいものことだったんですね」「しっかり耕さないといけないね」と、子どもたちのために協力的に作業を進めることができるようになっていくという。体験を通して子どもも親も豊かになっていく様子が発表からうかがえた。

報告の後、フロアーの学生から「私・・・虫がダメなんです。でも子どもの楽しい様子が伝わってきました。がんばらないといけないですね」という発言を受けて、伏見園長は、「土に親しむ経験を重ねると、むしちゃんのことも好きになるわよ」と、学生に温かいまなざしで話した。子どもと保護者と保育者が共に生きること、おとなが子どもに生きる姿を見せることが、すべての意欲につながっていくことも併せて語った。「特別なことをやっているわけではない。誰から教えられたことでもない。私は、生活の中で親や周りのおとながやっていることを見て育ち、それが今につながっている。それが生きるということだから、そういう生活ができるようにすることが子どもより少したくさん生きている私たちの役目」とつけ加えた。

いぼばらこども園では、園外に出て自然や社会の様子に触れることも日常茶飯事行われていて、季節ごとの自然の様子や社会事象に子どもが出会う体験も多く取り入れている。その中で、草花のにおい、肌にあたる風の感じ、鳥のさえずりなどを目で見て、鼻でにおいを嗅ぎ、耳で聴き、触って感じ、口で味わう。五感を刺激することは、脳を刺激することにもつながり、好奇心や探究心を旺盛にし、「もっと知りたい」「やってみたい」「がんばろう」という意欲につながっていく。「先生が知っていないとね・・」「保育するということは、先生が生活できること」「できなきゃ、やってみればいい。そうしたらできるようになる」と、さりげなく、優しく語る伏見園長の口調に、園の中で保育者が子どもと共に育ち合う様子を垣間見ることができた。

いぼばらこども園では、畑の収穫物を園内で子どもと一緒に調理して食べるということを大切にしている。畑で獲れた野菜を園に持ち帰る道中で、「今日は何にして食べる？」「塩でもむ？」「煮てもおいしい」など・・・子どもとの会話が聞かれる。調理して食べる経験をしているからこそ出てくる会話である。普段は、市の給食センターで調理された給食を食べているが、月に一度の誕生会、行事の時は、園で調理して食べている。園庭で火をおこして、焼き芋をしたり、年長児が野菜の皮をむき、切って、カレーを作ったり、大根を煮たりして食べる。これは年長児の役目で、小さい子どもたちは、お兄ちゃん、お姉ちゃんが作ってくれたごちそうに舌鼓を打つ。「自分で作った」「人の役に立った」という年長児に達成感と満足感を、「年長さんになったら自分もやりたい」という小さい子どもたちの好奇心や意欲をこれらの食育活動から導き出すことができる。保育者はコーディネーターといったところだろうか。

いぼばらこども園では、この食育活動も特別なことではない。園内のいたるところに実がなる木々が植えてある。その実を収穫して、ジャムにしたり、ジュースにしたり、漬物にしたりして食べるという。地域の畑で梅の実をちぎらせてもらい、梅干しも毎年欠かさず漬けるそうだ。ヨモギの新芽を摘み、ヨモギ団子に。カボチャを収穫してカボチャケーキに。信州からリンゴを取り寄せ、リンゴケーキに。園内で収穫できないものは取り寄せて、作る工程を子どもに見せ、「季節をいただく」。時には、北海道からサケを取り寄せ、子どもの前で園長が捌き、石狩鍋をすることもある。

園のお客様のおもてなしもすべて手作りで、お芋でできた手作りきんとんと、お抹茶が出てきた時、ほっとできる空間がそこに広がる。手作りの園づくりを園内のいたるところに感じることができる。

子どもの遊びも手作りが中心である。手先を使って自分たちで作り上げる「手仕事」を取り入れ、年少の頃から三つ編みをして遊び、年長児になると 3 メートル布を三つ編みにして長縄を作り、跳んだり、鬼ごっこの陣地にしたり、ドッヂボールのコートづくりなどにしたりして、自分たちで使い方を考えているそうだ。園庭に植えた綿から糸を紡ぎ、牧場から譲り受けた羊から刈り取った羊毛を、保育士たちが洗濯して羊毛にする。調理して残った玉ねぎの皮や木々を使って、糸や羊毛、布を草木染めにして、風呂敷にしたり、裂いた布や毛糸を使って「さき織り」で、タペストリーを作ったり、羊毛でひな人形を作ったりするなど、手作りにこだわり、保育士と一緒にコツコツと一生懸命に生活する園生活が展開されている。

子どもと一緒に考え、創り出す保育がそこにある。年長児は、園生活の最後に手作りの「卒園証書」を作る。牛乳パックを使って紙漉きをし、玉ねぎの煮汁で染めた世界でたった一枚の証書ができあがると、伏見園長が一枚一枚筆で「卒園証書」を書き上げる。書く内容も一つとして同じものはない。子ども一人ひとりが大切に愛情いっぱいに育てられ、一生懸命に園生活を送った証、それがこの手作りの「卒園証書」に込められている。

保育者の大きな役割は、「子どもが子どもの生活をする」ことを保証することにある。

子どもの欲求や願いを受けとめ、具体的に生きる中でどのようにしていくのかを日々のかかわりの一つひとつを通して子どもとともに考えていくということである。実際の保育ではそれらのことがどのように日々展開されていくことなのだろうか。

いぼばらこども園の子どもと保育者の生活を見ると、「生活しているなぁ・・・」と実感する。人が人の中で生きていく、自分が生きている、生活するということを、子どもにどう伝えるのか考えることができるのがいぼばらこども園の保育実践である。

自分で自分のことをするということは、自分の生活を自分でつくっていくということである。生活することを、ふだんの生活の中で見て学ぶことができる環境がいぼばらこども園にはあるのではないだろうか。

本カンファレンスにおいて、いぼばらこども園の保育実践から以下の 2 点について議論した。

子どもが子どもらしく生きながら、生きる力(生活する力)を獲得していくための環境をどのようにつくるのか。

食育活動・・・・自分で栽培して、調理してみんなで味わう。この一連の行為の中で子どもは何を感じ、何を獲得するのか。

遊ぶ・・・・・・子どもの生活は遊びそのもの、遊びは生活そのもの。

遊びから育つもの、遊びで育てたいもの、子どもは環境のすべてを通して様々なことを体得する。子どもは保育者の背中を見て育つ。保育者はどんな存在でなければならないのか。環境をどのようにつくるのか。保育者自らが環境である。

保育実践において、保育者のイニシアティブが子どもの主体的な育ちと生活を創り出すと考えると、保育者の生活力(人間力)をどのように育むのか、その人間力を保育者間あるいは、保育者から子どもへどのように伝承していくのか。

この議論の中で、フロアーから、実践発表をした保育士に「就職した時と、10年経った今と何が違いますか」という質問があった。小宮山保育士が「園長先生、本音で言っていいですか」と伏見園長に問いかける場面があった。「あなたの気持ちが大切」と、伏見園長がうなづくと、小宮山保育士は、「はじめははっきり言って・・・、驚きの連続でした。何で・・・ということもたくさんありました。でも、毎日が楽しいんです。子どもといっしょに動いたり、考えたりすることが・・(略)」

また、「今回のテーマ、明日の保育を支える基幹保育者をどう育てるかということを考えると、ここにいらっしゃる保育士さんが基幹保育士ということになると思うのですが・・・保育士にはどんな力が必要と思いますか」というフロアーからの投げかけに、伏見園長は、「特別なことはないですよ。保育士が生活するところを子どもに見せることが大切。私たちもそうして育ってきました。その生活が今ないんです、家庭に。だから園で子どもに見せるんです、生活を。子どもと共に生活する。一生懸命生活することです。家庭では経験できないことが増えました。子どもに生活を見せる。保育士もできないことだらけです。だから子どもと一緒に経験するんです。日本の保育養成は、実習が少なすぎる。いつでも受け入れます。どんどん学生さんを連れてきてください」と、フロアーに投げ返した。

基幹保育者とは何か。保育者の専門性とは何なのか。的確な答えはまだまだ見えないが、この保育カンファレンスから、様々なことをいろいろな角度から考えることができたのではないだろうか。この保育カンファレンスの内容を反芻しながら、カンファレンスの参加者それぞれがこれからの保育について、子どもと共に生きる、生活することがどういうものでなくてはいけないのか考えることが必要であろう。

21世紀の保育を創り出す子どもと保育者について、保育現場と保育者養成校がつながって考える機会をこれからもたくさんつくることが、基幹保育者を育てることになるだろう。

(文責:コーディネーター　小島千恵子)

(ポスターセッションをご参照ください。)

4.「保育者&保育学生」交流会

コーディネーター：原田明美（名古屋短期大学　准教授）

「サロン開設の趣旨と運営」

保育者養成校にあっても、保育学生と現職保育者が日ごろあまり話しあえる機会がありそうでない関係にある。現場を知るのは、せいぜい保育実習ぐらいである。

「基幹保育者養成プログラム」における取り組みの一環として、保育現場で活躍する保育者先輩たちに保育学生が日頃考えている将来に対する悩みや就労に関わる質問を出し、自由にフリートークし話しあえる場（「保育サロン」）を設けることとした。

本企画に協力頂いた現職保育者は、私立幼稚園園長・教諭、公私立保育園園長・主任・保育士、社会福祉協議会職員など19名の方々であった。参加保育学生は、連携5大学から47名の参加があった。学生主体の運営を期待しつつも、準備運営協力に連携大学保育科教員や学生間連携担当事務職員等が加わり、5グループに分かれ討議した。

学生からは、学生が考える保育現場・子ども観・保育職観や学生が思う保育現場、学生の描く保育職への夢などが語られた。

保育職からは、保育職の社会的役割や保育職の魅力について語られるとともに、学生時代に学ぶべきこと、体験しておくべきことについて、先輩保育者から保育学生へのアドバイスがあった。また、「実習以外にも気軽に保育現場を訪ね、疑問質問があれば、保育の相談をしてほしい。」、「園それぞれ、特色ある保育を行っているので、それも理解してほしい。」などの発言があった。

参加した保育職と保育学生双方のアンケートからも、率直に「保育職&保育学生」が語らえる、この種の機会を継続的に保障してほしい（80%）、「参加してよかった」（85%）となっており、実際にその後、園訪問を行った学生も出てきている。

この取り組みを通じて、あらためて、「現場との連携」共同教育課題が確認された。





５．ポスターセッション

連携成果報告①～⑪

- **「教科指導の改善」**「幼児体育」教育指導法の共同開発
- **「保育職の魅力の伝達」**現任保育士研修プログラム開発研究を通じた成果発表
- **「いぼばらこども園保育実践」**「認定こども園」における食育実践
- **保育学生間連携の実際**　学生間連携３年間の取り組み記録

「海外の保育」⑫（太字：動画視聴を 521 教室で実施）

「海外の保育」事情調査研究のポスター発表

- **北米：カナダ・アメリカ合衆国**
- **ヨーロッパ：イタリア・フィンランド・**スウェーデン
- **オセアニア**：ニュージランド
- **アジア：中国・**韓国・ベトナム









hcc 保育コンソーシアムあいち

保育実践の学びを共有する大学間連携授業

～遠隔講義配信システムを用いた「幼児体育」授業の試み～

発表者：平野　朋枝（名古屋短期大学）
山下　晋　（岡崎女子短期大学）
鳥居　恵治（岡崎女子短期大学）

【背景】岡崎女子短期大学（以下、岡短）、岡崎女子大学（以下、岡女）、名古屋短期大学（以下、名短）では、授業に付属幼稚園児を迎えて、学生による運動指導の実践活動を行っている。この活動は、岡短では30年以上続いており、名短では７年前より実施している。（科目名は、岡短・岡女では「幼児体育」、名短では「体育」であるが、以下まとめて「幼児体育」と表記する。）

授業内で実践を行う目的は、体験を通して真の保育実践力を身につけることである。授業での実践活動は次の3段階から成る。

①準備：指導計画の立案
②実施：指導の実践
③省察と改善：実践の振り返りと計画の再立案



図１　岡女「幼児体育」での運動指導実践の様子

いずれの学生も授業内で複数回の実践を経験することができるため、自らの取り組みを振り返り、改善して次の実践に臨んでいる。ただ、全ての実践を終えた後の振り返りについては、個人での省察記録とグループでの意見交換のみに終わっており、保育の実践力についてさらに深めた検討が行われることが望ましい。

保育コンソーシアムあいちが目指す基幹保育者養成では、保育技術・技能の獲得も重要な資質の一つとされており、養成校における実践力向上のためのこのような活動はその一端を担うものである。

【連携授業の目的】岡短・岡女と名短の「幼児体育」でそれぞれ取り組んでいる運動指導実践の内容とそこでの学びについて、学生同士が相互に情報交換することで、実践の総まとめとしての振り返りをより深めるものとすることを目的として、岡短・岡女キャンパスと名短キャンパスとの合同での授業を企画した。さらに、この3校の卒業生は卒業後に保育現場でともに働くことが少なくないことから、保育職という同じ進路を目指す仲間・ライバルとして在学時に協同での活動をすることで、就職後の同僚性の確立に繋がるのではないかと考えた。



図２　連携授業の様子（名短）
左側のモニターに実践記録の動画を映し、右側のモニターでは岡女の学生の様子をライブ配信した。

【方法】遠隔講義配信システムを用いて岡短・岡女キャンパスと名短キャンパスで合同の「幼児体育」授業を実施した。授業内容は運動指導実践の振り返りであり、実践記録の動画と学生の発表や意見交換の様子を、双方向に配信した。詳細は以下の通り。

日時：2015年1月9日　11～12時
場所：岡短・岡女キャンパス 親と子どもの発達センター
　　名短キャンパス 721教室
受講学生：岡女1年生42名、名短2年生87名
授業の流れ：
　1) 教員より本時の概要・目的の説明
　2) 名短の実践についての紹介と動画の双方向配信
　3) 岡女の実践についての紹介と動画の双方向配信
　4) 意見交換

受講学生には、連携授業実施前に連携大学の学生と合同で授業を実施することを説明した上で、実践についての振り返りと実践内容の発表準備を行わせた。振り返りの内容は、運動指導時に心掛けたこととした。加えて、相互の実践の様子を静止画で紹介した。また、本授業の効果を評価するために、実施後に受講学生へのアンケートを実施した。

【連携授業での学生の学びと考察】

運動指導実践での学びについては、99%の学生が「有意義であった」と回答した（図３）。学んだこととしては、「個々の子どもへの言葉がけ」が最も多く、次に「運動遊びの環境を構成する力」、「明るさ、笑顔」であった。「運動遊びの環境を構成する力」は実践を伴わない講義でも学ぶことはできる。しかし、「個々の子どもへの言葉がけ」は実践でなければ学ぶことができないものであり、学生自身がその点を理解していることが示された。「明るさ、笑顔」も対象者がいてこそ実践を等して身につくものであり、付属幼稚園児を迎えて実際に指導を行うことは、実践力を高めるために有効であると考えられる。

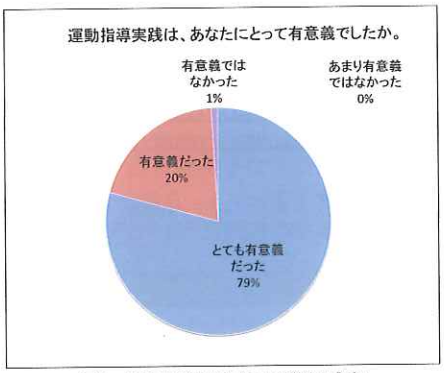


図３　運動指導実践に対する学生の評価



図４　名短「体育」での運動指導実践の様子

一方、連携授業の意義については、「とても有意義であった」と回答した者が35%、「有意義であった」が64%で、運動指導実践の意義に比べると評価が低い傾向であった（図５）。この理由は、映像配信のトラブルや、意見交換時の時間的遅延により、受講者に待ち時間ができてしまい、十分な学習内容が確保できなかったことが大きいと考えられる。受講学生のアンケート回答でも、「もっと深く知りたい、ところでも時間がないために伝わらなかったりすることもあったのでもっと時間があったらよりよかったと思う。」というコメントを得ている。今後システムの利用を増やすことで、ある程度解消できる課題である。

連携授業で得たこととしては、「他大学の学生と意見交換し、異なる考えを知ることができた」という主旨の記述が最も多かった。「同じクラスや大学では気づかなかったことに意見してもらって気づくことができた。また他大学の実践を客観的に見ることで、危険なことや改善点が見つかり、自分の学びにすることができた。」「自分たち自身だと言えないことも言い合えて、客観的、多角的なアドバイスがもらえた。」など、新たな振り返りの視点を得て、実践を見直し、そこから学ぶ機会となったことが窺われる。意見交換の中では、同じような環境で同様の活動を行っても、配慮や援助の意図が異なっていた事例が出され、指導者のねらいを明確にすることの重要性も共有されていた。

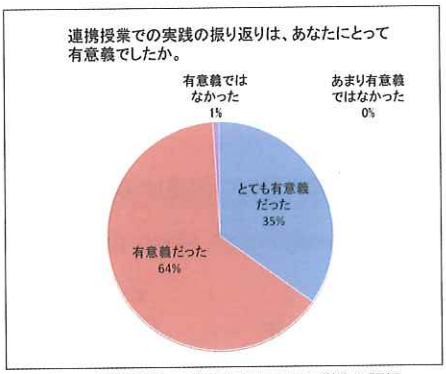


図５　連携授業での振り返りに対する学生の評価

「相手の大学の学生から刺激を受けた点は何か。」という問いに対しては、実践時の援助や表情についての回答(a)と、連携授業での質問や意見発表の積極性についての回答(b)が見られた。aでは、岡女学生から「名短学生は話し方がもう先生のようだった。声のかけ方が自分達とは違い、身振り手振りが大きくて声も大きくはっきりとしていた。」など、1学年の違いから来る力量について言及していた。Bでは、「意見を言い合う際に、自分たちの工夫したところや、ねらいをしっかりと発言していた。」「はじめて他の大学の同じ目標をもつ人と意見交換などできて、刺激になった。」「意見を言い合う際に、自分たちの工夫したところや、ねらいをしっかりと発言していた。」など、保育者としての資質に繋がる点に言及し、同じ目標を持つ者同士として、またライバルとして互いに意識する機会になったことが窺われる。

「保育職の魅力の伝達」の取り組みが保育者に与える影響

小川 絢子 （名古屋短期大学）

目 的

■ 中堅保育士への「保育職の魅力の伝達」の取り組み

- 同僚からのサポートが得られにくいと言われる中堅後期保育士の保育職に対する認識を満足感の高いものにしていくことが課題に
- 「保育職の魅力の伝達」における受講者の学びと「職務や職場環境に対する認識」や「保育職への満足感」がいかに関係するのかを検討する
- 研修終了後から4ヶ月後にも調査を行い、受講者の研修における学びの活用についても検討する

方 法

■ 方法

- 対象者：愛知県現任保育士研修に参加した中堅後期保育士
  直後：104名　平均経験年数12.47年 (5～33年, SD=4.5)
  4ヶ月後：89名　平均経験年数12.74年 (6～32年, SD=4.7)
- 調査調査日：直後は2014年8月、4ヶ月後は2014年12月に実施
- 調査方法：選択肢と自由記述を含む質問紙調査

■ 選択肢（4件法）の分析

- 直後：①研修における学び、②職場環境に対する認識、③保育職への満足感（＝バーンアウト尺度）
- 4ヶ月後：研修での学びをどの程度実行できたか、②職場環境に対する認識、③保育職への満足感

結 果

■ 1. 研修における学びとその後の実行

直後：

- 保育者としての自分自身の振り返りや「保育職を続けている理由」に関するグループワークを通して得たこと
  平均 (n=102)=3.22, SD=0.28
- 「学生に伝えたい保育職の魅力」に関するグループワークや発表を通して得たこと
  平均 (n=103)＝3.29, SD=0.33

4ヶ月後：

- 「保育職の魅力の伝達」から得たり学んだりしたことを日常業務において実行できているかどうか
  平均 (n=89)=2.87, SD=0.40

結 果 つづき

■ 2. 職場環境に対する認識

- 5因子を想定した主因子法、プロマックス回転による因子分析を実施
- 「職場の共通認識」、「保護者・子どもとの信頼関係」「保護者・子どもへの力の足りなさ」、「専門職としての誇り」、「社会的地位の低さ」の5因子
- 後の比較 (Fig.1) 直後と4ヶ月

「保護者・子どもとの信頼関係」
研修直後 ＞ 4ヶ月後 (t (188)=2.99, p<.01)

■ 3. 保育職への満足感（＝バーンアウト傾向）

- 3因子を想定した主因子法、プロマックス回転による因子分析を実施
- 「脱人格化」「情緒的消耗感」「個人的達成感の低さ」
- 研修直後と4ヶ月後の比較 (Fig.2)

「個人的達成感の低さ」
研修直後 ＞ 4ヶ月後 (t (188)=2.71, p<.01)

■ 4. 研修における学びの実行と職場に対する認識

- 「研修における学びを日常業務において実行できているか」との相関が高かった項目

職場環境に対する認識
「専門職としての誇り」(r (89)=.22, p<.05)

考 察

■ 直後と4ヶ月後の比較および学びとの関連

- 「保護者・子どもとの信頼関係」 研修直後 ＞ 4ヶ月後

→ 研修の時より、保護者や子どもと実際に関わることで、関係作りの難しさと共に、その重要性を実感している可能性

- 「個人的達成感の低さ」 研修直後 ＜ 4ヶ月後

→ 保育を行う中で、「保護者・子どもとの信頼関係」がうまくいかなくなると、自分の保育に対する「うまくいかなさ」や「やりきれなさ」が高まり、達成感が得にくくなるフォローアップ研修の必要性を証明

- 研修での学びを実行できていると認識することで、「保育職の専門性の高さや誇り」を感じ、「保育者としてさらに成長したい」と考える可能性

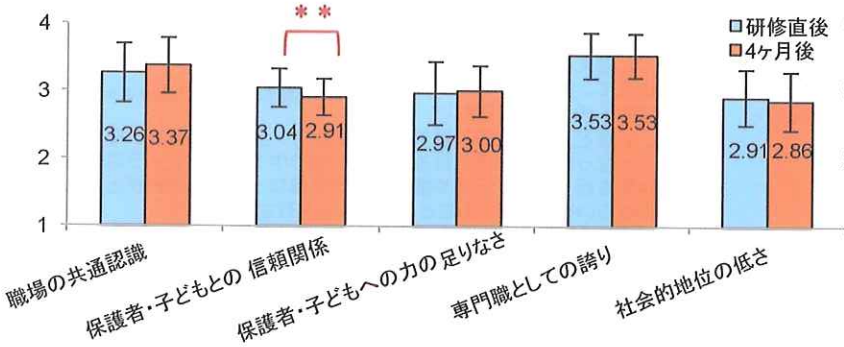


Fig. 1：「職場環境に対する認識」の直後と4ヶ月後の比較

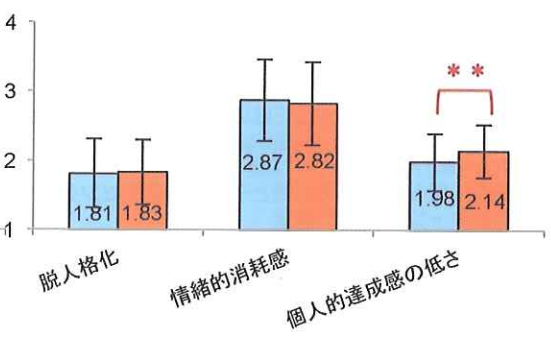


Fig. 2：「バーンアウト傾向」の直後と4ヶ月後の比較

より良い研修のあり方をめざして―「保育職の魅力の伝達」から　日本保育学会第68回大会自主シンポ（2015/5/10）

「保育職の魅力の伝達」の研修で、保育士が何を保育職の魅力と考え、学生に伝えたか

桜花学園大学　小嶋玲子

目的１．保育士が何を保育職の魅力と考えているか
　　２．何を保育職の魅力として学生に伝えたのか

方法　対象者：中堅後期保育士　研修受講者104名

分析データ：目的１に対しては研修１限目の振り返りシートの記述内容、　目的２に対しては　研修中の17グループの記録用紙「保育者を目指す学生に伝えたい魅力」と学生に伝達するためのポスター内に書かれた文字（絵）

結果と考察　目的１：何を保育職の魅力と考えているか

振り返りシート「保育者としての自分をみつめて（就職して7～8年頃までの自分について振り返ってみよう）」に書かれた個人ごとの自由記述（魅力を直接には尋ねていない）から魅力の記述部分を抽出した結果、受講者104名中93名（89.4%）に魅力の記述があり、11名（10.6%）に魅力の記述がなかった。魅力の記述総数は201であり、一人2.16の記述数である（201/93名）。その記述内容をKJ法で分類した結果を表１に示す。

表1．学生に伝えたいキーワード

子ども	子どもの成長を感じる	35	
	子どもと共に経験することが楽しい	21	
	子どもの笑顔・言葉・子どもからの信頼感	16	
	子どもがかわいい・いとおしい・好き	16	88（43.8%）
保育士	他の保育士に支えられて	16	
	誉められたり、認めてもらう	13	
	自分自身の成長	9	
	見本となる保育士を目指して	7	45（22.4%）
保育	保育・保育士という職業の面白さ	25	
	保育を楽しむ	9	
	保育環境	9	43（21.4%）
保護者	子ども・保護者からの感謝の言葉	14	
	保護者と共に子どもの成長に関われる	11	25（12.4%）

KJ法でまとめると４つのキーワードから魅力が語られる

子ども（成長・笑顔・かわいい・*共有*体験）
保育士（支え合い、認められる　成長）
保育（保育の楽しさ　やりがい）
保護者（感謝のことば、*共に*子どもを育てる）

４つのキーワードそれぞれから「成長」、「支え合い」、「共に～」という共通概念が取り出せそうである。

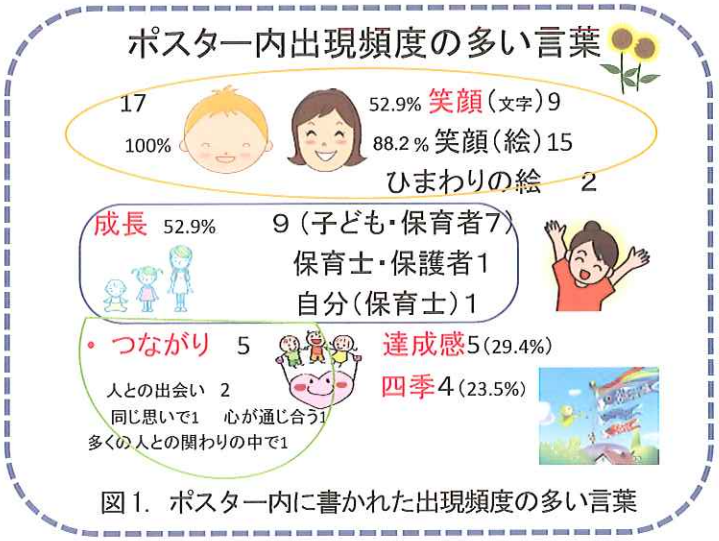


図１．ポスター内に書かれた出現頻度の多い言葉

結果　目的２．保育士は何を魅力として学生に伝えたのか

研修中の17グループの記録用紙「保育者を目指す学生に伝えたい魅力」にはキーワードを書く欄が設けられていたので、そこに書かれていた言葉を表２に示した。よく似た内容を表２の右端に文字で分類した。笑顔（Smile）が3、保育職の良いイメージの言葉（Good）6、つながり（Relation）2、続けよう（Continue）3、マイナス面もあるけれど良いこともある（―）3という結果であった。

表2．発表用ポスター

グループ	紙面上[キーワード]欄に書かれた文字	分類
A	成長	G
B	保育士って素敵	G
C	保育士をやってよかったこと	G
D	目に見えない魅力	G
E	失敗しても大丈夫～その壁の向こうに～	―
F	smile	S
G	きれいな花をさかせましょう	C
H	魅力を知りたきや続けよう	C
I	笑顔きらきら～子どもも自分も～	S
J	やりがい	G
K	つながり	R
L	悪魔が天使になるとき	―
M	保育者の喜び	G
N	人と人のつながり	R
O	子どもの笑顔がパワーの源	S
P	とりあえず3年目まではやってみよう	C
Q	夢と現実	―

保育士たちが口頭で学生に伝えた内容は今回の分析にはしていない。グループでの発表であり、個々人の考えではない。学生への分かりやすさと魅力を伝えることを重視

17グループのポスター内に出現頻度を左下に図示した。

ポスターの内容に楽しいことのみの記述は8/17（47.1%）で、つらいことも記述されていたのは9/17(52.9%)であり、つらいことは　乗り越えられると9グループとも記述があった。

文字として「笑顔」が出てくるのは9/17（52.9%）であるが、絵として笑顔が書かれているものが15/17（88.2%）であり、人の笑顔は出てこないがひまわりが描かれているものが2であった。ポスターに表現された笑顔には子どもの笑顔だけでなく、保育士の笑顔、保護者の笑顔も描かれていた。文字では子どもの笑顔5、子どもと保育士の笑顔3、保育士の笑顔1であった。

文字としての出現頻度は、「成長」という言葉も、「笑顔」と同数9/17（52.9%）であった。笑顔と同様に、子どもの成長だけではなく、保育者も成長するというのが7、保育士・保護者が共に育つというのが1、保育士自身の成長のみの言及が1。

「つながり」という言葉が5/17（29.4%）使われていた。それ以外にも「多くの人との関わりの中で」、「心が通じ合う」、「同じ思いで」、「人との出会い（2）」など、人と人の関わりに関する記述がある。「一緒に」、「共に」、「助け合い」等の言葉も複数のグループで使用されている。

まとめ　保育士は、保育は楽しくやりがいがあり、子ども・保育士・保護者それぞれに、「成長」があり「支え合い」、「共に～」様々な経験をするという魅力を感じ、それらを学生たちに子ども（保育者・保護者）の「笑顔」と共に伝えている。保育職の楽しい、良いところのみを伝えたグループが8、大変なこともあるけれど、それは乗り越えていけることを伝えたグループが9であり、半数だったことは保育士の気持ちの表われであろう。

・保育職の魅力の伝達 ③

保育職の魅力について　—保育士を続けてきて見えたこと—

一宮市福祉子ども部保育課　青山裕美



※当日 ppt より抜粋

【研修を前に】

保育職の人材不足問題を突き詰めて考えたとき、待遇などの他の原因に隠れているが、現職者自身が保育職の良さについて語れず発信していないことも一つの原因としてあるのではないかと考えた。

保育者自身が漠然と感じている保育職の魅力を言葉にすることにより自覚化し、それをより多く発言、発信することが今の保育現場には必要である。「保育者自身が保育職の魅力を自覚し、発信しよう」と私が話してきたのはそんな理由からである。

今回の５年目研修の対象者は、保育者として自信を持ち始めている年代であるが、一方で結婚や出産などライフステージの大きな変化による離職を考える年代でもある。研修対象者には、保育の魅力について話し合う実践を前に、経験を話し保育を振り返ることの意味について考えてもらうことや保育職を続けることに希望や期待を持てるようにすることを目的に話をすることにした。

【研修当日の話の概略】

かつて保育者として劣等感を抱える私であったが、できることがあった。それは「子どもの心をわかる」ということである。そのために、子どもをよく見、見たことを「振り返る」ようにした。「なぜあの表情？」「どうしてあのことば？」と心に浮かんだ一場面を振り返り意味を考え、自分はどうあるべきだったのかを繰り返し考えた。そのことが自分の保育に力を与えてくれた。そして現場を離れた今も新鮮な気持ちで当時を振り返り、他の保育経験者と様々な保育の事例について語り合い考える場を楽しむ。

このような場を通して感じているのは「保育職の魅力」や「保育の魅力」である。保育経験が心に生き続け、今も問いかけてくる。そして、保育職という仕事によって人として鍛えられ、今も鍛えられ続けていると感じている。保育職を続けていくということは自分に向き合い人生をつくることでもある。保育という営みを意味あるものにするのは自分である。

【研修を終えて】

研修当日の朝、今回の話の内容を思い返していて、劣等感の塊であった過去の私が「なぜ辞めずに保育職を続けてきたのだろうか？」と改めて思った。ずっと優柔不断な性格ゆえ辞める決断すらできなかったと思っていた。そのときふと「なってみたい、私」（佐伯 1995）[1]という言葉を思い出し、はっとした。辞めなかった本当の理由がわかったのだ。あんな私の心にも「子どものことがわかる子どもの味方の先生になりたい」という希望があった。「なってみたい、私」があったのだ。だから保育者として学び続けたのだろうと。

保育者が主体的に学び続けるために「なりたい自分」を心に描けることが大切である。若い保育者が保育職の魅力を語り合い、希望をもって「なりたい自分」をイメージできる場（研修）を提供することこそ、保育者の人材育成に重要であると思う。若い保育者には成長する自分を楽しみながら大いに学び、保育職を続けてほしいと心から願う。

1　佐伯胖著「「学ぶ」ということの意味」岩波書店 1995

・保育職の魅力の伝達④

平成 27 年度「保育職の魅力の伝達」

現任保育士からの伝達に対する学生の受け止め方

岡崎女子大学　大岩みちの　　岡崎女子短期大学　鈴木恒一

1．　目的

日本保育学会第 68 回大会における、自主シンポジウム『よりよい研修のあり方をめざして～「保育職の魅力の伝達」から～』にて、発表した結果に基づき、平成 27 年度現任保育士研修中堅後期保育士研修を実施した。その上で、未来の保育者を目指す学生が、現任保育士からの「保育職の魅力の伝達」をどのように受け止め、自分がなりたい保育職や保育者像をどのように思い描くに至ったのかについて明らかにすることを目的とした。

2．研究方法及び研究内容

研修は岡崎女子大学・岡崎女子短期大学において、平成 27 年 8 月 21 日(金)に実施された。また、スケジュールは図 1 の通りである。図 2 に示すように、受講者数は 122 名、参加学生数は 53 名であった。研修実施後、保育職の魅力の伝達を受けた学生に対し、アンケート調査（自由記述）を行った。学生の記録をＧＴＡ（グランテッド・セオリー・アプローチ）により分析した。

図 1

「保育職の魅力の伝達」研修スケジュール

科目	時　間	内　容	担 当	教室	資料・準備物
8.20 3 限 演習①	13：20～（5 分） 13：25～13：40（15 分）	「保育職の魅力の伝達」について はじめに　　「ある保育者のこれまで」	鈴木恒一 大岩みちの 鈴木文代	6212	
	13：40～14：10（30 分）	保育者としての自分をみつめて ・就職して 7～8 年頃までの自分について振り返ってみよう。			①振り返り用紙 …　各自一枚
	（10 分）	移動			
	14：20～15：20（60 分）	グループワーク ・自分の振り返りをもとに、6～7 人のグループに分かれて、保育職としての苦しみから、魅力を感じることができるようになった言葉や出来事などの事例を踏まえ保育職を続けている理由などについて話し合ってみよう。 ・話し合ったことをもとに学生に伝えるという意識を持って「保育職を目指す学生に伝えたい魅力」をまとめてみよう。	鈴木文代 大岩みちの 鈴木恒一	2501 2502 2503 2504	②グループ記録用・発表（下書き）用紙 …A3 版各自一枚 ・キーボード ・打楽器
（10 分）　※休憩は随時、各グループにて					
8.20 4 限 演習②	同上	【グループ分け】A～R グループ　18 グループ	大岩みちの 鈴木方子 鈴木恒一	同上	②グループ記録用・発表（下書き）用紙 …A3 版各自一枚 ・キーボード・打楽器
	（10 分）	移動			
	15：30～16：30（60 分）	グループ発表 1 グループ 3 分程度		6212	

8.21 3 限 演習③	13：10～14：00（50 分）	学生への発表のためのまとめ グループ発表時間 4 分程度 ・学生に伝わりやすくするための工夫をしよう。 ・カラーペン等、まとめに必要なものは各自持参	鈴木方子 大岩みちの 鈴木恒一	各教室	②グループ記録用・発表（下書き）用紙 ③グループ記録用紙（発表用） …各グループ一枚 ・A4 用紙・打楽器 ・キーボード・OHC
	（10 分）	移動			
	14：10～15：00（50 分）	9 グループ発表　（A～I グループ） 保育者を目指す学生に「保育職の魅力」をあの手この手で直接伝達しよう。	鈴木恒一 大岩みちの 鈴木文代	6212	
（10 分）					
8.21 4 限 演習④	15：10～16：00（50 分）	9 グループ発表　（J～R グループ） 保育者を目指す学生に「保育職の魅力」をあの手この手で直接伝達しよう。	鈴木恒一 大岩みちの 鈴木文代	6212	同上
	16：00～16：20（20 分）	発表の振り返り 発表を踏まえて、今日の授業を振り返ってみよう。		6212	④振り返り用紙 …　各自一枚 ★受講者アンケート
	16：20～16：30（10 分）	まとめ	大岩みちの		

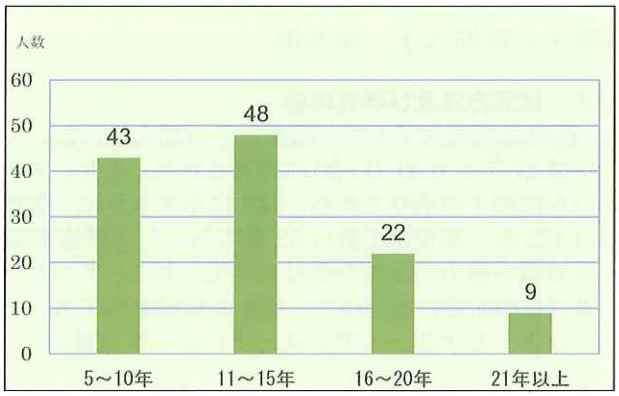
図 2

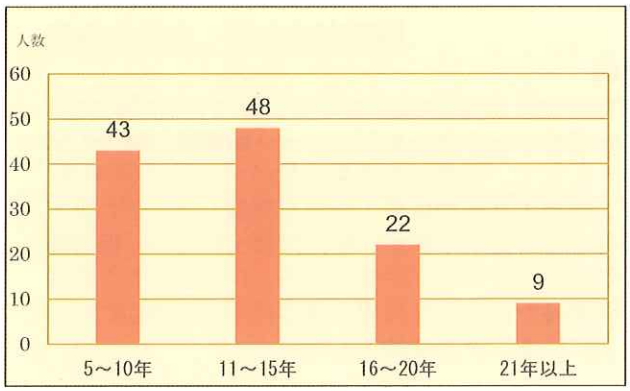
研修受講生について

受講者数　122 名

対象経験年数　7 年目～

「保育職の魅力の伝達」を受けた学生数　53 名





平成 27 年度現任保育士研修中堅後期研修における「保育職の魅力の伝達」(4 コマ) の講義内で、学生が研修受講生から伝達を受けたのち、以下の点について学生が記述したものを分析した。

① は「保育者の魅力とは」、②は「保育職の魅力とは」とした。

また、各々の内容の中から、個々の学生が印象に残ったことを 3 つずつ記述し、特に心に残った言葉（番号）に○を付けることとした。

さらに、これを保育者・保育職の魅力の上位の初期コード(概念)として示した。

3．結果及び考察

(1)保育者の魅力について

図 3 に示すように、学生は保育者の魅力について「子どもとかかわる中での喜び」や「子どもとともに成長」など、子どもをはじめ他者とのかかわりに対して魅力を感じていることが明らかとなった。その中で個々の学生が特に印象に残った魅力として、「感動」「感謝」「子どもへの寄り添い」「学び」「子どもの成長」「成長（保育者自身)」等、多くのものが受け止められている。

また、保育者に対し、「明るさ」「若々しさ」「笑顔」「発想が豊か」など、保育者を明るく活動的なイメージで受け止めていることがわかる。

図 3

①「保育者の魅力」とは

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード(概念)
保育者の魅力		136	100.0	**伝達を受けた学生にとって『保育者の魅力』とは**
	子どもとかかわる中での喜び	37	27.2	子どもから感動をもらえる　子どもから「大好き」「ありがとう」をたくさんもらえる　子どもに寄り添えば喜びが感じられる
	子どもとともに成長	25	18.4	子どもと一緒に成長できる　新しいことを子どもと一緒に知ることができる　子どもの発見や発想から学べる
	子どもの成長	17	12.5	子どもの成長を身近に感じる　子どもの成長を見守ることができる　子どもの可能性をみることができる
	人とのつながり	15	11.0	人とのつながり　様々な人と関わることができ互いの成長を促していくことができる　人とのかかわりを大切にできる
	明るく元気	12	8.8	明るく笑顔　若々しく明るくいられる　笑顔が素敵な人になれる
	多くの笑顔との出会い	6	4.4	多くの笑顔に出会える　多くの笑顔　たくさんの笑顔が見られる
	続けるほど味わえる楽しさ	5	3.7	続けるほど楽しさを味わうことができる　続けるほど保育が好きになり楽しくなる　続けるほど好きになる
	続けることで自分も成長	5	3.7	続けることで感じる自分の成長　日々違う生活を送り、積み重ね成長できる　長く続けていくことで、自分も成長することができる
	子育てに活かせる	3	2.2	子育てに活かせる　自分の子育てに役立てることができる
	発想が豊か	3	2.2	発想が豊か　子どもに楽しんでもらえるようなかかわりを考えることができる
	保育者にしかできない経験	2	1.5	保育者にしか見ることができないことや経験できないことがある
	季節感	2	1.5	季節を感じることができる
	毎日が新鮮	1	0.8	毎日が新鮮な気持ちで保育
	達成感	1	0.8	達成感がある
	子どもの成長の喜びを保護者と共有	1	0.8	子どもの成長を保護者と共有し、喜び合える
	子育ての支え	1	0.8	保護者の子育ての支えとなる

(2) 保育職の魅力について

図４に示すように、保育職の魅力についても学生は、保育者の魅力同様に、子どもや周囲の他者とのかかわりができることが魅力であるととらえている。その中で、個々の学生が特に印象に残った魅力として「感動」「感謝」「子どもへの寄り添い」「子どもの成長」「成長(保育者自身)」などを受け止めている。

さらに、「毎日が新鮮」と受け止めていることも明らかになり、日々の子ども達の成長を身近に感じられることを魅力であると捉えることから、毎日が新鮮であることを保育職の魅力として捉えていると考える。

４．まとめ

伝達を受けた学生の「保育者の魅力」「保育職の魅力」についての記述には、他者とのかかわりに大きな魅力を感じていることが窺われる。また、結果として、同じような回答が多く見られたことについては、学生が実習などを通して保育者というイメージは持っているものの、保育職については実際に働いているわけではないため、理解が不十分であることがわかる。そのため、現時点において、自分の持つイメージによる回答をしたため、このような保育者と保育職の概念が未分化の状態になったのではないかと考えられる。

このような結果をもとに、伝達を受けた学生は、図５が示す通り、保育者という概念が保育職の中に含まれていると理解していることが明白となった。

また、今回の調査・分析の中で「保育者の魅力」を「保育職の魅力」が量的に上回っていたことについて、保育の現場でできるだけ多くの「保育職の魅力」を発見していくことができるように、今後の学生の保育現場での活躍を期待してやまない。

図４

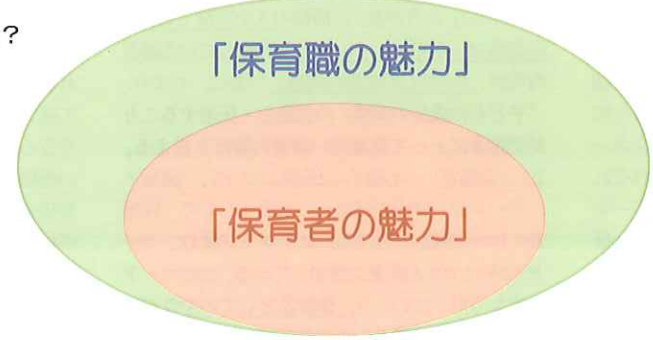
②「保育職の魅力」とは

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード(概念)
保育職の魅力		146	100.0	**伝達を受けた学生にとって『保育職の魅力』とは**
	子どもとかかわる中での喜び	39	26.7	多くの感動の場面に出会える 「ありがとう」という言葉を沢山聞ける 子どもの楽しい気持ちやできない悔しい気持ちに寄り添える
	子どもの成長	24	16.4	子どもの成長を見ることができる 子どもの成長を感じることができる 子どもと日々過ごすことで、子どもの成長を身近で見ることができる
	人とのつながり	15	10.3	人とのつながり 多くの人とのつながり 人とのつながりを感じることができる
	子どもとともに成長	14	9.6	子どもと一緒に自分も成長 子どもと経験・成長 子どもと一緒に自分も成長できる
	毎日が新鮮	10	6.8	毎日変化がある 違った毎日を過ごすことができる 毎日が新鮮
	続けることで自分も成長	9	6.2	続けることで学ぶことがある 多くの出会いにより成長 毎日経験を積むことができ、成長できる
	達成感	6	4.1	やっただけ達成感 辛いけどやりがい 続けていくからわかるやりがい
	子育てに活かせる	4	2.7	自分の子育てに活かせる 自分の子育てに役立つ
	続けるほど味わえる楽しさ	4	2.7	続けるほど楽しくなる仕事 経験すればするほど面白い
	子どもと一緒に過ごす仕事	3	2.1	子どもと長時間、長期間共に過ごす 子どもと一緒に過ごせる仕事
	給食やおやつ	3	2.1	安くて栄養のある給食とおやつ おいしい給食
	保護者と共に子育て	3	2.1	保護者と一緒に子育てを分かち合う 保護者とのかかわりを通して悩みや不安を共有できる職業
	季節感	3	2.1	季節感を意識 季節を一緒に感じられる
	子どもの成長の喜びを保護者と共有	3	1.4	子どもの成長を親と喜ぶことができる 保育者の仲間や保護者と子どもの成長を共に喜び合うことができる
	保育者にしかできない経験	1	0.7	保育士だけにしか味わえないものがある
	辞めないでよかったと思える仕事	1	0.7	辞めないでよかったと思える仕事
	一人ひとりの保育の良さ	1	0.7	一人ひとりの保育の良さ
	人として成長	1	0.7	人として成長
	多くの人からの笑顔	1	0.7	多くの人からの笑顔
	人のため	1	0.7	人のために働ける
	マニュアルの無い仕事	1	0.7	マニュアルの無い仕事

図５

伝達を受けた学生の受け止め方

①「保育者の魅力」とは？



②「保育職の魅力」とは？

・保育職の魅力の伝達⑤

保育コンソーシアムあいち

中堅保育士に対して『保育職の魅力の伝達』を行う意義
―研修４ヶ月後アンケートからの分析―

発表者：嶋守さやか・布施佐代子（桜花学園大学）

目的　「保育職の魅力の伝達」を受講した中堅後期保育士に対して、研修４カ月後に行ったアンケート結果・分析をもとに、嶋守・布施は、愛知県現任保育士研修において中堅後期保育士に対して「保育職の魅力の伝達」を行う意義について発表する。アンケートの分析を行うに先立ち、嶋守・布施は研修直後アンケートにおいて、「保育職の魅力の伝達」における学びを実際の保育に活かすことができたかの記述について質的分析を行った。

分析方法　（１）データ収集

①調査協力者：2014 年度、中堅後期保育士対象の愛知県現任保育者研修「保育士の魅力の伝達」の講習の受講生 104 名に対して行われた。

②手続き：2014 年８月 18 日に実施された「保育士の魅力の伝達」の講習最終時に、『「保育職の魅力の伝達』研修後アンケート（以下、「研修後アンケート」とする。研修後アンケートはⅠ～Ⅴまでの選択式と自由記述式の２種類から成り立っている）を講習参加者に配布、記入を依頼した。

③対象データ：「Ⅲ.『保育職の魅力の伝達』の講習を通して、得たり、学んだりしたことを、今後の仕事にどう活かしていくことができると思いますか」の全回答数は全 104 であった。回答は自由記述式であった。うち、「得たり、学んだりしたこと（以下、「学び」とする）」と「今後の仕事にどう活かしていくことができると思いますか(以下、「自己課題」とする）の回答のうち無回答を除外し、研修後の「自己課題」については「学び」「自己課題」の両方回答 59 件と「自己課題」のみ 33 件を合わせた 92 件を対象データとして使用した。

結果　Ⅰ　分析の結果、中堅後期保育士が「保育職の魅力の伝達」の研修を受けて「自己課題」だと考えたことは、「伝達対象に合わせた伝達方法を選択していこうとする意志」であった。保育者である「自分自身に対し、相手がどのような立場にある人間であるのかをよく考え」、伝達する際には「わかりやすい具体的な伝達方法」を選択し、「職場の人間に伝えよう」とする自発的な意志であった。その「自己課題」が研修後４か月経過した時点で、いかに達成されていると自己評価しているかについて、初期データを分類し６概念、①伝える対象に合わせた伝達方法への選択意志、②講義内容を伝える対象に伝達しようという意志、③保育の質の向上、若手のモデルになろうという意志、④子どもを第一に考えて関わろうとする意志、⑤仕事を頑張ろうという意志、⑥職場の人間関係や業務改善しようという意志に統合した初期コード数を、全体コード数（抽出された全コード数は 193 であった）に占める割合からそれぞれ算出した。その結果が次の表である。そのパーセンテージの多寡から、「保育職の魅力の伝達」研修後に研修生が「自己課題」として考えたことは以下の３点にまとめられた。



１）「保育職の魅力の伝達」研修で研修生が学んだ「自己課題」は、「伝達する対象に合わせた伝達方法を選択していこう」とする意志である。保育者である「自分自身に対し、相手がどのような立場にある人間なのかをよく考え」、「伝達する相手」にとって「わかりやすい」、「具体的な伝達技術」を研修で実際に確認し、「伝達技術」を日常業務でも意識的に使用しようという意志が確認できた。

２）「保育職の魅力の伝達」研修で研修生が考えた「自己課題」は、「研修内容を伝える対象である職場の人間に伝達しようという意志」であった。職場の後輩に「保育職の魅力を伝達」し、「後輩指導」に活かしていこうという意志が読み取れた。

３）他の「保育職の魅力の伝達」研修で研修生が考えた「自己課題」として「自らの保育を振り返り」、「後輩にとってのモデル」となれるように「頑張ること」がデータから読み取れた。



Ⅱ　2014 年度中堅後期保育士現任研修「保育職の魅力の伝達」４ヶ月後に行った事後アンケートからは、上の表のような分析結果が得られた。

１）受講者により、研修内容が「活かせている」と実感されている講習内容は、「魅力の伝達ができているか（25.0%）」よりも、「子どもの成長の実感（49.0%）」の方が高い。研修の４か月後でも、日常業務で「ややできている」と実感している講習内容が「子どもの成長の実感」である。つまり、**「子どもの成長の実感」の言語化・伝達することが受講者にとって意義深い講習内容だと言える。**

２）「保護者」への魅力の伝達において、「直後アンケートの「魅力の伝達」の対象としての「保護者」（コード数１、0.5%）よりコード数 13、コード%が 12.5%と顕著に増加している。このコード内容を分析していくと、保育者としてのやりがいの実感から保育者としての責任感へと次の図のように変化していくことがわかる。



今後の課題　本研究では、「保育職の魅力の伝達」を受講した中堅後期保育士に対して、研修４カ月後に行ったアンケート結果を分析した。早期離職防止に関する竹石聖子らや阿部道代等の研究において、「職場との関係があってこそ生じる出来事から感じられるやりがい」や「子どもたちの行動や出来事自体が保育士にとって精神的支えになっていると同時に、日々の出来事や子どもとの共有時間や情緒的交流が保育者の満足感に寄与している」とされている。「保育内容や保育環境の評価の実施とともに、自分自身への評価として『気づき』が得られることが、保育士としての満足感や効力感の形成に寄与している可能性が示唆」される。

こうした先行文献でも指摘される、「自分自身への評価として」の「気づき」を促すべく、我々報告者らは、中堅後期保育士への「保育職の魅力の伝達」講座開催の意義を今後も追求していきたい。

本研究で依拠した講習受講者へのアンケート調査結果に示唆された、「子どもの成長への感動」の「伝達」については、まずこれまで我々報告者が開催してきた「保育職の魅力の伝達」の教育プログラム内容を継続していく。それは参加者属性として「同僚性」が保障され、講座に参加する各地域の中堅後期保育者たちと「伝達」し合うことで、「言語化される」「保育職の魅力」を「再発見」できる講座であることが確認されたためである。

その上で、「子どもの成長への感動」を、特に「保護者」に伝達し、保護者とその感動が共有できる「伝達方法」を、参加する中後期保育者それぞれが「考え」、日常の保育業務にその「伝達方法」を意識化して取り入れることができるようにすることが必要であると考えている。それは、本研究で依拠した、平成 26 年度開催の講座参加者の受講後の実感として、保護者をはじめとする他者への「伝達方法を考え、見直し、日常の保育業務に活かし」た結果、保護者から「保育士として信頼されるようになってきた」こと。それが保育士として就労を継続するための「起動力・原動力」となりうる「保育士としての責任感」を生じさせる良い契機となりうることを、今後開催していく、「保育職の魅力の伝達」講習参加者達へと、まずは我々が伝達し、中堅後期保育士に「保育職の魅力の伝達」講習開催の意義を明示することが必要であろう。

【参考文献】
・平山修平（2011）「ｸﾞﾗｳﾝﾃﾞｯﾄﾞ・ｾｵﾘｰ・ｱﾌﾟﾛｰﾁ」末田清子『ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究法』ﾅｶﾆｼﾔ出版

初任保育者研修カリキュラムの検討

勝浦眞仁（桜花学園大学）　片山伸子（名古屋柳城短期大学）

【問題と目的】

愛知県現任保育士研修において、初任保育者研修はこれまでほとんど行われてこなかった。というのも、初任研修の多くは各市町村で実施されてきたからである。しかし、養成校を卒業した初任保育者は、就業後も保育者としての力量を伸ばすことが必要である。よって、研修やサポートを行うことが養成校の教員に求められる。本コンソーシアムでは、現任保育者向けの研修カリキュラムの作成を目的としている。そこで、これまで十分に行われてこなかった、初任保育者向けの研修カリキュラムを検討する意義は大いにあると考えられる。

本発表では、２月２０日・２月２８日に試行的に行われた初任保育者研修の内容を報告する。その内容が初任保育者向けとして適切であったかどうかを評価し、初任保育者向けのカリキュラムに必要な内容を検討する。２月の両日に実施した研修の内容は別表の通りである。

【方法】

我々が行った初任保育者研修には２つのねらいがあった。１点目に、保育者としての技術・知識の習得を促すことである。具体的には、１日目の３・４限、２日目の１・２限に実施された。保育の現場で１年を過ごす中で、初任者にとって課題となりやすい内容（アレルギー、注意義務、乳幼児期の遊び）を取り上げた。これについては、研修前および研修後のアンケートを比較することにより、研修が期待に応えられたかどうかを満足度および自由記述から検討する。

２点目に、５年目前後の保育者による「保育者の魅力の伝達」を受けるとともに、その後の先輩保育者との交流を通して、自身の抱える悩みに対するアドバイスをもらうことで、より前向きに保育に取り組めるきっかけを提供することである。具体的には、１日目の１・２限、２日目の３・４限に実施された。

本コンソーシアムでは「保育者の魅力の伝達」というプログラムを構築してきた。これまで２回にわたり実施し、ある一定の成果は収めてきた。これまで実施されたプログラムは、現任保育者から養成校の学生に向けられた伝達であった。今回は同じ現任者同士であり、キャリアの違う現任者同士で行うことを試みたことが特徴である。

これについては、研修後のアンケートおよび研修中に行われたシートの自由記述から検討することとした。自由記述からは成果にあたると考えられるキーワードを抽出した。キーワードの抽出については、共同報告者と相互に確認し、信頼性を高めた。

２日間の研修についての申し込み受講者数５２名、２０日の研修参加者数３５名、２８日の研修参加者数は３２名であった。受講前アンケートは２５名の参加者から回答を得た（回収率４８%，公立保育園１４名、私立保育園９名、私立幼稚園２名）。受講後アンケートは２０日３５名（回収率１００%）２８日１９名（回収率５９%）から回答を得た。事前・事後アンケートの結果を以下に示す（表中の数字は人数）。

【結果１：事前・事後アンケートの結果】

5	20日1限 保育者としての1年目を振り返ろう
5	20日2限 新任保育者としての悩みを乗り越えよう
19	20日3限 知っておきたいアレルギーと事故対応
16	20日4限 保育者の注意義務を学ぶ
23	28日1．2限 先輩保育者が伝える保育職の魅力
4	28日3限 保育者が伝える保育職の魅力
4	28日4限 来年度に向けた目標を立てよう

＜受講前：今回研修で学びたい科目のアンケート結果＞

7	20日1限 保育者としての1年目を振り返ろう
13	20日2限 新任保育者としての悩みを乗り越えよう
11	20日3限 知っておきたいアレルギーと事故対応
6	20日4限 保育者の注意義務を学ぶ

＜受講後：研修でためになったこと、２０日＞

16	28日1，2限 乳児期、幼児期のあそび
2	28日3限 先輩保育者が伝える保育職の魅力
1	28日4限 来年度に向けた目標を立てよう

＜受講後：研修でためになったこと、２８日＞

【結果２：自由記述のキーワードの抽出】

「保育者としての技術・知識の習得を促すこと」については、「目標・目的を持つ」・「引き出しを増やす」・「実践につながる」というキーワードが抽出された。具体的には、「活動をする目的をもって活動することが大事」、「遊びをたくさん覚え、自分の引き出しを作りたい」、「実際の保育につなげていける内容だった」等である。

また「保育者の魅力の伝達」については、「悩みを相談することができた」、「子どもたちの成長を見てやりがいを感じる」というキーワードが抽出された。具体的には、「似たような悩みをして乗り越えてきた先輩方だからこそ、自分の中で納得できるアドバイスをもらうことができた」、「大変なこともあるけど、その分子どもの成長を見ることができたり、子どもと笑って過ごせたり、楽しいことや嬉しいこともたくさんある」等である。

【考察と課題】

以上の結果から、今回実施した初任者研修のカリキュラムについて考察を行う。

「保育者としての技術・知識の習得」については、受講前後ともに高い期待と満足を得る結果になった。特に乳幼児期の遊びに対する期待と学びは大きかった。研修カリキュラムの中では、実践的な保育技術や知識を提示することが欠かせない。また、ねらいを持った保育の重要性に対する気づき、養成校で学んだことの再確認ができた。今後、養成校でのカリキュラムと初任研修の連続性が課題となる。

「保育者の魅力の伝達」については、先輩保育者が子どもたちについて同じように悩み、また成長を喜んでいたことを知ることができた。初任保育者が「保育者誰もが同じ道を通ってきた」ことに対する気付きが、今回の現職者同士で行ったプログラムの有効性であったと結論できる。今後は初任保育者からの悩みの伝達も検討したい。

以上の考察から、試行として行われた本研修の２つのねらいを通して、初任保育者が「保育者としての自覚」をより意識できたことが今回の研修の成果であったといえる。

・保育職の魅力の伝達⑦

4～6 年目の保育者に『保育職の魅力の再発見』を行う意義の分析
―初任者への伝達・交流が与える影響―

片山伸子（名古屋柳城短期大学）・勝浦眞仁（桜花学園大学）

調査目的

これまでに行われてきた研修

中堅保育者に対する研修→「保育職の魅力の伝達」（愛知県現任保育士研修）ワークショップ

現職者同士が話し合い、保育職の魅力について言語化・グループごとに発表

1 回目・2 回目　参加者で話し合うだけの形態

3 回目　保育者志望の学生に対して発表をする形態

ワークショップの分析

小嶋(2015)　研修の発表内容を分析

「成長（子ども・保育者本人）」「笑顔」「達成感」「つながり」「四季」が保育職の魅力

小川(2015)　研修参加者に研修直後、研修参加後にアンケート調査を行い、結果を分析　4　か月後のアンケート「研修における学びを日常業務において実行できているか」という質問と職場環境に対する認識の「保育職としての誇り」の項目が相関が高い

→研修での学びを実行できていると認識することが、保育職の専門性の高さや誇りを感じ、「保育者としての成長」の意識につながる可能性

嶋守・布施(2015)　研修直後のアンケートの自由記述を分析

参加者の自己課題として

①「伝達対象に合わせた伝達方法を選択していこうとする意志」

②伝える対象は「職場の後輩」であり、魅力を伝達することで「後輩指導に活かす」

③「保育を振り返り、後輩にとってのモデルとなるようがんばる」

研修 4 か月後のアンケートの記述内容の分析

「子どもの成長の実感」の言語化・伝達することが、受講者にとって意義深い講習内容

分析の視点

今回の研修は、初任保育者を伝達の対象として設定

①前回と同様の魅力のキーワードが出現するのか

②初任保育者への伝達を設定することによって自己課題①、②と③はどう達成されるのか？

→現任保育者、特に中堅保育者の研修として「保育職の魅力の伝達」が意味を持つのか、初任との交流に意義はあるのかを検討する。

方法

対象者：保育所・幼稚園に勤務する現役保育者 28 人。勤続年数　2～15　年。2　日間ともに参加した参加者の平均勤続年数は 4.33 年（2 年目の参加者は臨時職員として 3 年のキャリア・15　年の参加者は現在の勤務園におけるキャリア　は 6 年）

2 日間の参加を原則としたが、1 日目のみの参加者は 6 人　2 日目のみは 7 人いた。

研修内容　2　日間行われた。（内容は別紙ポスター参照）保育者の魅力の伝達に関わる保育を振り返る課題が2つ　1　日目：エピソード記述を学びながら、具体的な保育場面から保育を振り返る　2　日目：前回行われた「保育職の魅力の伝達」とほぼ同様の実施方法で保育者同士のグループ討議と新任保育者との交流が行われた。

結果と考察

研修の満足度：1 日目の研修後アンケート(回収枚数 28 枚)「大変満足できるものだった」10　人「満足できるものだった」15 人 2 日目の研修後アンケート（回収枚数 25 枚）「大変満足できるものであった」6　人、「満足できるものであった」18 人→両日を通じて満足の高い研修

結果 1：事前・事後アンケートの結果

選択者数（人）	内容
17	20 日 4 限　これからの人生を考えよう
12	20 日 3 限　エピソードを通じて語り合おう
12	28 日 1 限　保育職の魅力について
12	28 日 4 限　保育職の魅力を再発見しよう

＜受講前：今回研修で学びたい科目のアンケート結果＞

選択者数（人）	内容
19	20 日 3 限　エピソードを通じて語り合おう
4	20 日 1 限　保育職について語り合おう
4	20 日 4 限　これからの人生を考えよう

＜受講後：研修でためになったこと　20 日＞

選択者数（人）	内容
9	28 日 1 限　保育職の魅力について
9	28 日 2 限　保育職の魅力について語り合おう
6	28 日 3 限　新任保育者に保育職の魅力を語ろう

＜受講後：研修でためになったこと　28 日＞

→保育を振り返る内容がためになったと感じる受講者多い

分析① 保育者の魅力のキーワード：「保育職の魅力の再発見」の自由記述　26　枚（2　日目研修後に記入）を分析

小嶋で見られたキーワードの出現頻度

「成長」22 名（84.6%）・「笑顔」9 名（34.6%）

「つながり」16 名（61.6%）・「達成感」3 名（11.5%）

→保育者の感じる魅力は同じ傾向

分析② 初任保育者への伝達と交流の分析

「保育職の魅力の再発見」の自由記述　26　枚「今日の授業の振り返り」26 枚の計 52 枚を分析。

自己課題として嶋守・布施(2015)であげられていた①伝達　方法に関する記述②後輩指導に活かすような記述③振り　返り・モデルとなれるようがんばる記述がみられるかを検討　伝達方法（11　件）（記述例：「経験が浅い保育士さんに伝えるに　はどうしたらいいか考えるのは大変だったが、表現力など　鍛えられた。」「相手につたえることが多い仕事なので表現　方法を伝えていかないとと思った」）

後輩を意識する記述（10 件）　（記述例：「新人を育てるまで　にはいかないが、後輩の力になれることもあるという自分の　役割に気づけた」　「職場で働いている後輩がどんどん悩み　を出せるような雰囲気作りやきっかけを作っていく」）　振り返り（13　件）（記述例：「悩んでいた自分が新人さんに助　言できるので、成長したのかと思う」「新人という自分たちが　通ってきた道の先生たちに伝える場が自分自身の振り返り　につながった」）

→初任者への伝達を通じた魅力の発見と振り返り。

まとめと課題

参加者の満足度は高く、研修の意義は大きい。

4～6 年目の保育者は中堅にさしかかり、新任とは異なる迷いが生まれてくる時期

→初任者との交流、保育職の魅力の再発見を経て、保育者の意味を見出したのではないか。

キャリア発達に合わせた研修・学び直しの機会の保障と研修内容の精査が課題。

・保育職の魅力の伝達⑧

保育コンソーシアムあいち主催で行われた研修の内容

目　　的：保育の「社会的ニーズ」を反映した「質の高い保育者養成プログラム」の開発のために、保育者養成校とステークホルダーとが一体となり組織された「保育コンソーシアムあいち」による基幹保育者養成プログラム開発事業の一環として、新任保育士として、必要な現場における基礎知識及び技能の習得を目的としています。

受講対象者：初任保育者
定　　員：40名（名古屋短期大学、桜花学園大学、名古屋柳城短期大学、岡崎女子短期大学　各10名ずつ）
開催期間：平成28年2月20日（土）・28日（日）　2日間
開講時間：9：20～16：30

会　　場：名古屋短期大学
時間割：

日程	曜日	1限目 9:20～10:50	2限目 11:00～12:30	3限目 13:20～14:50	4限目 15:00～16:30
2月20日	土	保育者としての1年目を振り返ろう	新人保育者としての悩みを乗り越えよう	知っておきたいアレルギーと事故対応	保育者の注意義務を学ぶ
		小嶋玲子（桜花学園大学） 小川絢子（名古屋短期大学）	小嶋玲子（桜花学園大学）	船木智子（桜花学園大学）	古畑　淳（桜花学園大学）
2月28日	日	①乳児期の運動あそび　平野朋枝（名古屋短期大学） ②幼児期の運動あそび（子どもの運動発達を促す方法ー環境が行為を引き出す）　水落洋志（名古屋柳城短期大学） ③乳児期の手遊び・ふれあい遊び 太田早津美（桜花学園大学） ④幼児期の音楽あそび　高須裕美（名古屋短期大学）		先輩保育者が伝える保育職の魅力	来年度に向けた目標を立てよう
				布施佐代子（桜花学園大学） 小嶋玲子　（桜花学園大学）	小嶋玲子（桜花学園大学） 布施佐代子　（桜花学園大学）

目　　的：保育の「社会的ニーズ」を反映した「質の高い保育者養成プログラム」の開発のために、保育者養成校とステークホルダーとが一体となり組織された「保育コンソーシアムあいち」による基幹保育者養成プログラム開発事業の一環として、保育実践の振り返りと保育実践への結びつけの必要性そのものを学び、今後の資質向上の土台を築くことを目的としています。

受講対象者：概ね4～6年目の保育者
定　　員：40名
開催期間：平成28年2月20日（土）・28日（日）　2日間
開講時間：9：20～16：30

会　　場：名古屋短期大学
時間割：

日程	曜日	1限目 9:20～10:50	2限目 11:00～12:30	3限目 13:20～14:50	4限目 15:00～16:30
2月20日	土	保育職について語り合おう	エピソードを描いてみよう・私の心に響いた保育体験	エピソードを通して語り合う・仲間との対話と共有	私のこれからの人生を考えよう―自分なりの人生を作るために
		嶋守さやか（桜花学園大学） 片山伸子（名古屋柳城短期大学）	布施佐代子（桜花学園大学） 小川絢子（名古屋短期大学） 勝浦眞仁（桜花学園大学）		成田朋子（名古屋柳城短期大学） 片山伸子（名古屋柳城短期大学）
2月28日	日	保育職の魅力について	保育職の魅力を語り合おう（グループ交流）	新人保育者に保育職の魅力を語ろう	保育職の魅力を再発見しよう
		青山裕美（一宮市）	大岩みちの（岡崎女子大学）　鈴木恒一（岡崎女子短期大学） 勝浦眞仁（桜花学園大学）　片山伸子（名古屋柳城短期大学）		

いろいろな体験・経験を通して、豊かな心を育む保育

社会福祉法人　久昌会　いぼばらこども園

①畑作りを通して









園の畑でいろいろな物を作っています。

・夏野菜
・さつまいも
・じゃがいも
・だいこん
・たまねぎ　　など

子ども達が園から水を運んで水やりをしたり、草取りをしたりして育てています。







②クッキングを通して

栽培物を使ってのクッキング



手は猫の手
にして…



畑で育てた野菜を自分たちで切り、カレーやサラダ、
大根煮などに調理して食べています。

季節ごとのクッキング



よもぎ団子



おこしもの

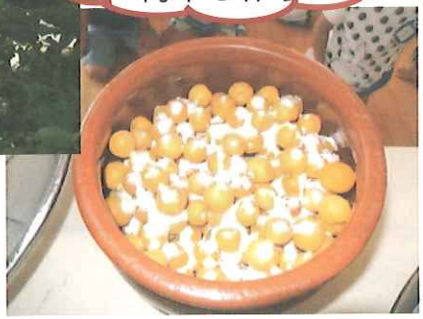


桜もち

実のなる木の収穫



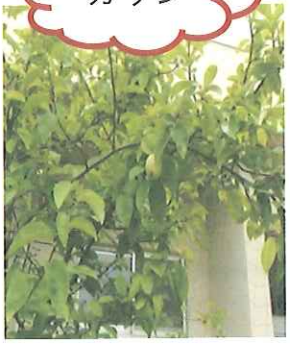
梅の実取り&
梅干し作り





ヤマモモ

カリン



③手仕事を通して

牛乳パックをちぎり、ミキサーにかけて細かくしたものを使って紙すきをします。玉ねぎの皮の煮汁を使い、色を付けたもので模様をつけます。
自分で作ったものが卒園証書になります。





紙すき





裂いた布や毛糸を使い、縦糸に編み込んだ作品は、いろいろな物に使います。

玉ねぎ染め



さき折り

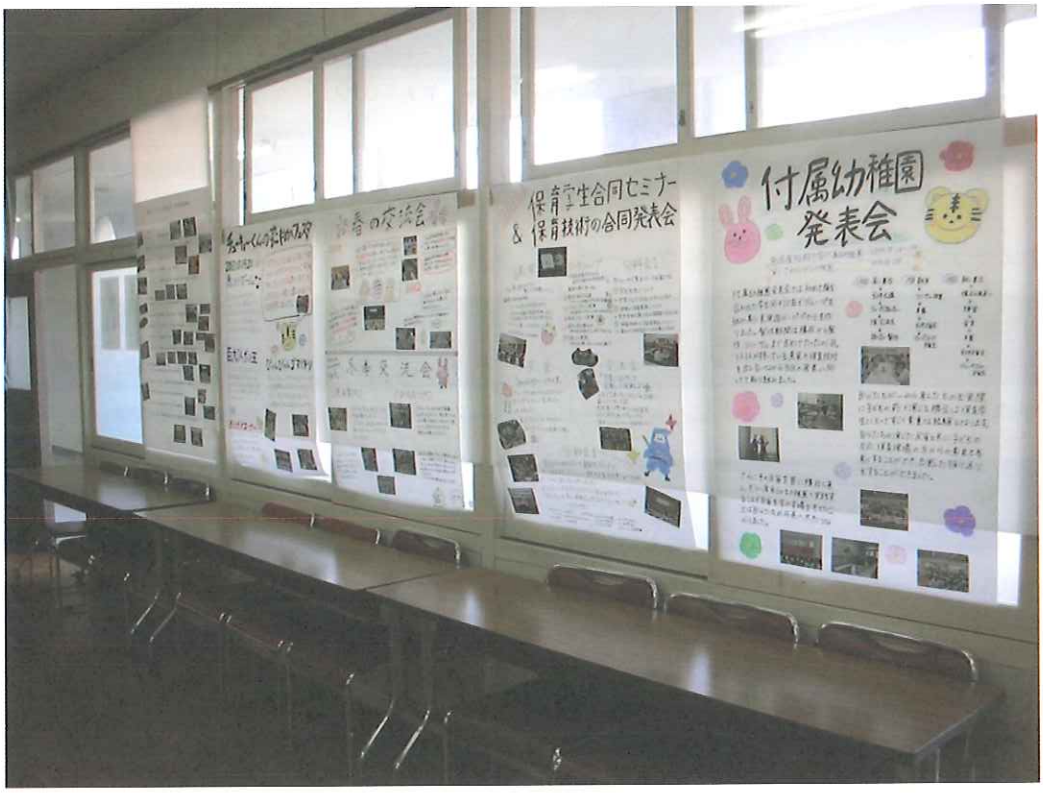




布にビー玉やペットボトルのふたを輪ゴムで止めたり、縛ったりして模様をつけていきます。玉ねぎの皮の煮汁で煮込み、色を染めます。
作った風呂敷はパジャマや絵本を包んで活用します。

・保育学生間連携の実際


保育学生合同セミナー
& 保育技術の合同発表会
付属幼稚園
発表会


保育学生合同セミナー
& 保育技術の合同発表会
付属幼稚園
発表会

「保育コンソーシアムあいち」
平成 27 年度シンポジウム

「海外の保育」ポスター発表資料

以下は、平成 28 年 3 月 27 日（日）の「保育コンソーシアムあいち」第三回シンポジウムにおける「海外の保育」のポスター発表の資料である。

ポスター発表では、配信用の動画教材を制作するために作成したスライド（パワーポイント）をベースに、各教職員がポスターとしてまとめたものを展示したが、それらをさらに本報告書用に体裁を整え、ここに掲載する。

北アメリカ		
カナダ	保護者支援のための現任保育士の力量形成	桜花学園大学 小嶋玲子　嶋守さやか
アメリカ合衆国	アメリカ合衆国ワシントン州および カリフォルニア州における 地域の保育ニーズと保育者養成の現状について	岡崎女子大学・短期大学 大岩みちの　山本將　山田悠莉
ヨーロッパ		
イタリア	イタリア（エミリア・ロマーニャ）での 幼児教育の事例調査	岡崎女子大学・短期大学 平尾 憲嗣　米窪 洋介　佐善 圭
フィンランド	フィンランドの保育	名古屋柳城短期大学 水落洋志　山脇眞弓
スウェーデン	スウェーデンの保育	名古屋短期大学 野津　牧
オセアニア		
ニュージーランド	ニュージーランドの保育	名古屋短期大学 髙橋一郎
アジア		
中国	中国の保育	名古屋柳城短期大学 荻原はるみ
韓国	韓国어린이집（保育園）における 表現活動の研究	名古屋学院大学 横井 志保 岡崎女子大学 鈴木 方子
ベトナム	ベトナムの保育	名古屋短期大学 野津　牧

海外の保育　北アメリカ編
～その１　カナダ～

保護者支援のための現任保育士の力量形成

―カナダから学ぶパートナーシップ時代の保護者支援―

桜花学園大学　小嶋玲子　嶋守さやか

1. パートナーシップ時代という時代養成に見合った保護者支援の在り方を、カナダのノーバディーズ　パーフェクト（Nobody's perfect　以下略して NP）プログラムの現場から学び、支援者の資質向上のための研修を知り、今後の日本の保育士現任研修に活かすことにある。
2. サラダボウルの国と言われるカナダの多文化共生社会で子どもや保護者を支援する保護者支援を、カナダの現任研修プログラムやその実践から学ぶことにある。多様な価値観を持つ保護者の支援や外国籍の保護者を支援する現任者の資質と専門性の向上がどのように行われているかについて学び、その成果を愛知県の保育現場での現任教育に還元することを目的とした。
3. 保育者・保護者世代がすでにデジタルネイティブの時代であるので、カナダの環境教育・自然教育に学び、日本の若い世代に環境教育・自然教育の理解を促す試みの示唆を得、保育者の資質向上につなげたいと考えた。

訪問日時　2013 年 9 月 12 日（木）~2013 年 9 月 19 日（木）

訪問先

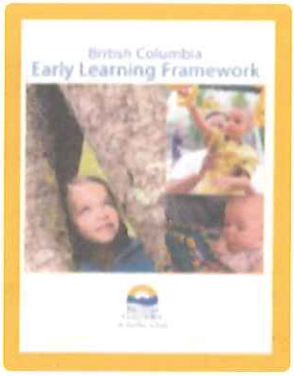
(1). West coast Child Care Resource Centre（研修施設＆図書館）
(2). Crabtree Corner Family（YMCA 低所得層　緊急一時預かり）
　　& Emergency Early Learning and Care Centre
(3). BANFF NATIONAL PARK（自然教育）
(4). University of British Columbia Faculty of Education（大学院プログラム）
(5). Berwick Child Development Centre (UBC Campus)（障がい児との総合保育）
(6). Simon Fraser University Childcare Society
　　（大学教員との連携　レッジョ・エミリア教育への移行）
(7). Burnaby Family Life Institute 保護者支援　NP program
(8). 絵本専門店 Vancouver Kids Books
(9). West Point Grey Academy　日本語クラスの先生との meeting

ブリティッシュコロンビア州（BC 州）保育事情

（州単位の行政区）

＊2008 年に Early Learning Framework を制定した。
（日本の保育所保育指針）
環境を通した教育と多文化共生を強調

＊2012 年に幼稚園（kindergarten）で半日保育から
Full school day を施行。（2010 年から段階施行）



British Columbia Early Learning Framework

HP　http://www.bced.gov.bc.ca/early_learning/early_learning_framework.html（2013 年）
http://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/early-learning　（2016 年現在）

■ BC 州保育者の資格（それぞれに資格が必要）

- ✧ ECE（Early Childhood Educator）Licence
  Preschool or Day care Centre で働く
  BC 州で 3～5 歳の幼児教育に携わる
- ✧ Infant Toddler Licence
  3 歳未満児保育
- ✧ Special Needs Licence
  特別ニーズのある子のための保育
- ✧ ECE Assist Licence
  1 年間のみ有効

■ 資格取得方法

ほとんどが Community College で取得可。ただし実習の割合が大（500 時間以上）
四年制大学での資格取得…BC 州では 2013 年度から初めて施行されている。
（4 つの資格＋学士号）
Capilano University（BC 州）
Faculty of Education, Health & Human Development

■ 労働条件

- 1クラス　12～15人程度の子どもに対して3人の先生
- 短い保育時間（14時前後に帰宅、その後はbaby sitterかnannyに）

↓

- 子どもをよく観察する、記録する時間が確保される
- 週一回の全体会議に週一回のクラス会議が設定される
- 他職種、ボランティア、保護者との協働が盛ん

} **資質向上**

賃金は低い（最低賃金に近い）保育者の地位向上は課題
母国では高学歴だが、言葉の壁で保育者になっている人も多い

■ 取得資格の公表

各保育室には保育者の顔写真と取得資格の掲示
（ECE, Special Needs, Infant Toddler,
+First aid training 等）
資格や研修が公表される
→　資格取得や研修への意欲につながる
Job Postings　職場異動は自分で主体的に



資格更新講習の受講が義務付けられている
ECE資格更新のために40時間（5年間）の研修が必要　⇒資質向上

研修時間確保の条件（費用負担、研修を勤務とするか等）は、採用時の契約書に書かれており、働く施設によって異なる

West coast Child Care Resource Centre

(※ABC3 つの機能)　　HP　http://www.wstcoast.org/index.html





15 か国語で施設パンフレットが作成されている。

A　保護者支援――市のすべての保護者支援施設の情報を網羅

（Child Care Resource & Referral）　親や care giver のための研修

さまざまな施設があるにもかかわらず情報が必要な人に行き届かないことが過去にあったため、1 か所に情報をまとめ、それぞれの施設間交流がスムーズに行われるようにという意図の元、WCRC は、1987 年に設立された。

B　保育者のための研修

現任保育者を対象とした研修として、Customized Professional Development and Training Services というワークショップを行っている。

・スキルアップのための造形、音楽、遊びのプログラム

・幼保小連携・若手保育者の燃え尽き症候群対策

などの講座が用意されている。日本の現任研修と共通する部分もあり、又それ以上に発展的なプログラムが用意されている。

・フォローアップ研修がなされている。研修で学んだことを実際保育に活かすうえで出てきた疑問点などが解消される。電話での質問にも対応している。

C　保育子育てのための図書館　　key word diversity（多様性）

・蔵書：保育に関する図書（15000 冊以上）、雑誌、定期刊行物、
ビデオ・パネルシアター・ポスター・楽器・スポーツ用具
教材（遊びや学びのキット）

・開館日：水：12-20　木・金：10-17　土：10-16　　・休館日：日・月・火

・利用料：年間 20 ドル（更新可）
4 週間の貸出期間で、返却が遅れた場合は 1 日につき 0.25 ドルの罰金、
紛失の場合は弁償をする規則である。





一施設や個人では保有できない図書や教材や用具などが豊富に用意されており、ここを訪れるだけで、保育や子育てを行う上でのヒントを得ることができると感じた。このことが保育や子育ての質の向上につながっていくのであろう。保育者のみならず、すべての市民に開かれていることが、保護者の子育て力アップにもつながる。まさに子どもを共に育てるパートナーシップの精神である。

Burnaby Family Life Institute
Nobody's Perfect Program



NPの実施言語も英語だけでなく、利用者の多いMandarin（北京語）、Arabic（アラビア語）、Farsi（ペルシャ語）で実施している。

利用者にとって大変利便性が高く安心感もあり、参加しやすいものとなっている。反面、母国語で話せる気軽さから話の内容が多岐にわたり、子育て支援というよりも生活支援の話になってしまう。NP Program本来の目的は親子の良好な関係支援である。その本来の目的の話し合いが疎かにならないようにする為の苦労がある。

日本で問題となっている、家に閉じこもって支援の場に出てこない家族のことを質問した。そもそもカナダで暮らすためには自ら動かなくてはいけないので、ほとんどの家族が支援の現場に自ら出てくるそうである。また、事情により孤立している家族がいる場合も、市民が必ず通報する。また、助けを求めないのは考えにくいことであり、そういうことがあったとしても本人の自己責任であるという考えであり、質問自体がなかなか理解されなかった。

同じNP Programを実施する場合でも、やはり文化や制度が異なるとおのずと留意点も異なるということを肌で感じた。Facilitatorの役割も異なるが、市民の生き方や意識の違いを理解した上での実施を特に考えなくてはいけないと感じた。

Simon Fraser University Childcare Society

BC 州立大学内　模範的幼児施設



9つのUnit(クラス)
各unitが独立
9unitのうち3unitで
レッジョエミリアの保育
月1回大学教員から指導
週1回大学院生が保育を
観察して保育者と話し合う

資質向上



幼児クラスの園庭

0~2歳児クラスの庭
(意図的段差有)





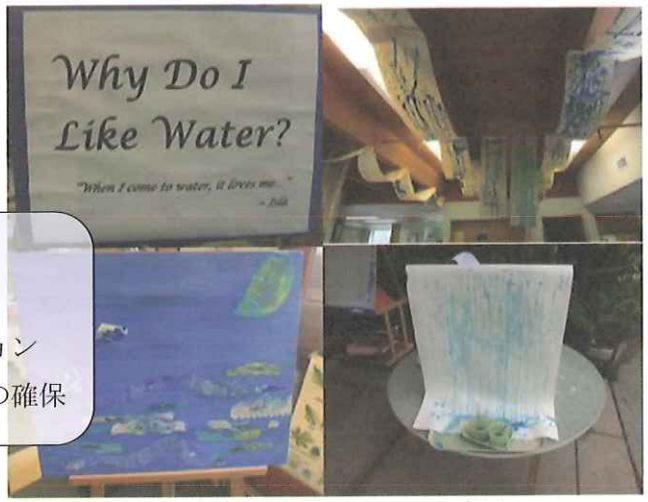




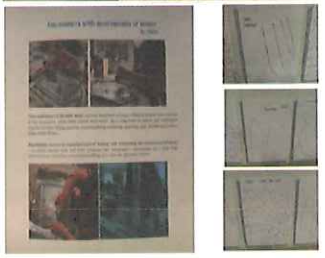


各 Unit（クラス）の様子

"Water"がテーマの
プロジェクト保育
ドキュメンテーション
作成のための時間の確保







水をテーマにプロジェクト保育

Berwick Child Development Centre (UBC Campus)

障がい児の保育で有名





One way mirror(すべての部屋にある)



室内プール



音楽室



室内運動場



感覚統合訓練用椅子



トイレに手すり



絵カード



手話



感覚刺激の玩具

1クラスに3名くらいの障がい児が在籍

障がい児のための施設設備と玩具や教材の工夫

主さのある玩具





いすの固定

Crabtree Corner Family & Emergency Early Learning and Care Centre (YWCA)







1階

シングルマザーの支援

2階

保育室

低所得層地域にある

緊急一時預かり



Security が厳重

海外の保育　北米編
～その２　アメリカ合衆国～

アメリカ合衆国ワシントン州およびカリフォルニア州における地域の保育ニーズと保育者養成の現状について
～特にコミュニティ・カレッジを含む大学の役割について～

岡崎女子大学・短期大学
大岩みちの　山本將　山田悠莉

訪問地

ワシントン州

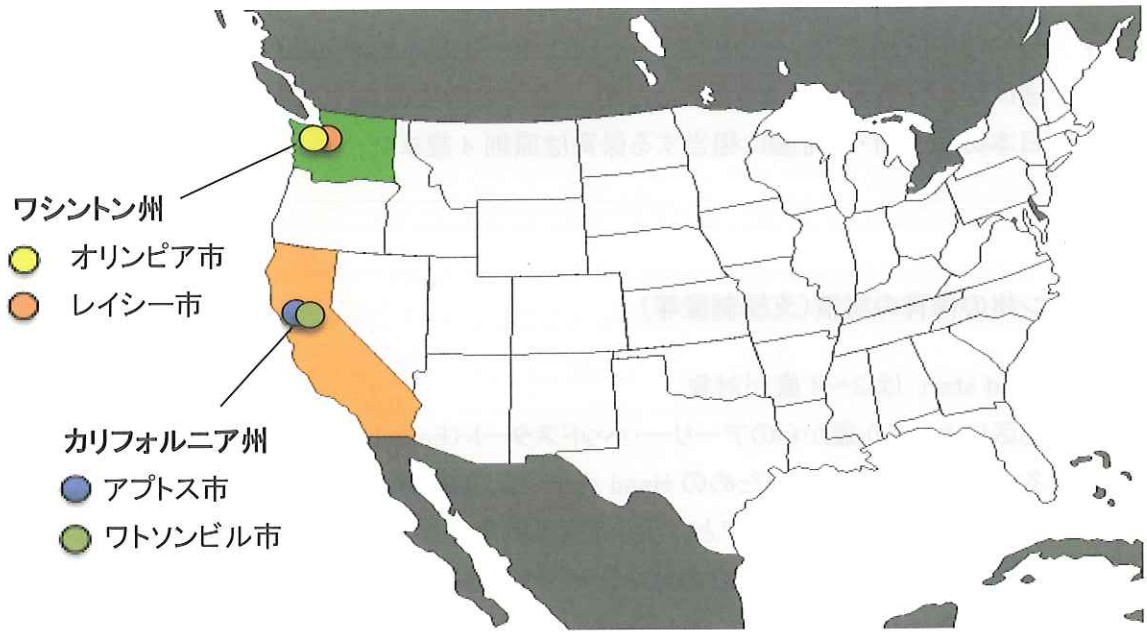
オリンピア市
- サウス・ピュージェット・サウンド コミュニティ・カレッジ
- ワシントン州　幼児教育資格管理部

レイシー市
- セント・マーティンズ大学
- 小学校（キンダーガーテン）

カリフォルニア州

アプトス市
- カブリオ・カレッジ

ワトソンビル市
- チャイルド＆ファミリー・デベロップメント・センター
- 同付属　Head start　保育施設



調査期間　平成 25 年 2 月 14 日～2 月 21 日

アメリカの保育の取組

Head start

低所得者層の子どもや家族に対して総合的な支援を行い、子どもに学校教育をスタートするための基礎的な力をつけさせる。1960 年代からスタートした国家的プログラム。

アメリカと日本の教育制度の比較

Grade	～	K	1～5	6	7～8	10～12
	Preschool (3,4歳) Child care (0歳～)	Kindergarten (5歳) 小学校の中にある就学前クラス (K-クラス)	Elementary School	Elementary SchoolまたはMiddle School	Middle School	High School
学年	～年中	年長	1～6		1～3	1～3
学校種	幼稚園 保育所等	幼稚園	小学校		中学校	高等学校

特徴：単なる教育プログラムではない。

・子どもの生活全体を視野に入れる。子どもへの保健・医療のプログラムを実施。
・親の関わりを重視。親に対する研修を行い、保育への参加を促す。
・家庭環境への配慮。緊急支援や危機への介入。
・各家庭の文化的背景を尊重。

ワシントン州の保育の実情（施設）

ワシントン州の保育施設

	0歳～2歳	3歳～4歳	5歳
公立保育施設	Head start child care center		kindergarten
	Early head start	Head start	
私立保育施設	Child care center		
	Family home child care		

- 0 歳からの保育施設は、私立のチャイルド・ケア・センター（Child care center）が中心。家庭で子どもを預かるファミリー・ホーム・チャイルド・ケア（Family home child care）がある。この他、私立のプリ・スクールなどがある。
- 公的な施設としては、ヘッド・スタート・センター（Head start child care center）がある。
- 法に定めた義務教育は 8 歳からだが、5 歳で小学校の K-クラス kindergarten に入る。
- 日本の保育所・幼稚園に相当する保育は原則 4 歳まで。

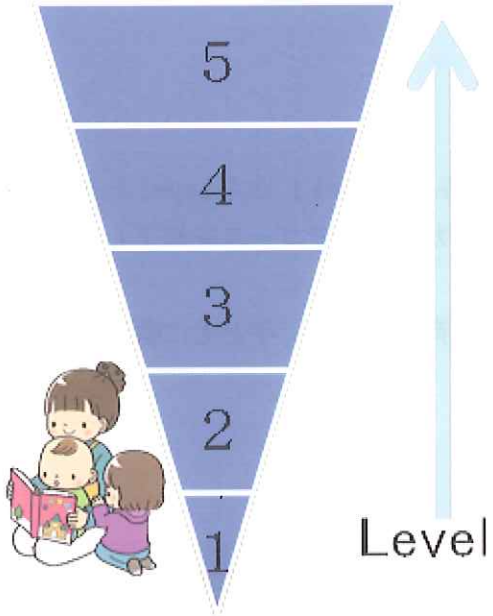
ワシントン州の保育の実情（支援制度等）

- Head start は 3～4 歳が対象。
- 地区によって 0 歳からのアーリー・ヘッドスタート（Early head start）という制度がある。
- ネイティブ・アメリカンのための Head start は、0 歳から 5 歳まで。
- Head start は無料。ECEAP という州の支援制度もある。いずれも低所得家庭が対象。これらのプログラムは、公立のセンターだけではなく、コミュニティ・カレッジや小学校、民間のチャイルド・ケア・センター内などにクラスを設けて実施される。

保育の質保証

2010 年　幼児教育 10 ヶ年計画がスタート

・子ども、親、保育者、保育施設、コミュニティが共に伸び、成果を上げることが目標。
・幼児の学びと発達に関するガイドラインを作成するなど、保育のための様々な指針や基準を示し、保育施設の認可、評価を行っている。
・子どもを持つ親に対して、認可された保育施設を利用するよう広報をしている。
・保育者の専門的能力についてのガイドを作成して資質の向上を推進する一方、保育者の重要性についての社会的な理解と保育者の地位の向上を目指す。



上位のレベルは下位のスキルを含む。

質の高い保育を提供できるよう、保育者の持つべき知識やスキルを Level 1 から Level 5 に分けて定めた（2009 年）。

・大学やコミュニティ・カレッジは、それに基づいてステージ別にカリキュラムを組み、保育者養成を行う。

・現場の保育者は、自分の持つべき力を確認する。

・州や地方組織は、保育者の専門性の向上に務める。



ワシントン州幼児教育資格管理部



保育者の養成

ワシントン州オリンピア市
サウス・ピュージェット・サウンド・コミュニティ・カレッジ

コミュニティ・カレッジ（短期大学に相当）の特徴

- 地域に開かれた高等教育機関である。
- 多様な学生を受け入れている。
- 柔軟な履修制度と丁寧な修学指導。
- 必要単位を修得すれば、4 年制大学に編入が可能な学位を取得できる。コミュニティ・カレッジから大学への進学者は多い。

コミュニティ・カレッジでの保育者養成

- 保育者のための資格取得プログラムは3種類ある(Level 1 からLevel 3 まで)。
- Level 2 までは高校を卒業し、コミュニティ・カレッジでコースを修了して証明書を取得。
- Level 3 は、準学士の学位が必要。標準的な保育者の資格。子どもに言語を習得させる力などが求められる。
- 卒業後は、チャイルド・ケアなどに就職する。





講義室のある建物と保育施設が一体になっており、学生は幼児と接しながら学ぶことができる。

ワシントン州レイシー市　セント・マーティンズ大学

保育者養成における大学の役割

- 小学校の教育に接続された幼児教育の担い手の育成。大学での学士の学位取得により、Level 4の資格を得る。また、Kindergarten（K-クラス）の教員となる。
- 今日的な保育の課題や政策を理解し、子どもの権利や保護者や保育者の責任について説明できる力、質の高いカリキュラムの開発力、現場で必要になる問題解決能力、リーダーシップの力などを伸ばす。



- Level 5には、大学院を修了することが求められる。

カリフォルニア州アプトス市　カブリオ・カレッジ（コミュニティ・カレッジ）

- カリフォルニアでは、保育現場で就くことのできる職務に対応して、6段階の保育者の基準が設定されている。新卒の準学士は3番目の段階となる（Child Development Permits, 2009）。
- 地域に住む人々の言語や文化的背景への配慮を重視（英語以外の言語を母語とする住民の割合が大きいため）。
- Head start との緊密な連携。





保育・子育て支援の現場

カリフォルニア州ワトソンビル市
チャイルド ＆ ファミリー・デベロップメント・センター

子どもに質の高い保育をするには、家庭の安定と親の理解・参加が重要

- 親のための様々な支援（就労相談を含む）
- 子どもを育てることの大切さを知ってもらう（研修）
- 親に保育に参加してもらう（父親のボランティア参加）





センターは別の場所に 3 つの保育施設を持ち、実際の保育を行っている

まとめ

- コミュニティでの助け合いを大切にするアメリカの文化を活かしつつ、2010 年頃を境に保育の質的な向上への取組が盛んになった。
- 5 段階や 6 段階の保育者の養成プログラムがあり、働きながらスキルアップをするための教育をコミュニティ・カレッジ等で行う。
- コミュニティ・カレッジは Head start などの保育プログラムのセンターであり、親の研修を行い、地域の保育の中心的な役割を果たす。

海外の保育　ヨーロッパ編
～その１　イタリア～

イタリア（エミリア・ロマーニャ）での幼児教育の事例調査
～レッジョ・エミリアにおける保育施設での事例調査～

岡崎女子大学・短期大学
平尾 憲嗣　米窪 洋介　佐善 圭





調査の目的・方法等

（1）目的

音楽分野と造形分野の教科を融合させた新たな教育プログラムの可能性を模索するため、我々研究者は、美術的要素を存分に幼児教育の中に取り入れ、幼少期における子どもの創造性の発達の援助に力を注いでいる、イタリアのレッジョ・エミリアプログラムに注目した。

（2）明らかにしたい点

レッジョ・エミリアプログラムの特徴であるアトリエリスタ（美術専門家）の存在にスポットを当て、幼児教育の中でどのような役割を担っているか、また、子どもの創造力の発育にどのような影響をもたらしているかを調査するため、保育現場におけるアトリエリスタや、保育士と子どもとの関わりを視察する。また、エミリア・ロマーニャ州やその周辺での公立、私立の保育施設での事例調査も行い、それぞれの施設における幼児教育の特色や工夫を視察する。

（3）調査の方法

・ローリス・マラグッチ国際センター
・アトリエリスタ　Giorgio Pierre 氏による光の美術館
・Remida　クリエイティブ・リサイクリング・センター
・ガッビアネッラ幼稚園
・フィーロニード保育園
・カルメロ幼稚園
・ファニーゴラ小学校

以上の施設にて、レッジョ・エミリアアプローチに関する実際の保育活動や、教育学者等の考えを聴講し知識を深める。

イタリアの保育園、幼稚園

・保育園（asilo nido）　0 歳～2 歳児のみが通う
・幼児学校（Scuola dell' Infanzia）　3 歳児から 6 歳児のみが通う
※日本の保育園とは、対象とする子どもの年齢が異なっている

イタリアの保育士、幼稚園教員免許

・2013 年に改定がなされ、教育課程を受けることが必須
・保育所と幼稚園の資格や免許は同時に取得することが出来ず、両方を取得したい場合は、再度、教育課程を経なければならない

レッジョ・エミリアの幼児教育の歴史

・第二次世界大戦後、市民やイタリア女性連合が協力して独自の幼児学校を設立
1960 年代には、ローリス・マラグッツィ（1920-1994）が船頭となり、私立幼児学校が設立された
・「確立された教授方法」を教えるのではなく、「子どもたちへの働きかけ」を重要としている
・年に 2 回ほど町の中でイベント（町の中で開催する子どものアート展）を行うなど、町を挙げて幼児教育に取り組んでいる

アトリエリスタ（芸術士）

・大学などで、美術、音楽、演劇、ダンス、写真などの芸術を専攻した専門家
園内にはミニアトリエと呼ばれる小さな空間が設けられ、子どもの興味、関心に心を傾けながら子どもと一緒に活動し、記録する
・基本的に非常勤職員で、数園を指導することもある

ガッビアネッラ幼稚園

Scuola dell' infanzia Gabbianella

ガッビアネッラ幼稚園の園舎も元は小学校であった建物を 2006 年から幼稚園として改装し、3 歳児 24 名、4 歳児 26 名、5 歳児 27 名が通園している。

地上2階建て地下1階の建物で、各階ごとにテーマを設けてアトリエを配置している。

地下は「自然物」、1 階は「光と反射」、2 階は「絵画」とし、登園した子どもたちが興味を持った内容に取り組んでいた。

当幼稚園の前任アトリエリスタは、音楽を専攻としていたため、食卓でのフォークやスプーン、お皿などを打楽器として用いた即興的な合奏が行われていた。

B1F「自然物のフロアー」

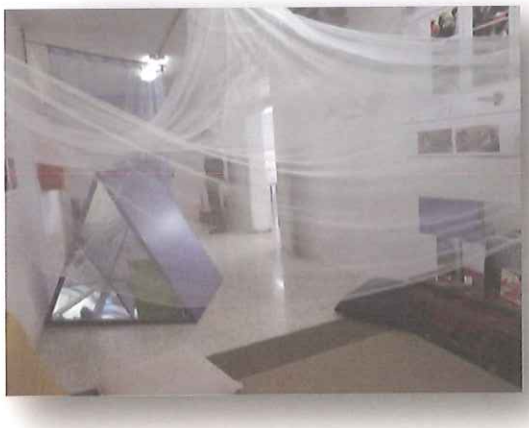


木や石など大きさや形で分類された素材



貝殻など種類で分類された素材

1F「光と反射のフロアー」



鏡の入った三角のテント



下から照らすライトで遊ぶこどもたち

2F「絵画のフロアー」

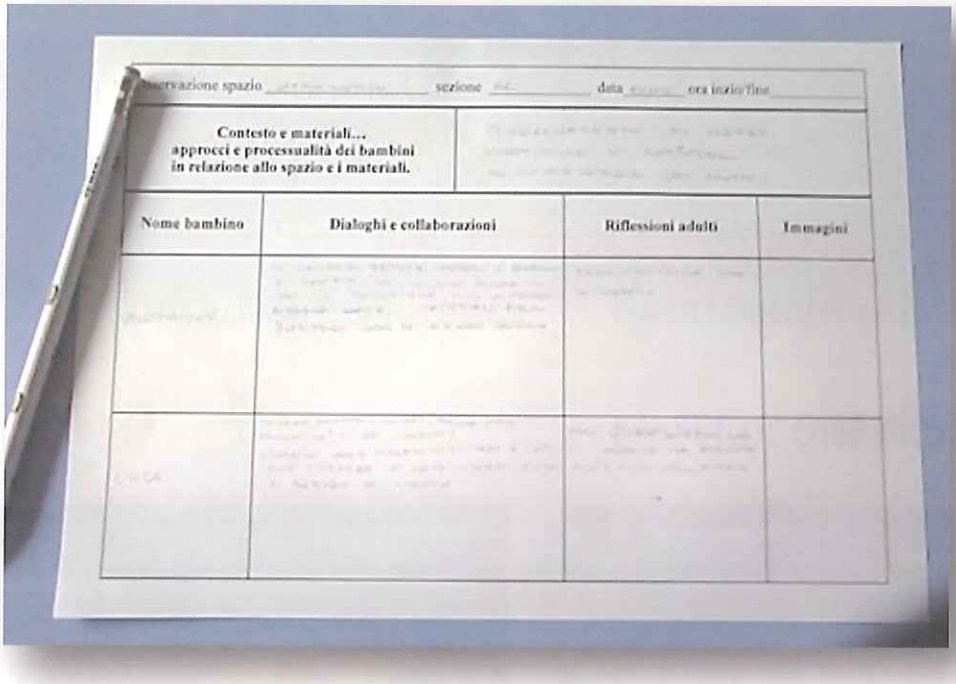


画家になりきって描くこどもたち



こどもが描いた作品

アトリエリスタが残す記録



contesto e materiali→組み合わされた素材
approci e processualita dei bambini→子どもたちの取り組みとその過程
in relazione allo spazio e i materiali→空間と素材の関連性
nome bambino→子どもの名前
dialoghi e collaborazioni→会話や協力
riflessioni adulti→大人の考察
immagini→姿

Remida
（クリエイティブ・リサイクリング・センター）



紡績の芯の廃材



家庭で出た廃品を色別に保管



ギリシャ神話に出てくるミダス王を施設の名前につけられた。
REMIDA→RE（王様）　MIDA（ミダス）
「ミダス王が触れるものはすべて黄金へと変わる」

まとめ

イタリア国内を地域別にめぐると保育事情も様々であり、レッジョ・エミリアにおいては、現在進めているアプローチが結果としてどのような成果をもたらしたかとの判断には、いまだ行き着いていないという結果であった。しかしながら、視察において施設ごとの独創的な取組を知ることができた。

例えば、レッジョ・エミリアの保育現場で働く幼稚園教諭、ペタゴジスタ、アトリエリスタは、子どもの活動を事細かに随時記録し、一つの事柄を完成させる過程で、どのような発想でチャレンジしたかを把握するだけに留まらず、その過程で周りの子どもと関わる様子と、そこから生まれる創造性を深く理解しようとしていた。

そして、その記録について話し合いが定期的に行われ、子どもに対して効果的な援助や改善できる保育内容について、常に模索する姿勢が見受けられた。

さらに、アトリエリスタが考えた保育現場での様々な材料の配置や、光と影を用いた空間づくりは子どもの好奇心を多様に引き出せる環境であった。

海外の保育　ヨーロッパ編
～その２ フィンランド～

―フィンランドの保育―

名古屋柳城短期大学　　水落洋志　山脇眞弓

フィンランドの保育現場

≪保育形態≫
◆1973 年の「児童保育法」第１条１項
家庭委託保育は，施設保育などと同様，法的に同じものであると定められた。

≪目　　的≫
◆児童保育法 第１条２項
「義務教育以前の子どもたちは，発達と学習の可能性を促進させることを，一日の間の必要な時に利用できる持続的な保育をつくりあげることである」
◆保育制度の目標
「子育てという課題に対しての家庭への支援」と「子どものバランスのとれた発達のために家庭と連携すること」






≪保育者の配置≫
3 歳児未満のクラス
①幼稚園教諭１人
②保育士１人
③3 歳児未満は，４人に１人の教員が配置
＊1 クラス８人で担任は２人いる

3 歳児以上クラス
①1 クラス子ども 14 人，教員も２人体制
②特別支援は，子ども５人に１人の教員が配置
③特別支援の傾向のある子どもは，10 人に２人の専門アシスタントが配置
④専門アシスタントは，教師や保護者のアドバイザーも兼任している
⑤特殊教育を受ける子どものために，セラピストによる訓練が行われている


ペリマンニン保育園


シニヴリオ保育園





フィンランドの保育者養成

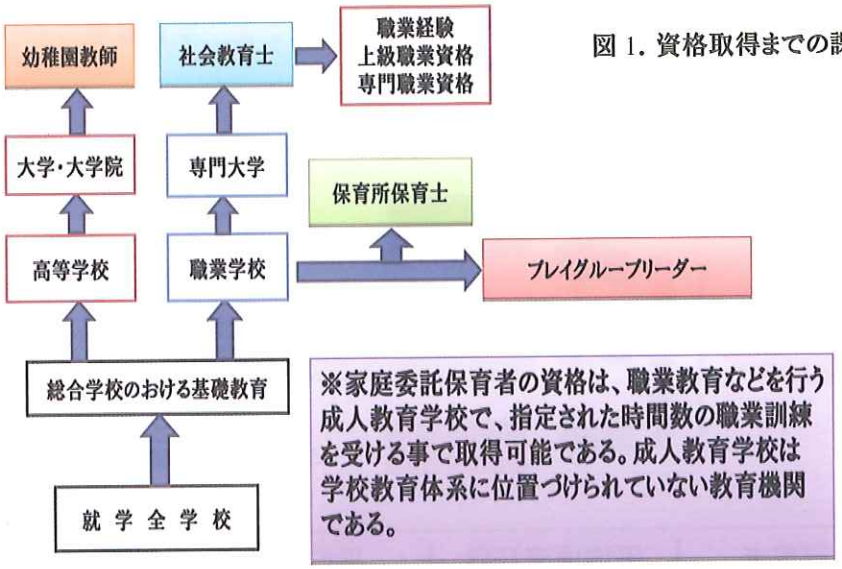


図 1. 資格取得までの課程

◆ 保育士は，高等教育機関で，2～4 年の高等学校または 2～5 年の職業専門学校へと進み資格を取得することから，大学と高等職業専門学校が続いている。

◆ 基礎教育が不十分だとされた場合や，自分のキャリアデザインに時間をかけたいと判断した場合，さらに 1 年間の「ボランティア追加基礎教育」を受けることができる。

◆ 教師は修士号を取得していなければならない（OECD Background Report，2000）。

◆ フィンランドでは，教育課程の中で自己調整学習を促す学習環境づくりを目指した「共同研究プロジェクト」を行っているため，教師の自律性が確保されている。

1．幼稚園教師

・第 2 条「保育は専門の教育や訓練を受けた所定の資格を持つ保育者」

・保育を行う「保育者の資格」についても「社会福祉職の専門職の質に関する法令」の規定

・幼稚園教師の資格を取得するためには，フィンランドのヘルシンキではヘルシンキ大学の 3 年間の課程で教師の資格を取得後，学士課程・修士課程は必須単位で 2 年間で修得する

・さらに上級をめざし博士課程を修得することも可能である。

2．社会教育士

・1996 年より，専門大学の社会科学の分野で，3 年半の職業訓練後に取得できる

・この資格は，日本のソーシャルワーカーに近い資格である。

・業務内容は，幼稚園教師と類似している。

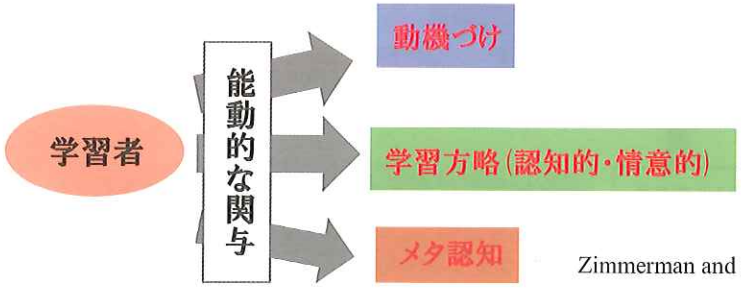
・家庭委託保育のスーパーバイザーを行うこともできる。

・保育施設では，必ず幼稚園教師と保育士がペアで保育を行っている。

フィンランドの保育者の特徴

◎フィンランドでは教育課程の中で，自己調整学習を促す学習環境づくりを目指した共同研究プロジェクトを行っている。

自己調整学習とは・・・



Zimmerman and Schunk, 2001 を改変

対象者	平均保育経験	平均年齢	n数
FIN保育者	16.39 ± 11.08	41.86 ± 12.41	24
JPN保育者	11.24 ± 11.60	33.94 ± 11.18	16
JPN　学生	0	18.95 ± 1.16	180

先行研究（伊藤，1996；伊藤，2003；Zimmerman and Schunk，2001）を参考に，自己調整学習に関する尺度を保育者用に各項目の表現を修正したものを用いた(保育効力感・保育不安・保育認知方略・保育復習/まとめ方略・保育関係づけ方略)。質問項目は，現地語（フィンランド語）に学術論文翻訳業者を通して，ネイティブチェックを受け，事前に現地保育者へ質問項目が理解できるか検討した。

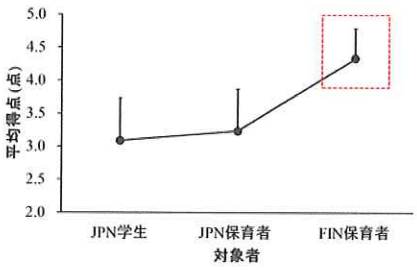


図 2. 保育者効力感

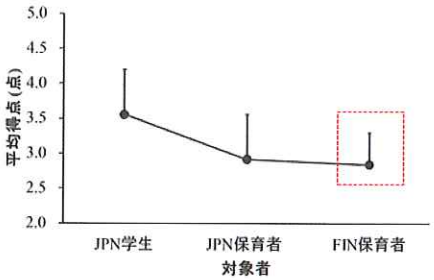


図 3. 保育不安

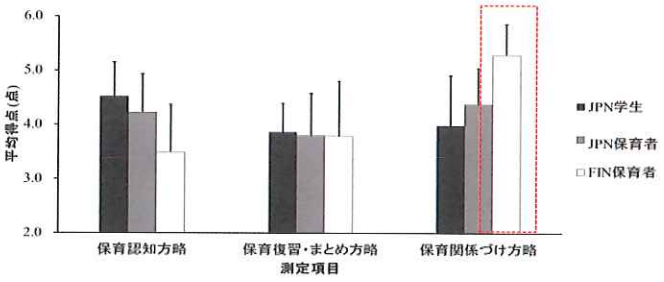


図 3. 保育方略

海外の保育　ヨーロッパ編
～その３ スウェーデン～

― スウェーデンの保育 ―

名古屋短期大学　　野津　牧

スウェーデンの保育制度

１．就学前学校

1996年、スウェーデンの保育は、社会省社会庁の管轄から教育省学校庁の管轄に移され、保育と共に教育が位置付けられ、幼保一体型の就学前学校と呼ばれているコミューンによる運営が89%を占めている。1975年最初の就学前学校法が施行され、6歳児の年間525時間の無償就学前教育（任意制）の権利が確立された。

スウェーデン就学前学校の3原則は、①すべての6歳児に対する半日就学前教育無償保障、②障害児のサービス利用優先、③就労・就学する親を持つ子ども全員の利用保障は、この時期に確立された。

2002年、失業者や就学中の親をもつ子どもの利用権利保障、4、5歳児に対する年間最低525時間の無償教育、保育料金上限制度の導入によって平等性が強化された。

2010年から、無償就学前教育の権利が4歳から3歳に引き下げられた。2009年度の5歳児利用率は5歳児総数の94%に達し、ほぼ義務教育化している。

就学前学校は、学校に規定されているが義務教育ではない。日本の保育所保育指針に当たるものは「就学前学校カリキュラム」（ナショナル・カリキュラム）であり、1998年、学校法に基づき制定され、2010年、同カリキュラムは改訂された。

カリキュラムの特徴は、「就学前学校の重要な任務は、スウェーデン社会が依拠する民主主義的な人権尊重の価値観を定着させることである」として、「就学前学校にかかわる誰もが、人間一人一人の価値を尊重」するとしている。PISAによるスウェーデンの学力低下を背景として、新就学前学校カリキュラムの「目標」では、言語やコミュニケートする能力、数学、自然科学などを強調している。

子どもの自発性を尊重した学びを進めるため、テーマ活動を重視している。子ども自身が調べ学習をおこない、子ども同士で討論して内容を深めている。

国のガイドラインによると、1 クラスの子どもの数は15人から最大でも20人以内、職員配置は各グループ（クラス）に就学前学校教師３人の配置となっている。2006年度の統計では、1 就学前教師に対して平均5.1人の子どもとなっている。

就学前学校の規模は、私立では20人から30人の所も多いが、公立では100人以上の所もある。

子ども一人当たりの基準面積は、ガイドラインで8㎡から10㎡となっているが、最低基準とはなっていない。公立の就学前学校は、一般的に各グループ（クラス）に玄関と着替えスペースがあり、5 部屋程度の保育スペースがあるが、私立の就学前学校は2・3部屋程度のところが多い。いずれも食堂スペースと午睡スペースの寝食分離は原則なされている。

園庭も自己所有の原則がないため、私立の就学前学校では近くの児童公園を利用しているところも少なくない。スウェーデンは児童公園や森なども多いことから、児童公園のそばなどに立地されることが多い。

0 歳児保育も希望があれば受け入れているが、両親のいずれかが育児休業を取得す

るのでほとんど受け入れることはない。

保育時間は、7時から17時くらいの所が多いが、あくまでも保護者のニーズに対応することを基本としているため、夜間、休日保育もコミューンとして対応している。

全ての子どもが利用するわけではないので、保育料は低額だが徴収される。3歳から5歳までは、1週間に15時間、年間525時間までは無料で預けることができる。就学前学校は、家庭の所得の1～3%が負担額とされ、一世帯の子どもの数が1人の場合の負担額は月1,260SEK、第二子は840 SEK、第三子は420 SEKがそれぞれ上限となる。

朝、8時までに登園した子どもには朝食が出る。昼は給食となっている。

保育の実施義務は、コミューンにあるので、4か月以上の待機児童を出してはならないことになっているが、実際には入所まで4か月以上かかる場合もある。現在、4か月以上入所を待機させた場合は、コミューンが一人月額3万SEK（約45万円）を待機させた保護者に支払わなければならないとする法律の準備がなされている。

2．就学前クラス

小学校に入学する1年前は、希望すれば6歳児を対象に就学前クラスに入る。就学前クラスは、多くは小学校の敷地内で実施し、学校教育の一環と位置付けられている。

ノーラゴーデン就学前学校

ノーラゴーデンは、公立の就学前学校である。

ノーラゴーデンのある地区は、住民の約8割が移民または難民が居住する公営住宅の地区とスウェーデン人の住む地区の境にある。

開所時間は、6:30から17:30までで、6:30は2人のスタッフでみて、17:30の時も2人のスタッフで、最後に鍵を閉めて帰る。

建物は平屋なので、全員が交流する機会があり、みんな知っているのでグループが違っても問題ない。子どもは4つのグループだが、現在は3グループに分かれている。

1歳から3歳までの19人のグループ、スタッフは4人いる。





3歳から6歳までの14人の子どもにスタッフは3人、このグループは18人の受け入れが可能であるが、アスペルガー、ダウン症など、特別な支援が必要な子どもを受け入れるために、4人分の枠を空けてある。いつでもその人たちのケアをできるようにしている。

もう一つのグループは3歳から6歳までの16人のグループである。

スウェーデンでは、どのような条件のある子どもでも平等に受け入れなければならない。

教育担当の職員がいて、ナショナル・カリキュラムに沿ってやられているか責任を持つ。1歳から3歳までと3歳から6歳までのグループが教育的にやられているかを確認している。

スタッフは、スウェーデン語以外に、英語、フィンランド語、アラブ語、クロアチア語、ソマリ語、ハンガリー語、トルコ語、

ボスニア語ができる教師を配置している。

子どもたちにも参加する権利があり、自分の意見を言う権利があることから、教師が上目線からやるのではなく、彼らも意見が言えるということを教えなければいけない。

言葉の問題では、保護者と協力して対処している。スウェーデンに来て間がない保護者との話し合いの際の言葉の問題は、通訳をつけるか、親族で話せる人に来てもらう。

または、電話で通訳してもらう（行政に電話通訳サービスのシステムがある）。

ミカエラ・ウォードルフ・バーンステゥーガ





ミカエラ・ウォードルフ就学前学校は、ストックホルム市の南部のセーデルマルム島の南部にあり、ミカエラ・ウォードルフ財団が運営している。

財団は、就学前学校から大学、病院まで財団の理念のもとに運営している。

財団の教育理念は、自然の環境や自然のカラーリングを重視し、子どもの発達のために子ども同士の関係性を重視している。子どもたちには知的活動よりも経験を積んでもらおうということで、スペルや計算は教えないで遊びを通じて学んでいる。

保護者との関係では、ウォードルフの理念については、インフォメーションした上で入所してもらっている。場所も狭いし、他の親がいないほうがよい子どももいるので、親は窓の外から見学してもらっている。外遊びのときは一緒に過ごしてもよいことになっている。

就学前学校は、団地住民の青少年が利用するための施設として建てられたものを財団が借りている。園庭はなく、隣の公園を利用している。住宅地の中にあるが、就学前学校のすぐ裏側は森になっており、湖もある。シカやウサギ、リスなどの動物もたくさん見られる。

公立園と比較すると部屋数は少ないが、本園だけだと3クラスしかないためゆったりとしている。暖色系で統一されており、手作りの木のおもちゃがたくさんきれいに飾って置いてある。

就学前学校に通う子どもは本園と分園合わせて38名で、スタッフは7名。1歳半から3歳までの幼児グループは5名が3グループでスタッフは各1名。3歳から5歳12人の大きいグループが2つあり、スタッフは各2名。調理員が1名にパート2名を雇っている。

園長としての役割は果たしているが園長は置いておらず、全員平等である。昇給は公務員と同じようにあるが、給与は資格のあるなしでは分けているが同じにしている。

1日の生活のリズムを大事にしている。リズムができれば、安心感を与える。子どもたちと一緒に休憩し、昼寝の時も眠りはしないが一緒に横になり、子どもたちと同じリズムで仕事をする。

給食は、できる限り自然のものを使っている。りんごなどは近くのコロニーを園として借りて収穫している。

就学前学校スナックバッケン





スナックバッケンは、株式会社インスピーラがソーレンチューナ市から指定管理を受けている。インスピーラは、従業員 600 人ほどの企業で、スウェーデン国内で 30 ほどの就学前学校を経営している。

特別支援の子どもを対象とした就学前学校で、日本では児童発達支援センターと特別支援学校に近い。

開始時刻は、7 時から 17 時 30 分。

利用している子どもは 110 名で、スタッフは 50 名、1) 普通の就学前学校、2) 聴覚障がいの子どもの就学前学校、3) 特別学校の 3 つの機能がある。

グループは、5 つに分かれており、普通の就学前学校が 2 グループ、1 歳から 3 歳までの聴覚障がいの子どもが 1 グループ、3 歳から 5 歳までの聴覚障がいの子どもが 2 グループである。

株式会社立ということであるが、運営費や職員配置について行政の支援と監視がしっかりしている。

学校は、2 つのことをやらなければならない。まずは知識をつけ、学力を上げること。もう一つは、民主主義を理解すること。子どもたちが、将来、よい市民になるためである。

就学前学校にもカリキュラムがある。7 つの科目があり、1) 自然科学とテクニック、2) 言語とコミュニケーション、3) 民主主義・価値判断、4) 社会とその世界、5) 数学、6) 子ども自身が参加をすること、7) 健康と健康を保つこと、である。

スナックバッケンには、3 つの機関がある。1) 普通の就学前学校で、近くの子どもたちが通っている。2) 聴覚障がいの子どもたち。聴覚障がいの子どもは、まったく聞こえない子ども、少し聞こえる子どもなど 4 つに分かれている。ソーレンチューナ市以外の子どもも通っているが、無料の送迎サービスを使う子どももいる。3) 特別学校。中学 3 年までで、ストックホルム県全体から子どもが来る。

特別学校は、聴覚障がいだけでなく、知的障がい、視覚障がい、完全な視覚障がいと聴覚障がいを持った子ども、自閉症の子ども、いろいろな障がいを持った子どもたちである。聴覚障がいの子どもが、3 歳から 5 歳になると、障がいのない子どもと一緒にすることもある。それから学童保育がある。

110 名の子どもがおり、31 名が聴覚障がいの子ども、特別学校の子どもが 16 人、おおよそ 40 パーセントの子どもが聴覚障がいを持っている。全体の 50 パーセントの子どもは、他の母国語を持っている。

カロリンスカ大学病院・小児病院

アストリッド・リンドグレーン小児病院（Astrid Lindgren Children's Hospital）は、カロリンスカ研究所（カロリンスカ医科大学）にある。

大学は、単科医科大学としては世界最大の医科大学で、ノーベル生理学医学部門の

選考委員会がある。

小児病院は、病棟数は260床である。院内に病棟保育所、院内学級、図書館などを併設している。



病棟保育所は、大小5部屋あり、プレイ・スペシャリストは8名いる。

院内学級は、2名の教師が在籍している。

図書館は、「森の図書館」のイメージでデザインされている。30か国以上の本が置いてあり、図書館にない本は市の図書館から取り寄せることができる。

スウェーデンでは、1977年、入院中の子どもにプレイセラピーを受ける権利を保障し、次の目標を達成する治療プログラムを持っている。1)入院している子ども達にプレイセラピーの遊戯と創造的なアートを試みる機会を与えることで正常で健康的な成長と発達を促進する。2)入院している子ども達の入院生活のストレスを和らげ、心配を解消し、体力を回復するのに役立つ。3)自由で安全な場所でのプレイセラピーの重要性を高める。4)医療スタッフの協力で、入院している子ども達の親や兄弟へのサポートが得られる。5)入院している子ども達や青少年たちにふさわしい院内環境を整える。6)この協会はどの政党、宗教からも中立である。

スウェーデンは、病気の子どもも保育を受ける権利を保障しており、国内の小児病棟のある病院には病棟保育所を設置しており、運営は病院のこども憲章を基本としている。

プレイセラピーは法律で決まっていて、義務教育を受けるように、プレイセラピーを受ける権利を保障しており、法律でプレイセラピーを保障したのは、スウェーデンが最初である。



この病院では、プレイセラピーに従事している者は8人いる。プレイセラピーを受けることができるのは0歳から18歳までである。

月曜日から金曜日までオープンしており、多い時で50人くらいから100人くらい一度に来ることがある。

移民者であれば、文化的背景も言葉も考えなくてはいけない。言葉が分からなければ、中に通訳を入れなければいけない。

海外の保育　オセアニア編
～ニュージーランド～

― ニュージーランドの保育 ―

名古屋短期大学　　髙橋一郎

コンソーシアムより出張で2013年2月に出掛けたニュージーランド訪問を通して、同地における短期大学生の「海外保育実習ニュージーランド」実施の可能性を探った。

同国の最大都市オークランドから南に1時間ほどに位置する中核都市ハミルトンを実習候補地として、訪問中、プログラム実施の際のシミュレーションなどを行った。各関係機関との調整と訪問を経て同年7月に実施するに至った。

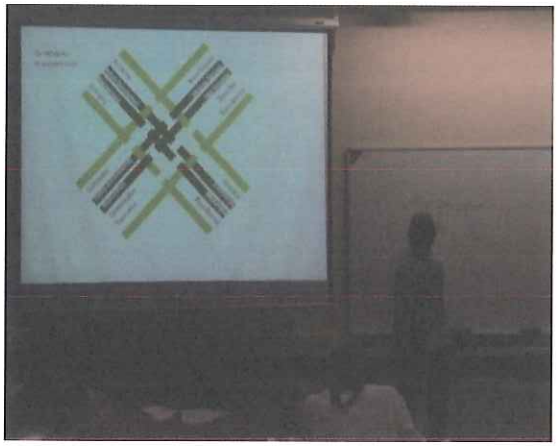
保育のプログラム内容として、ニュージーランドの保育カリキュラムの根幹をなす「テ・ファリキ」を20年前に取りまとめたワイカト大学訪問プログラムを取り入れ、同大学教育学部の先生より学生に講義をしていただき、先進的な保育カリキュラムを学ぶように設定した。

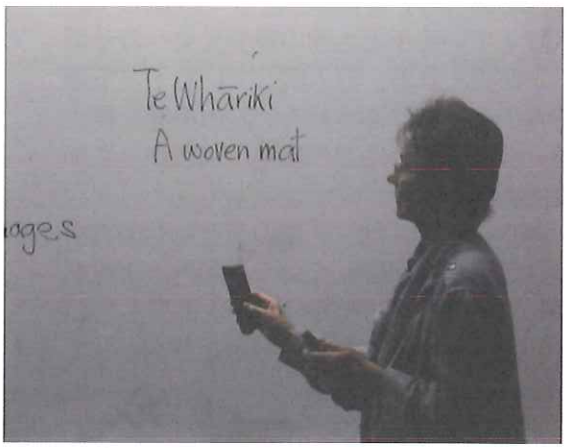
2013年7月、学生15名(名古屋短期大学学生13名　桜花学園大学学生2名)が参加の下、ニュージーランド保育実習が実施された。

2013年以降、改良を重ねて同プログラムは継続実施されている。以下のプログラムが特徴あるプログラムとして継続(追加)実施されている

- 2013　ワイカト大学における「テ・ファリキ」の講義
- 2014　先住民マオリ専用の保育園訪問し園児との交流、先住民専属園の現状を知る
- 2015　障がいを持つ小学校低学年クラスを訪問し、障がいに対する対応施設の現状と教育を見学するプログラム

ワイカト大学におけるマーガレット・カー教授による講義(2013)





先住民マオリの専属保育園訪問(2014)



障がい児施設を訪問し教育環境を視察(2015)



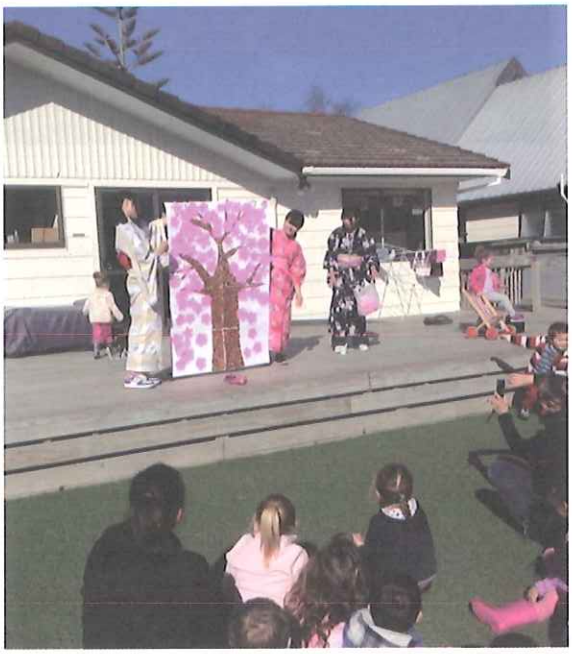
保育実習では実習の最後に発表を行うことにしている。事前準備を得て学生は緊張しながら園児の前に立ち、様々な工夫を凝らしている。

園児と共に桜の木を咲かせよう(2015)



紙皿シアター





完成した桜の花

文化交流プログラムも合わせて実施し、サヨナラパーティーでは日本の盆踊りを学生とホストファミリーが楽しんだ。引率教員は現地ラジオ局でこのプログラムを紹介し、文化交流の意義を話した。

サヨナラパーティー(2015)



地元ラジオ局でプログラムを語る(2014)



現地視察の準備を通して新たに開設し実施した過去 3 回のニュージーランド保育実習により現地保育所との交流が進むと共に学生の海外に向ける視野が広がった。引き続きプログラムの充実に向けて現地との連絡を密にしている。

海外の保育　アジア編
～その１　中国～

― 中国の保育 ―

名古屋柳城短期大学　　荻原はるみ

Ⅰ．なぜ調査対象を中国にしたのか？　　―２つの視点―

①法務省統計局（2012 年）統計より

外国人登録者は 207 万 8480 人。我が国の総人口 1 億 2773 万人の 1.63%にあたる。中国人は 67 万 4871 人（外国人登録者全体の 32.5%）、190 の登録国籍の中で第一位。

名古屋市の住民総数（2011 年現在）218 万 1996 人に対し、外国人登録人員は 6 万 6883 人で名古屋市民の 3.1%にあたる。そのうち中国人は第一位。留学生も他国に比べて著しく多い。幼稚園や保育園においても中国国籍の子どもは多い。

②中国の母親の就業率の高さ

日本：3 歳未満の子供を持つ母親の就業率は 28.5%

3~6 歳未満の子どもを持つ母親の就業率は 48.2%

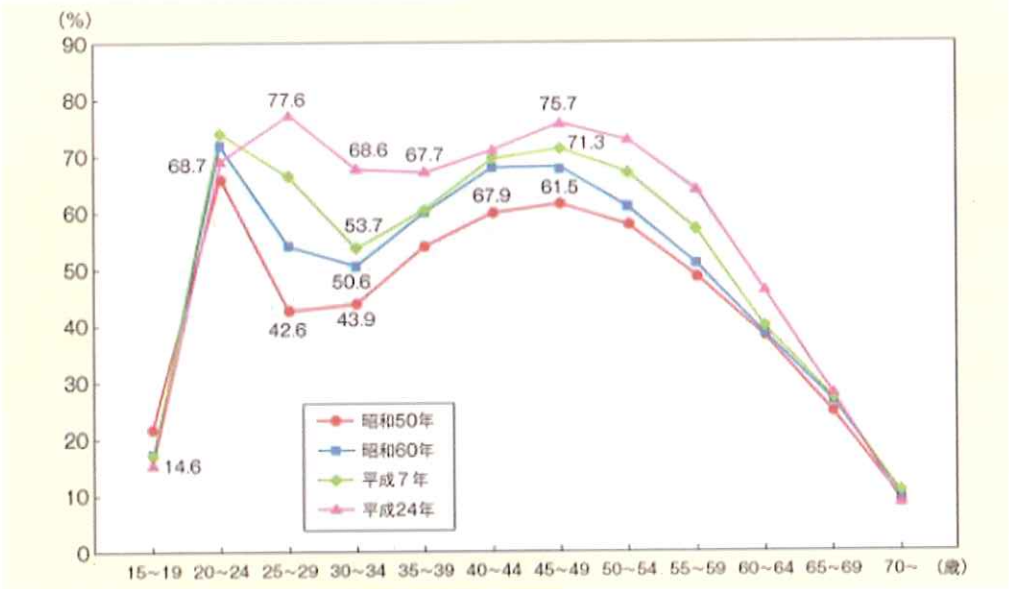
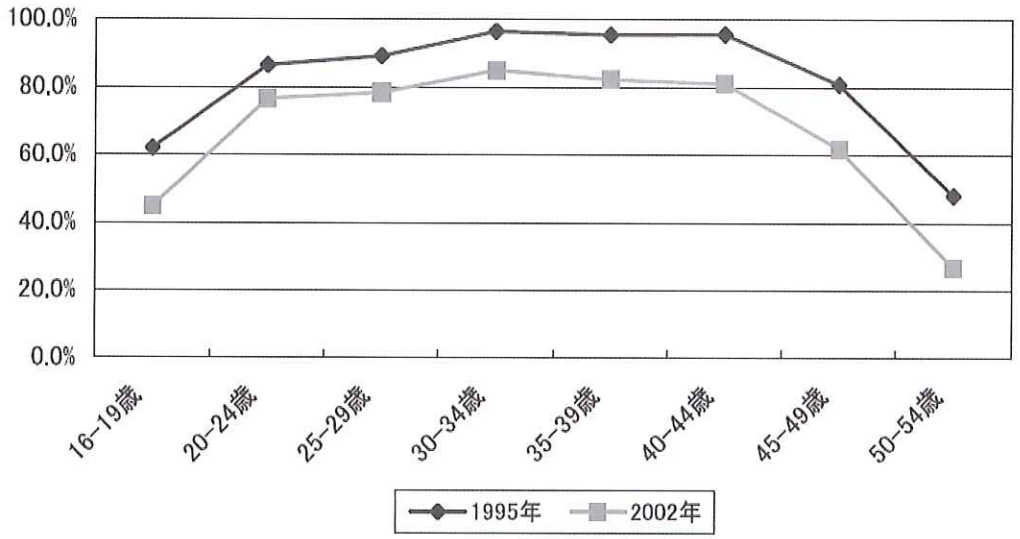


図 1. 日本における女性の年齢階級別労働力の推移（内閣府 H25 より）

日本と同じアジア圏に位置する中国では、全企業人口の 46%を女性が占めており、「女性は天下の半分を支えている」という言葉があるように、女性も大切な労働力とされている。したがって、夫婦共働きの割合が非常に高い（20~49 歳まですべて 80%以上の就業率）。



（資料出所）CHIP1995 および CHIP2002 により馬欣欣が計算

図 2. 中国都市女性における年齢階層別の就業率

Ⅱ. 視察・調査先の中国四川省成都市

	四川省	成都市（省数）	
面積	48.5 ㎢（日本の 1.3 倍）	1.2 万㎢	
人口	8050 万人	総人口	1500 万人
		市人口	800 万人



Ⅲ．幼児園の様子（実験幼児園）

○市一級幼児園

成都市では、成都市教育局が 2012 年に「成都市幼児園格付け実施法」を交付した。

この「実施法」では、児童・教師・施設・課程の 4 つの観点から 112 の評価項目が設置されており、点数によって、「省モデル幼児園」「市 1 級幼児園」「市 2 級幼児園」「市 4 級幼児園」に格付けされる。

○実験幼児園の職員構成と園児数

園　長：　1 名
副園長：　1 名
教　師：　34 名（大学卒）
保育員：　12 名（短大卒）
医　師：　1 名
看護師：　2 名
炊事員：　6 名
雑務員：　4 名
その他：　12 名

合　計：　73 名（女性 66 名、男性 7 名）
園児数：270 名（男児 149 名、女児 121 名）

○幼児園の 1 日のスケジュール

天津幼児園

7:30～ 8:10	登園
8:20～ 8:50	朝食
8:50～11:20	体操・授業
11:20～12:00	昼食
12:00～14:30	昼寝
14:30～15:20	おやつ
15:20～16:20	授業
16:20～17:00	夕食
17:00～17:20	降園

東山実験幼児園

8:00～ 8:40	登園
8:10～ 9:00	朝食（登園後順次朝食）
9:00～ 9:30	朝の準備 トイレ
9:30～11:30	室内・屋外活動
11:40～12:20	昼食
12:40～14:40	昼寝
15:00～15:20	おやつ
15:20～16:50	活動
16:50～17:20	夕食
17:40～18:00	降園

○幼児園教師と保育員

保育員：教師とは認められていない。中等専門学校（高校レベル）で養成されるか、子育てが終わった女性や他の職業を退職した女性が各自治体で開催する衛生局の研修を受けて資格を取得。

幼児園教師：1950 年代当初から教員養成制度に基づいて養成されている。幼児園教師資格を取得したもの。幼児師範学校、幼児師範専門学校や高等専門教育機関の学前教育学科、4 年制の師範大学、就学前教育大学院などで養成される。

○働く母親を支える幼児園

- 送迎：スクールバスまたは祖父母の送迎
- 保育時間：早朝から夕方までの保育
- 食事：朝食、おやつ、夕食の提供
- 長期の休み：春節以外設けていない
  （夏休み・冬休みはない）
- 昼寝用寝具の管理：幼児園で管理
  （持ち帰らなくてもよい）
- 安全面、衛生面、栄養面への配慮
- 教育的なカリキュラム
- 道徳や社会のルールの学び
- カラフルな外観
- 各幼児園の PR
- 1~2 歳児を対象とした親子活動
- 2003 年に育児・保育のスペシャリスト「**育嬰師**」が誕生



祖父母が送迎を担当し、仕事をしている
親の子育て支援をしている



各クラスに配置されている
教師と保育員



欢迎光临、欢迎光临
（いらっしゃいませ、いらっしゃいませ）





食器の回収と分類



「僕を見てみて！」



カラフルな色彩画



一週間の献立メニュー表



お昼寝のベッド



教育カリキュラムの紹介



積極的に学ぶ意欲・自分で考える力を
育てることを目標　スピーチタイム



図書館

○育嬰師とは？

・一人っ子政策（1979~2015.12 月末までの 36 年間）開始以降は、母親の就労と子育てを両立させるために産休明けからの託児所利用が多かった。
・一人っ子政策以降は、父母と両方の祖父母の計 6 人が熱心に育児参加するようになった。または住込みのベビーシッター利用。→託児所利用は急激に低下
・ベビーシッターの多くは農村からの子育て経験のある出稼ぎ女性。祖父母の育児は過保護になりやすく、現代の育児法と異なる。→若い両親から質の問題に対して改善がもとめられていた。

⇩

・「科学的な育児」推進のため、2003 年に育児・保育のスペシャリスト「育嬰師」が誕生
・乳幼児の世話と**看護・教育、親への育児指導**を担当する中国政府による職業資格であり、0~3 歳児の保育・教育の科学的な育児を担う。
・初級、中級、高級の資格

Ⅴ．まとめ

中国の幼児園は働く親を支援するための機能を担っている。中国上海は、2012 年に経済協力開発機構（OECD）が実施した 65 ヶ国・地域の学力到達度調査（PISA）において、「読解力」「数学的リテラシー（応用）」「科学的リテラシー」の **3 分野すべてにおいて 1 位を独占**した。

これらの学力は小学校へ入ってから身につくものではなく、**乳幼児期からの生活の中で培われてきた思考力・判断力・表現力やそれらを育てる教育**が大きく影響していると言えるのではないか？

幼児教育は、生涯教育においてその後の人生の基礎を培う重要な段階と言えるからである。

今回の視察・調査を通じて、日中両国の保育の特徴と良さを確認することができた。

海外の保育　アジア編
～その２　韓国～

韓国어린이집（保育園）における表現活動の研究
—実験的実践によるたたく活動について—

名古屋学院大学　　横井 志保
（＊前名古屋柳城短期大学）
岡崎女子大学　　鈴木 方子

はじめに

韓国では幼稚園教育と保育施設の共通課程であるヌリ課程が 5 歳児において 2012 年度から導入された。

それに続いて満 3,4 歳児においてもヌリ課程が拡大され、2013 年度より実施されている[1)]。幼稚園教育と保育施設の共通課程導入前から伝統文化の伝承の大切さが謳われているが[2)]、ヌリ課程においても明記されている。伝統文化を大切にすることをヌリ課程において位置づけ、国楽の指導を受けている韓国の子どもたちは、日本の子どもたちとは違った、国楽の影響を受けた表現をするのだろうか。

本研究では、ヌリ課程導入からちょうど 1 年経った時点での 5 歳児を対象に、音楽表現に関する内容、殊にリズム楽器を演奏することに焦点を絞り、ヌリ課程「芸術経験」と子どもの表現との関係についてプロセスを追い、分析、考察することを目的とする。

研究方法

対　　象　韓国어린이집（保育園）
議政府市 2 園・ソウル市 1 園 5 歳児

実 践 日　2013 年 2 月 18・19・20 日（22 日：卒園式）
実践経過を共同研究者がビデオで撮影し録画資料とし、子どもの表現の仕方を中心に分析した。動画は他に園長や来園者も撮影しており、それを補助的な資料とした。筆者が子どもへの働きかけ、子どもの表現のサポートを一緒に表現しながら行い、言葉はＰ園では元日本語教師の園長に、N、S 園では日本人の通訳に通訳を依頼した。

使用楽器：　プラスチックの音具中心とし、
他にジャンベ、チャング、
プク、ソゴも時に使用した。
（写真１）



写真１　後列がソゴ・前列がプク

結果と考察

≪実践の概要≫

使用した音具は、現地ソウルの雑貨屋で購入。日本で使用している音具と似た音の出る円筒形のゴミ箱、音色に変化を持たせるため、アルミの入れ物を使用。保育室 or 遊戯室の床に直接座り、実践者を中心として円形 or 対面で行い、「イヨーッホ！」は立って行った。担任や園長が、必要に応じて言葉掛け、サポート。

≪実践の内容≫

①実践者と子どもが１対１で音による会話（写真２、３）





写真２、３　音具との出会い

②実践者または子どものリーダーによるリズムの模倣（写真４）

③タイミングを取り合い、音を合わせる「イヨーッホ！」（写真５）

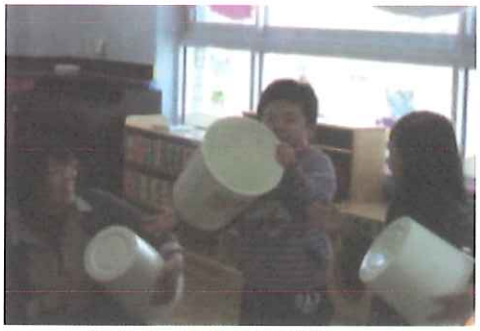


写真４　リズムの模倣



写真５　「イヨーッホ！」「ホッ！」

実践のまとめ

１、これまでの生活や音楽する経験からモノの音のイメージや、音楽の型が作られる。

２、即興で音をやりとりするには一定の段階があるが、模倣が十分でないとそこに留まり、音のやりとりには発展しない。

３、身体の動きを伴った唱歌「イヨーッホ！」は、アンサンブルする時の相手の息遣いやニュアンスをキャッチできる、子どもの「感じ取る力」となる。

まとめ

１、韓国では自国の伝統文化をとても大切にしている

２、自国の文化を礎に他を取り入れる→新たな文化

↓

伝統芸術に関心を持つような指導

３、本物の国楽の楽器の導入　≠　特徴的なリズム表現

参考文献

１）安正恩「日本保育学会国際シンポジウム報告資料」日本保育学会第 66 回大会 2013

２）古市久子他「就学前教育における教育課程の日韓比較研究」大阪教育大学紀要 2002

＊本ポスターは 2013 年度日本乳幼児教育学会において発表したものに基づいている。

海外の保育　アジア編
～その３　ベトナム～

― ベトナムの保育 ―

名古屋短期大学　　野津　牧

ベトナムのストリートチルドレン

ベトナムは、1986年のドイモイ政策による市場開放政策以降、貧富の格差が広がっている。

ベトナムの政府機関の統計では、2003年度のホーチミン市のストリートチルドレンは、7000人から9000人としているが、国際的NGOのSave the Children UKによると、1997年度のベトナム全土のストリートチルドレンは200,000人としている。

路上で生活する子どもたちの中には、宝くじ売り、行商、新聞売りと共に麻薬産業や性産業へ従事している子どももいる。

ベトナムの児童福祉施設

ベトナムの児童福祉施設は、1)政府機関の教育職業訓練センター（CETC）、2)政府公認のNGO組織、3)ベトナムの非公認民間組織、4)海外のNGO組織のものがある。政府機関の施設は、路上で生活している子どもを警察が捕まえ、収容しており、管理が厳しいと言われている。

海外のNGOが、直接施設を運営することが困難で、後者の２つは公的な支援もなく、活動は著しく制限されている。

以下、紹介する施設は、名古屋短期大学保育科の学生がボランティア活動で訪問している民間の施設である。

☆ホーチミン市ストリートチルドレン友の会保護施設（ＦＦＳＣ）

ホーチミン市カトリック団結委員会に所属するNGO団体で、ホーチミン市内の貧しい地域に非正規の８つの学校と１施設を運営している。



また、職業訓練や奨学金による就学支援もおこなっている。

開設者はソイ氏であるが、現在はカトリック団結委員会のシスターが中心となり管理・運営し、ソーシャルワーカー、教師、コーディネーター、日本人ボランティアが実際の業務をおこなっている。

資金援助面では、日本からの支援が80%で、残り20%が他の外国やベトナム人からの寄付となっている。

ビンチュウセンターは、学校と施設が併設されたFFSCの中でも最大の施設で、400名ほどの子どもが利用しており、このうち20名が寄宿舎で生活している。その他、職業訓練として縫製作業をおこなっているが、職業訓練は成人も参加している。

ベトナムの学校の入学条件は、住民票や出生届を出していること、２歳以上学年が離れていないこととなっている。そのため、地方出身の貧しい家庭の子どもは正規の学校に通うことができないことがあり、NGO主催の学校に通っている。正規の卒業資格はもらえないが、卒業資格の認定試験を受けて中学校などに進級することができる。

☆ＳＯＳ子どもの村（児童養護施設）

SOS 子どもの村は、オーストリアに本部がある施設で、ベトナムではホーチミン市郊外の GO VAP 区にある。

200名ほどの子どもたちが20のグループホームに分かれて生活している。ホームは、日本の小規模児童養護施設に該当するが、母親（SOS マザー、日本の保育士に当る）が住み込みで子どもたちの生活をサポートしている。SOS マザーは専門の資格は持っておらず、結婚せず、年齢が上がるとそのまま村に残り生活し、SOS マザーをサポートしている。

併設の小学校があり、地域の子どもも学校に通っている。ホーチミン市内の他の NPO が運営している施設よりも施設･設備とも整っているが、資金確保は困難を極めている。

☆ニ・ス・ニューチェ尼寺の児童養護施設

ホーチミン市第２区は、低所得者の多い地区であり、ニ・ス・ニューチェは尼寺が経営している児童養護施設で、約 200 名の子どもたちが生活している。小中学生は、地域の学校に通っているが、中学を卒業すると男子は就職して施設を出ている。女子は 18 歳までの延長が可能である。

運営は、お寺への寄付金と寺が経営する精進料理のレストランの収益で賄われている。

施設への入所は、子どもを育てることができなくなった保護者が直接施設に依頼する、お寺の門前に子どもを置いていくなどする場合などで、障がい児も含まれる。障がい児の中には２名の重症心身障がい児も含まれており、１名は小頭症、もう１名はポリオの子どもであり、両名とも全面介助が必要である。





週１回、ボランティアの医師が診察しているとのことである。

スタッフは、２名の尼僧と補助スタッフとして 10 名ほどの女性が働いているが、いずれも保育士などの資格は持っていない。

☆ツーズー病院・平和村



ツーズー病院は、国立の産婦人科と小児科の専門病院で、ベトちゃんドクちゃんが生まれた病院として有名である。

病院内にドイツの支援で「平和村」という枯葉剤の被害にあった子どもの施設があり、現在は、枯葉剤の被害者の第２・第３世代が生活している。

病院スタッフとしてドクさんが働いており、日本をはじめとする国際的支援で運営されている。

国際ボランティア活動で何を学ぶか

名古屋短期大学保育科は、2011 年度より、チーム・ベトナムというボランティア団体を結成し、ベトナム民主共和国のホーチミン市のストリートチルドレンの保護施設等を訪問し、国際ボランティア活動を継続している。

8 年間で延べ 660 名が訪問し、この 5 年間の参加者は毎年 100 名を超えている。

1．保育の原点を学ぶ

この企画は、第一に、日本では「子どもの貧困」が問題となっているが、絶対的貧困問題を抱えているベトナムを訪問した学生たちは、生きるということ、学ぶということも困難な子どもたちを支えるNGOの職員や子どもたちから様々なことを学ぶ。また、言葉は通じなくても笑顔と遊びを通して子どもたちとの絆が結べるという、保育の原点を学ぶ機会となる。

2．平和について考える

ベトナム戦争時、米軍は多くの枯葉剤を撒き、現在は第 3 世代の子どもたちが生まれている。二重胎児などの障がい児を支援するため、ベトナム最大の産婦人科のツーズー病院に国際的な支援により「平和村」という施設が作られた。訪問した学生は、ベトちゃんドクちゃんの弟のドクさんと会い、ホルマリン漬けの二重胎児の標本を見て、戦争で傷つくのは子どもたちであり、平和でこそ子どもたちは輝くということを学ぶ。

3．グローバルな視点を学ぶ

愛知県の保育の現場では、ブラジル、中国、韓国、そしてベトナムなどから来た子どもを受け入れている。言語、生活習慣、文化などの違いを相互理解することが大事であるが、言葉の通じない子どもたちを前に、グローバルな視点を学ぶ。

日本ベトナム友好年記念事業に認定

2013 年、名古屋短期大学の“ベトナムの子どもたちとの交流事業”が日本の単独の大学として唯一、日本ベトナム友好年記念事業として認定された。

単位認定をおこなわない国際ボランティア

国際ボランティア活動を実施している大学の多くは単位を認定し、参加者負担を軽減するため、奨学金等の支援をおこなっている。

名古屋短期大学では、活動当初よりボランティア活動は自発的なものであり、単位認定は目指さないこととし、ボランティアサークルという形式で活動を継続している。

4 月に新メンバーを募集し、学習会などをおこない、11 月の大学祭で FFSC の布製品を販売し、収益を訪問時に施設に届けている。

アルバイトのお金を貯めて行ける料金設定としてあるため、4 割以上の学生が全額、残りのうち 4 割が半額の参加費をアルバイトでお金を貯めて参加している。



大学祭の物資販売風



メコンデルタツアー

平成 27 年度

組織と運営

■連携機関

愛知県教育委員会	教育長	野村道朗
愛知県健康福祉部	部長	伊藤輝明
愛知県私立幼稚園連盟	会長	伊藤園子
愛知県私立保育園連盟	会長	鈴木右
愛知県保育士会	会長	久野裕美子

■連携大学

名古屋短期大学	学長	大谷岳
桜花学園大学	学長	石黒宣俊
名古屋柳城短期大学	学長	新海英行
岡崎女子大学	学長	長柄孝彦
岡崎女子短期大学	学長	長柄孝彦

■外部評価委員

大同病院	副院長	水野美穂子
愛知県社会福祉協議会 福祉人材センター	部長	加藤康子
愛知県学童保育連絡協議会	事務局長	賀屋哲男

■運営委員会

名古屋短期大学	教務部長	平野朋枝
桜花学園大学	教務部長	小嶋玲子
桜花学園大学	教務課主任	原田知子
名古屋短期大学・ 桜花学園大学	学務部長	内藤智徳
名古屋柳城短期大学	副学長	菊地伸二
名古屋柳城短期大学	教務課長	種市淳子
岡崎女子大学	学部長	矢藤誠慈郎
岡崎女子短期大学	学科長	鳥居恵治
岡崎女子短期大学・ 岡崎女子大学	図書次長	山本將

■運営協力委員【ステークホルダー】

一般社団法人 愛知県私立保育園連盟	事業部長	田中篤樹 (子宝保育園 園長)
一般社団法人 愛知県私立保育園連盟	就職対策委員会 委員長	藤城智哉 (希望が丘こども園 副園長)

■執行体制

事業代表者	名古屋短期大学 学長	大谷岳
事業推進責任者	名古屋短期大学 教授	高田吉朗
事務執行責任者	名古屋短期大学・桜花学園大学 教育企画部長	式庄憲二
事務執行副責任者	桜花学園 経理課長	河合智幸

(平成28年3月27日現在)

団体属性別サテライト教室利用一覧

2016年3月31日 現在

平成24年度　団体属性別利用人数

団体属性	申請人数	来年度分	キャンセル	合計
hca	0	0	0	0
連携大学	107	0	0	107
ステークホルダー	0	0	0	0
	107	0	0	107

平成25年度　団体属性別利用人数

団体属性	申請人数	来年度分	キャンセル	合計
hca	310	8	0	302
連携大学	672	20	0	652
ステークホルダー	395	190	0	205
愛知県団体	235	50	0	185
名古屋市団体	0	0	0	0
その他大学・団体	1,947	631	243	1,073
	3,559	899	243	2,417

年間利用実績
6.6人/日

平成26年度　団体属性別利用人数

団体属性	申請人数	来年度分	キャンセル	合計
hca	362	0	0	362
連携大学	965	0	0	965
ステークホルダー	510	70	0	440
愛知県団体	385	50	200	135
名古屋市団体	60	0	0	60
その他大学・団体	2,913	195	230	2,488
名古屋市	572	0	330	242
	5,767	315	760	4,692

年間利用実績
12.9人/日

平成27年度団体属性別利用人数

団体属性	申請人数	来年度分	キャンセル	合計
hca	339	0	0	339
連携大学	1,242	0	0	1,242
ステークホルダー	140	0	0	140
愛知県団体	160	0	0	160
名古屋市団体	58	0	0	58
その他大学・団体	625	0	0	625
名古屋市	60	0	0	60
	2,624	0	0	2,624

＊2015/7/7現在
年間利用実績
7.2人/日

平成24～27年度団体属性別利用人数

団体属性	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	累計人数
hca	0	302	362	339	1,003
連携大学	107	652	965	1,242	2,966
ステークホルダー	0	205	440	140	785
愛知県団体	0	185	135	160	480
名古屋市団体	0	0	60	58	118
その他大学・団体	0	1,073	2,488	625	4,186
名古屋市	0	0	242	60	302
	107	2,417	4,692	2,624	9,840

平成 27 年度　会議等開催状況

会議名	開催数
コンソーシアムあいち事務局会議	34
運営委員会	12
実務統括委員会	6
学長会	6
代表者会議	1
保育研修検討会議	3
第2ユニット会議	3
合計	65

4 月

2015/4/2	木	10:00～12:00	27 年度　第 1 回　事務局会議
2015/4/9	木	10:00～12:00	27 年度　第 2 回　事務局会議
2015/4/16	木	10:00～12:00	27 年度　第 3 回　事務局会議
2015/4/23	木	10:00～12:00	27 年度　第 4 回　事務局会議
2015/4/20	月	17:00～20:00	第 1 回　運営委員会
2015/4/23	木	17:30～19:30	第 3 小委員会
2015/4/30	木	17:00～20:00	第 3 小委員会

5 月

2015/5/7	木	10:00～12:00	27 年度　第 5 回　事務局会議
2015/5/7	木	18:00～20:00	第 3 小委員会
2015/5/14	木	10:00～12:00	27 年度　第 6 回　事務局会議
2015/5/15	金	18:00～20:00	第 1 回　実務統括委員会
2015/5/18	月	15:00～17:00	代表者会議
2015/5/21	木	10:00～12:00	27 年度　第 7 回　事務局会議
2015/5/22	金	17:30～19:00	第 3 小委員会
2015/5/28	木	10:00～12:00	27 年度　第 8 回　事務局会議
2015/5/28	木	17:00～19:00	第 2 回　運営委員会

6 月

2015/6/4	木	10:00～12:00	27 年度　第 9 回　事務局会議
2015/6/4	木	18:00～20:00	第 2 回　実務統括委員会
2015/6/11	木	10:00～12:00	27 年度　第 10 回　事務局会議
2015/6/11	木	18:00～20:00	保育士研修検討会議（第 3 プロジェクト）
2015/6/15	月	17:00～19:00	第 3 回　運営委員会
2015/6/18	木	10:00～12:00	27 年度　第 11 回　事務局会議
2015/6/19	金	18:00～20:00	第 3 回　実務統括委員会
2015/6/24	水	17:30～19:00	第 2 ユニット会議

7 月

2015/7/2	木	10:00～12:00	27 年度　第 12 回　事務局会議
2015/7/13	月	17:00～19:00	第 4 回　運営委員会
2015/7/16	木	10:00～12:00	27 年度　第 13 回　事務局会議
2015/7/22	水	17:00～19:00	第 4 回　運営委員会
2015/7/23	木	17:30～19:00	第 2 ユニット会議
2015/7/31	金	13:30～15:00	27 年度　第 14 回　事務局会議

8 月

2015/8/18	火	18:00～20:20	第 4 回　実務統括委員会
2015/8/20	木	17:00～19:00	第 5 回　運営委員会

9 月

2015/9/3	木	13:30～15:00	27 年度　第 15 回　事務局会議
2015/9/4	金	18:15～19:45	第 5 回　実務統括委員会
2015/9/18	金	18:00～20:20	第 6 回　実務統括委員会
2015/9/24	木	10:00～12:00	27 年度　第 16 回　事務局会議
2015/9/24	木	17:00～19:00	第 6 回　運営委員会

10 月

2015/10/1	木	17:30～19:30	保育士研修検討会議
2015/10/8	木	10:00～12:00	27 年度　第 17 回　事務局会議
2015/10/15	木	17:00～19:00	第 7 回　運営委員会
2015/10/22	木	10:00～12:00	27 年度　第 18 回　事務局会議
2015/10/29	木	10:00～12:00	27 年度　第 19 回　事務局会議

11 月

2015/11/5	木	10:00～12:00	27 年度　第 20 回　事務局会議
2015/11/5	木	18:00～19:55	第 8 回　実務統括委員会
2015/11/12	木	17:00～19:00	第 8 回　運営委員会
2015/11/19	木	10:00～12:00	27 年度　第 21 回　事務局会議
2015/11/26	木	10:00～12:00	27 年度　第 22 回　事務局会議
2015/11/27	金	17:00～19:00	第 2 回　第 2 ユニット会議

12 月

2015/12/3	木	10:00～12:00	27 年度　第 23 回　事務局会議
2015/12/10	木	17:00～19:00	第 9 回　運営委員会
2015/12/17	木	10:00～12:00	27 年度　第 24 回　事務局会議

1 月　（平成 28 年）

2016/1/7	木	16:50～18:03	第 5 回　学長会
2016/1/14	木	10:00～12:00	27 年度　第 25 回　事務局会議
2016/1/14	木	17:00～19:00	第 10 回　運営委員会
2016/1/21	木	10:00～12:00	27 年度　第 26 回　事務局会議
2016/1/28	木	10:00～13:00	27 年度　第 27 回　事務局会議

2 月

2016/2/5	金	10:00～12:00	27 年度　第 28 回　事務局会議
2016/2/15	月	17:00～19:00	第 11 回　運営委員会
2016/2/25	木	10:00～12:00	27 年度　第 29 回　事務局会議

3 月

2016/3/3	木	10:00～12:00	27 年度　第 30 回　事務局会議
2016/3/4	金	17:30～19:30	第 6 回　学長会
2016/3/10	木	10:00～12:00	27 年度　第 31 回　事務局会議
2016/3/10	木	17:00～19:00	第 12 回　運営委員会
2016/3/15	火	13:15～15:20	保育士研修検討会議
2016/3/17	木	10:00～12:00	27 年度　第 32 回　事務局会議
2016/3/24	木	10:00～12:00	27 年度　第 33 回　事務局会議
2016/3/31	木	10:00～11:30	27 年度　第 34 回　事務局会議

ま と め

平成24年度に採択された文部科学省・大学間連携共同教育推進事業5年間の「基幹保育者養成プログラム開発のための共同教育事業」の取り組みも残すところあと1年となりました。

3月27日に開催いたしました「第3回シンポジウム」では、これまでの取り組み成果の報告として、3つのユニットの調査研究の成果とその検証結果について大要をご報告いただき、学生参加によるフォーラム、そして海外の保育現場と養成教育の実態調査結果のポスターセッションを開催いただきました。

まだまだ課題はありますが、メインテーマであります基幹保育者の育成を目指した養成教育と卒業後の継続的な研修のための教育課程のスキームと全体像がより明確化されてきましたし、正課外教育や学校間の連携等の方法論についても一定の成果をあげることができたと思います。

さて、本共同事業では時代のニーズに応える基幹保育者養成の先端的プログラム（特にカリキュラム）の開発にありますが、保育をめぐる今日的問題を考えますと、私見ではありますが、例えば、「食文化・環境とアレルギー」についてはすでに着手されているわけですが、「子どもの貧困問題（経済的貧困のみならず、文化的・精神的貧困も含めて）」をはじめ、「発達障害」、「ネット社会の子育て」、「ジェンダーと保育」、さらにすぐれて愛知県ではその必要性が顕著となっている「多文化共生保育」（2016年度名古屋柳城短大で試行）といった現代的な諸問題がカリキュラムの中に位置づけられ、ケーススタディやワークショップ、可能ならばフィールドワークを含む問題解決学習を中心とした主体的・能動的な学習によってアプローチできないだろうか、と一言提案させていただきますが、いかがでしょうか。

さて、私どもの3短大・2大学による連携事業も今日で4年度目が終わります。

本共同事業に貴重なご意見、ご助言を下さったステイクホルダーの先生方と外部評価委員の先生方に改めてお礼を申し上げますとともに、ご多用の中、調査研究等に熱心にご参加、ご協力下さった皆様に心より感謝を申し上げる次第です。

平成28年度は総括的なまとめの年となりますが、ご参加下さった皆様には、さらなるご指導とご協力をお願いしたいと思います。

一言お礼とお願いを申し上げ、本年度「事業報告（シンポジウム）」のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

2016年3月27日

新海 英行（名古屋柳城短期大学学長）

文部科学省平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業
「基幹保育者養成プログラム開発のための共同教育事業」
平成 27 年度　事業報告書
平成 28 年 3 月
発行：保育コンソーシアムあいち
〒456-0002　名古屋市熱田区金山町 1-2-26　ヤガミ金山ビル 6F
TEL：052-678-6161　FAX：052-678-6165
e-mail：hca@nagoyacollege.ac.jp